

薬害問題に対する各大学の取組状況調査結果（令和7年度）

<学部教育における取組状況>

○薬害問題に対する各大学の取組状況の推移（令和2年度～令和7年度）【総表】…………… 1

○医学部医学科

薬害問題に対する各大学の取組状況（医学部）…………… 2

薬害被害について学ぶ授業の実施状況（医学部）…………… 5

① 薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について
取り上げている授業科目名

② 被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目名

薬害被害者の声を直接聞く授業(特別講義など)又は特別講演等の実施状況(医学部)…………… 7

○歯学部歯学科

薬害問題に対する各大学の取組状況（歯学部）…………… 20

薬害被害について学ぶ授業の実施状況（歯学部）…………… 21

① 薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について
取り上げている授業科目名

② 被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目名

薬害被害者の声を直接聞く授業(特別講義など)又は特別講演等の実施状況(歯学部)…………… 22

○看護学部等

薬害問題に対する各大学の取組状況（看護学部等）…………… 27

薬害被害について学ぶ授業の実施状況（看護学部等）…………… 38

① 薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について
取り上げている授業科目名

② 被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目名

薬害被害者の声を直接聞く授業(特別講義など)又は特別講演等の実施状況(看護学部等)…………… 47

○薬学部

薬害問題に対する各大学の取組状況（薬学部）…………… 69

薬害被害について学ぶ授業の実施状況（薬学部）…………… 74

① 薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について
取り上げている授業科目名

② 被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目名

薬害被害者の声を直接聞く授業(特別講義など)又は特別講演等の実施状況(薬学部)…………… 79

<附属病院における取組状況>

○カルテ開示請求の周知状況、医療情報の共有に向けた取組状況…………… 93

○カルテの保存年限運用状況…………… 94

（文部科学省高等教育局医学教育課）

薬害問題に対する各大学の取組状況の推移（令和２年度～令和７年度）【総表】

学部 学科	設置区分 (R7の学部等数)	実施状況	１．薬害被害について学ぶ授業						２．薬害被害者の声を聞く授業（特別講義など）					
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
医学部	国立 (42)	実施している	42	42	42	42	41	42	29	30	31	31	29	29
		検討中	0	0	0	0	1	0	6	5	6	7	7	7
		実施していない	0	0	0	0	0	0	7	7	5	4	6	6
	公立 (8)	実施している	7	8	8	8	8	8	4	4	5	5	5	4
		検討中	0	0	0	0	0	0	1	2	3	3	1	1
		実施していない	1	0	0	0	0	0	3	2	0	0	2	3
	私立 (31)	実施している	31	30	30	30	29	31	16	15	16	19	19	19
		検討中	0	0	0	0	2	0	7	6	7	4	7	7
		実施していない	0	1	1	1	0	0	8	10	8	8	5	5
	計 (81)	実施している	80	80	80	80	78	81	49	49	52	55	53	52
		検討中	0	0	0	0	3	0	14	13	16	14	15	15
		実施していない	1	1	1	1	0	0	18	19	13	12	13	14
歯学部	国立 (11)	実施している	11	11	11	11	11	11	6	6	7	7	7	7
		検討中	0	0	0	0	0	0	3	3	3	4	4	4
		実施していない	0	0	0	0	0	0	2	2	1	0	0	0
	公立 (1)	実施している	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
		検討中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		実施していない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	私立 (17)	実施している	17	17	17	17	17	17	10	10	10	10	10	10
		検討中	0	0	0	0	0	0	3	3	4	4	4	3
		実施していない	0	0	0	0	0	0	4	4	3	3	3	4
	計 (29)	実施している	29	29	29	29	29	29	17	17	18	18	18	18
		検討中	0	0	0	0	0	0	6	6	7	8	8	7
		実施していない	0	0	0	0	0	0	6	6	4	3	3	4
看護 学部等	国立 (42)	実施している	39	40	40	40	41	42	22	25	24	24	23	24
		検討中	2	1	1	1	1	0	2	2	1	2	4	3
		実施していない	1	1	1	1	0	0	18	15	17	16	15	15
	公立 (53)	実施している	45	46	42	44	45	45	10	10	10	9	10	11
		検討中	3	3	3	4	5	6	17	18	14	17	17	18
		実施していない	2	1	6	3	2	2	23	22	27	25	25	24
	私立 (212)	実施している	165	166	172	171	188	194	33	39	40	50	53	60
		検討中	26	18	22	22	12	6	63	52	58	53	51	51
		実施していない	6	17	12	13	10	12	101	110	108	103	106	101
	計 (307)	実施している	249	252	254	255	274	281	65	74	74	83	86	95
		検討中	31	22	26	27	18	12	82	72	73	72	72	72
		実施していない	9	19	19	17	12	14	142	147	152	144	146	140
薬学部	国立 (14)	実施している	14	14	14	14	14	14	13	13	13	14	14	14
		検討中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		実施していない	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0
	公立 (5)	実施している	4	5	5	5	5	5	4	5	4	4	3	4
		検討中	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
		実施していない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
	私立 (62)	実施している	59	60	60	60	62	62	46	51	53	54	59	55
		検討中	0	0	0	0	0	0	2	3	2	1	2	2
		実施していない	0	0	0	0	0	0	11	6	5	5	1	5
	計 (81)	実施している	77	79	79	79	81	81	63	69	70	72	76	73
		検討中	0	0	0	0	0	0	2	3	3	1	3	3
		実施していない	0	0	0	0	0	0	12	7	6	6	2	5

薬害問題に対する各大学の取組状況（令和7年度 医学部）

1. 薬害被害について学ぶ授業の実施
2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）の展開

NO	区分	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
1	国	北海道大学	○	検討中	薬理学Ⅱ、衛生学	
2	国	旭川医科大学	○	検討中	人間と行動（法学）、臨床薬剤・薬理・治療学	
3	国	弘前大学	○	検討中	臨床薬理・和漢薬学	
4	国	東北大学	○	×	外科・麻酔・救急・輸血ブロック、血液・免疫・アレルギー・感染症ブロック、臨床腫瘍ブロック	
5	国	秋田大学	○	×	生活習慣と臨床研究	
6	国	山形大学	○	○	社会医学・医療学	薬害に関する特別講演会
7	国	筑波大学	○	○	クリニカル・クラークシップ準備学習、医学総括、医学の基礎	クリニカル・クラークシップ準備学習
8	国	群馬大学	○	○	臨床薬理学総論	臨床薬理学総論
9	国	千葉大学	○	○	チーム医療Ⅰ（IPEⅠ）、薬理学総論、衛生学、有害事象報告、厚生行政	チーム医療Ⅰ（IPEⅠ）
10	国	東京大学	○	検討中	輸血学実習	
11	国	東京科学大学	○	○	包括医療統合教育	包括医療統合教育
12	国	新潟大学	○	○	統合臨床医学コース（臨床医学入門）	統合臨床医学コース（臨床医学入門）
13	国	富山大学	○	○	医療学入門	医療学入門
14	国	金沢大学	○	○	薬理学、臨床薬理学、感染症学	医薬保健学基礎Ⅰ・Ⅱ、臨床薬理学
15	国	福井大学	○	○	大学教育入門セミナー	大学教育入門セミナー
16	国	山梨大学	○	○	臨床薬理学・薬剤学	倫理学・プロフェッショナルリズム
17	国	信州大学	○	○	臨床実習前集中講義	臨床実習前集中講義
18	国	岐阜大学	○	○	医学概論	医学概論
19	国	浜松医科大学	○	○	医学概論Ⅰ、医療法学Ⅰ	医学概論Ⅰ
20	国	名古屋大学	○	○	臨床薬理学	臨床薬理学
21	国	三重大学	○	×	臨床実習前集中講義	
22	国	滋賀医科大学	○	○	公衆衛生学、薬物医療学	医学概論Ⅱ
23	国	京都大学	○	○	薬理学、社会・環境・予防医学、病理学各論	初年次プログラム（特別講義）「薬禍とは何か」
24	国	大阪大学	○	×	現代の生命倫理・法・経済を考える	
25	国	神戸大学	○	○	薬理学及び臨床薬理学、初期体験臨床実習	初期体験臨床実習
26	国	鳥取大学	○	検討中	医学史、社会環境医学、治療学、臨床医学特論	
27	国	島根大学	○	○	臨床薬理学	臨床薬理学
28	国	岡山大学	○	○	脳神経系（臓器・系別統合講義）	脳神経系（臓器・系別統合講義）
29	国	広島大学	○	○	社会医学	社会医学
30	国	山口大学	○	○	基盤系特別専門講義、臨床薬理学	基盤系特別専門講義
31	国	徳島大学	○	○	基礎医学（1）、臨床実習入門	臨床実習入門
32	国	香川大学	○	○	医療プロフェッショナリズムの実践	薬害被害者の声を直接聞く特別講義
33	国	愛媛大学	○	○	人間と医療、薬物治療・開発学、薬理学	人間と医療
34	国	高知大学	○	×	臨床薬理学	
35	国	九州大学	○	○	薬害	薬害
36	国	佐賀大学	○	○	社会医学・社会法制	医療入門Ⅰ
37	国	長崎大学	○	○	感染系、感染症系、消化器系	医と社会Ⅲ
38	国	熊本大学	○	○	消化器内科学	消化器内科学
39	国	大分大学	○	○	医療倫理学Ⅲ、医療倫理学Ⅲ、皮膚	医療倫理学Ⅲ

NO	区分	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
40	国	宮崎大学	○	検討中	薬理学、薬剤処方・東洋医学	
41	国	鹿児島大学	○	検討中	地域・総合診療・症候、社会医学・予防医学、呼吸器、感覚器	
42	国	琉球大学	○	×	臨床薬理学、皮膚結合組織系、臨床実習(皮膚科)	
43	国	札幌医科大学	○	○	社会学、薬理学	医学概論・医療総論 4
44	公	福島県立医科大学	○	×	薬害から学ぶ	
45	公	横浜市立大学	○	検討中	薬理学、アレルギー・膠原病学、皮膚科学、消化器内科学	
46	公	名古屋市立大学	○	○	医薬看連携地域参加型学習	医薬看連携地域参加型学習
47	公	京都府立医科大学	○	×	薬理学	
48	公	大阪公立大学	○	×	生体と薬物	
49	公	奈良県立医科大学	○	○	社会福祉と医療法規、衛生学・公衆衛生学Ⅱ、薬理学	VOP講座、公衆衛生学 社会フィールド実習
50	公	和歌山県立医科大学	○	○	ケアマインド教育、薬害問題特別講義	ケアマインド教育、薬害問題特別講義
51	私	岩手医科大学	○	○	医療入門、医療と法律	全人的医療基礎講義
52	私	東北医科薬科大学	○	○	薬理学、衛生学、公衆衛生学、医療薬学概論	ハンディキャップ体験演習、医療薬学概論
53	私	自治医科大学	○	検討中	臨床薬理学	
54	私	獨協医科大学	○	○	メディカル・プロフェッショナリズムⅠ	メディカル・プロフェッショナリズムⅠ
55	私	埼玉医科大学	○	○	薬理総論、診療の基本	ヒトの病気コース消化器ユニット
56	私	国際医療福祉大学	○	○	医療プロフェッショナリズムⅢ（発展）	医療プロフェッショナリズムⅢ（発展）
57	私	杏林大学	○	○	生命倫理と医療安全	生命倫理と医療安全
58	私	慶應義塾大学	○	×	薬理学、臨床薬剤学	
59	私	順天堂大学	○	○	薬理－1：薬の作用、医学研究入門Ⅰ	G9-特別講義
60	私	昭和医科大学	○	○	地域医療入門、皮膚・運動器系の病態・診断・治療	地域医療入門
61	私	帝京大学	○	×	医療法学・医療倫理学の基礎、医療法学・医療倫理学	
62	私	東京医科大学	○	○	薬理学、医療倫理	医療倫理
63	私	東京慈恵会医科大学	○	○	医学総論Ⅱ演習	医学総論Ⅱ演習
64	私	東京女子医科大学	○	○	「至誠と愛」の実践学修「薬害を考える」「看護学部生と考える」、S3「治療の基礎」毒物の応用、S3「治療の基礎」薬理学実習	至誠と愛の実践学修 薬害を考える「看護学部生と考える」
65	私	東邦大学	○	○	全人的医療人教育1「倫理」	全人的医療人教育1「倫理」
66	私	日本大学	○	○	社会医学演習	社会医学演習
67	私	日本医科大学	○	○	医事法学、薬物・放射線と生体、呼吸器、消化器	医事法学「薬害の防止に向けて」
68	私	北里大学	○	○	内科学総論（臨床実習入門）	内科学総論（臨床実習入門）
69	私	聖マリアンナ医科大学	○	検討中	薬理学	
70	私	東海大学	○	×	薬理学、臨床病態学	
71	私	金沢医科大学	○	検討中	診療参加型臨床実習「臨床実習準備プログラム」、生体と薬物	
72	私	愛知医科大学	○	検討中	薬理学	
73	私	藤田医科大学	○	×	生老病死の人間学、発生学、人体を構成する物質と化学反応、生体と薬物、ウイルス・寄生虫と感染、膠原病系、臨床研究入門	
74	私	大阪医科薬科大学	○	○	多職種連携論2-医療と専門職	多職種連携論2-医療と専門職
75	私	関西医科大学	○	○	臨床実習入門P4c	臨床実習入門P4c
76	私	近畿大学	○	検討中	医学からみた現代社会と倫理、薬理学	

NO	区分	大学名	1	2	1． に該当する授業科目名	2． に該当する授業科目名又は特別講演名
77	私	兵庫医科大学	○	○	医療安全管理と薬害、医療入門	医療安全管理と薬害、医療入門
78	私	川崎医科大学	○	○	女性内分泌・妊娠、血液・造血器・リンパ系、神経系、呼吸器系、精神系、臨床実習入門	臨床実習入門
79	私	久留米大学	○	検討中	薬理学Ⅰ、薬理学Ⅱ	
80	私	産業医科大学	○	検討中	医療社会学、薬理学、公衆衛生学、医学概論Ⅰ	
81	私	福岡大学	○	×	公衆衛生学、領域別集中講義Ⅱ（公衆衛生学・法医学・セーフティマネジメント）	

合計	1	2
行っている	81	52
検討中	0	15
行っていない	0	14

1.薬害被害について学ぶ授業の実施状況（令和7年度 医学部）

①薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目名

②被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目名

大学名	①②両方	①に該当する授業科目名	②に該当する授業科目名
北海道大学	×	薬理学Ⅱ、衛生学	
旭川医科大学	×	人間と行動（法学）、臨床薬剤・薬理・治療学	
弘前大学	○	臨床薬理・和漢薬学	臨床薬理・和漢薬学
東北大学	○	外科・麻酔・救急・輸血ブロック、血液・免疫・アレルギー・感染症ブロック、臨床腫瘍ブロック	外科・麻酔・救急・輸血ブロック
秋田大学	×		
山形大学	×		
筑波大学	○	クリニカル・クラークシップ準備学習	クリニカル・クラークシップ準備学習
群馬大学	×	臨床薬理学総論	
千葉大学	○	チーム医療Ⅰ（IPEⅠ）、薬理学総論、衛生学、有害事象報告、厚生行政	チーム医療Ⅰ（IPEⅠ）、薬理学総論
東京大学	×	輸血学実習	
東京科学大学	○	包括医療統合教育	包括医療統合教育
新潟大学	○	統合臨床医学コース（臨床医学入門）	統合臨床医学コース（臨床医学入門）
富山大学	○	医療学入門	医療学入門
金沢大学	○	臨床薬理学、薬理学	臨床薬理学
福井大学	○	大学教育入門セミナー	大学教育入門セミナー
山梨大学	○	臨床薬理学・薬剤学	臨床薬理学・薬剤学
信州大学	○	臨床実習前集中講義	臨床実習前集中講義
岐阜大学	○	医学概論	医学概論
浜松医科大学	○	医学概論Ⅰ、医療法学Ⅰ	医学概論Ⅰ
名古屋大学	○	臨床薬理学	臨床薬理学
三重大学	×	臨床実習前集中講義	
滋賀医科大学	○	公衆衛生学、薬物医療学	公衆衛生学
京都大学	○	薬理学、社会・環境・予防医学、病理学各論	薬理学、社会・環境・予防医学
大阪大学	×		
神戸大学	○	薬理学及び臨床薬理学、初期体験臨床実習	薬理学及び臨床薬理学、初期体験臨床実習
鳥取大学	○	医学史、治療学、臨床医学特論	医学史
島根大学	○	臨床薬理学	臨床薬理学
岡山大学	○	脳神経系（臓器・系別統合講義）	脳神経系（臓器・系別統合講義）
広島大学	○	社会医学	社会医学
山口大学	○	基盤系特別専門講義、臨床薬理学	基盤系特別専門講義、臨床薬理学
徳島大学	×	臨床実習入門	
香川大学	○	医療プロフェッショナリズムの実践	医療プロフェッショナリズムの実践
愛媛大学	○	人間と医療、薬物治療・開発学、薬理学	人間と医療、薬物治療・開発学、薬理学
高知大学	○	臨床薬理学	臨床薬理学
九州大学	○	薬害	薬害
佐賀大学	×		
長崎大学	×	感染系、感染症系、消化器系	
熊本大学	○	消化器内科学	消化器内科学
大分大学	○	医療倫理学Ⅲ、皮膚	医療倫理学Ⅲ、皮膚
宮崎大学	○	薬理学、薬剤処方・東洋医学	薬理学

大学名	①②両方	①に該当する授業科目名	②に該当する授業科目名
鹿児島大学	×	地域・総合診療・症候、社会医学・予防医学、呼吸器	
琉球大学	×	臨床薬理学、皮膚結合組織系	
札幌医科大学	○	社会学、薬理学	社会学、薬理学
福島県立医科大学	○	薬害から学ぶ	薬害から学ぶ
横浜市立大学	×	薬理学	
名古屋市立大学	○	医薬看連携地域参加型学習	医薬看連携地域参加型学習
京都府立医科大学	○	薬理学	薬理学
大阪公立大学	×		
奈良県立医科大学	○	社会福祉と医療法規、衛生学・公衆衛生学Ⅱ、薬理学	社会福祉と医療法規、衛生学・公衆衛生学Ⅱ
和歌山県立医科大学	○	ケアマインド教育、薬害問題特別講義	ケアマインド教育、薬害問題特別講義
岩手医科大学	○	医療入門	医療入門
東北医科薬科大学	○	薬理学、衛生学、公衆衛生学、医療薬学概論	薬理学、衛生学、公衆衛生学
自治医科大学	×		
獨協医科大学	○	メディカル・プロフェッショナリズムⅠ	メディカル・プロフェッショナリズムⅠ
埼玉医科大学	×		
国際医療福祉大学	○	医療プロフェッショナリズムⅢ（発展）	医療プロフェッショナリズムⅢ（発展）
杏林大学	○	生命倫理と医療安全	生命倫理と医療安全
慶應義塾大学	○	薬理学	薬理学
順天堂大学	○	薬理－１：薬の作用、医学研究入門Ⅰ	薬理－１：薬の作用
昭和医科大学	○	地域医療入門、皮膚・運動器系の病態・診断・治療	地域医療入門、皮膚・運動器系の病態・診断・治療
帝京大学	×	医療法学・医療倫理学の基礎、医療法学・医療倫理学	
東京医科大学	○	薬理学、医療倫理	薬理学、医療倫理
東京慈恵会医科大学	○	医学総論Ⅱ 演習	医学総論Ⅱ 演習
東京女子医科大学	○	「至誠と愛」の実践学修「薬害を考える」看護学部生と考える」、S3「治療の基礎」毒物の応用、S3「治療の基礎」薬理学実習	「至誠と愛」の実践学修「薬害を考える」看護学部生と考える」
東邦大学	○	全人的医療人教育1「倫理」	全人的医療人教育1「倫理」
日本大学	○	社会医学演習	社会医学演習
日本医科大学	○	医事法学、薬物・放射線と生体	医事法学、薬物・放射線と生体
北里大学	○	内科学総論（臨床実習入門）	内科学総論（臨床実習入門）
聖マリアンナ医科大学	○	薬理学	薬理学
東海大学	×		
金沢医科大学	○	診療参加型臨床実習「臨床実習準備プログラム」、生体と薬物	診療参加型臨床実習「臨床実習準備プログラム」
愛知医科大学	○	薬理学	薬理学
藤田医科大学	○	膠原病系、生老病死の人間学	膠原病系
大阪医科薬科大学	○	多職種連携論2-医療と専門職	多職種連携論2-医療と専門職
関西医科大学	○	臨床実習入門P4c	臨床実習入門P4c
近畿大学	○	医学からみた現代社会と倫理、薬理学	医学からみた現代社会と倫理
兵庫医科大学	○	医療安全管理と薬害	医療安全管理と薬害、医療入門
川崎医科大学	×		
久留米大学	×	薬理学Ⅰ	
産業医科大学	○	医療社会学、薬理学、公衆衛生学、医学概論Ⅰ	医療社会学、薬理学、公衆衛生学、医学概論Ⅰ
福岡大学	×		

2.薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）又は特別講演等の実施状況（令和7年度 医学部）

▼実施学部：81学部52学部

大学名	授業科目名 （特別講義名）又は 講演名	履修年次	講師の立場	取り上げた薬害等の名称	授業を実施するメリット （有意義な点・利点等）	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業等を実施することの効果
山形大学	薬害に関する特別講演会	3年次	未定	未定	被害者の直接の声を聞くことで、安全確保の重要性を強く理解することができる。	普段接する機会のない薬害被害者から直接話を聞くことで、薬害について理解し、医師という職業について改めて考える良い機会となっている。	実施なし
筑波大学	クリニカル・クラークシップ準備学習	4年次	本人	陣痛促進剤事故	薬害被害者から、直接薬害による苦痛（身体的・精神的・社会的）を聞くことができるので、インパクトが強い。 学生が今後このような場面に直面することがあるため、将来医師として、責任意識を強く持つことができる	学生からは、 「将来医療に携わる者として安全性を軽視しない姿勢と患者一人ひとりの声に耳を傾ける姿勢の重要性を再認識した。」 「薬害は過去のものではなく、今後も起こる可能性があるものである。正しい知識をもち、自ら考えて患者と向き合うことができるような医療従事者になることが求められていると感じた。」 といった感想が寄せられた。	実施なし
群馬大学	臨床薬理学総論	3年次	本人	サリドマイド事件	薬害が、被害者本人の身体的健康だけでなく、家族関係や社会との関係にも大きく影響することを実感できる。	実体験の話に強い印象を受ける学生が多い。医師としての責務について改めて考える機会になっている。	実施なし
千葉大学	チーム医療Ⅰ（IPEⅠ）	1年次	本人	サリドマイド	専門職連携教育において薬害が生じていく社会的ダイナミクスを、各職種の（学生の）立場から考察することができる。将来現場で薬害の危険が予測されたとき、専門職としてのふるまい方を考察できる。	学生からは次のような感想が寄せられた。 ・サリドマイド薬害被害者の方の講演会や患者会についての話を聞いて、患者さんが医療従事者に望むことを具体的に理解することができた。 ・「サリドマイド薬害は人災である」という言葉が強く印象に残った。 ・用法や用量によっては毒にもなってしまう薬の扱いに対して、大きな責任があることが分かった。	実施せず
東京科学大学	包括医療統合教育	6年次	本人	薬害一般	患者の立場から生の声を聞くことができ、理解が一層深まること。	総じて有意義との感想を抱く学生が大半だった。	実施なし

大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は 講演名	履修年次	講師の立場	取り上げた薬害等の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業等を実施することの効果
新潟大学	統合臨床医学コース (臨床医学入門)	3年次	本人	HIV感染症	薬物治療には副作用という負の側面が存在し、過去にも薬害という形でたびたび問題となっている。実際に薬害の被害に会われた患者の声を直接聞くことにより、なぜこのような事態が起きたのか、再発をどうすれば防げるのか、学生自身の医学への取り組みを見つめ直す機会となる。	「何かを勉強するにあたって、実際に現地に赴くことや、当事者の話を聞くことができるのは、一番の勉強であるし、貴重なものでした。薬害被害の事実だけでなく、これからの医療を担う自分たちに向けて、望む医師のあるべき姿を聞いて、大変参考になりました。」 「医学の勉強をする上で病気について、文字での情報で知ることとはあっても実際に病気にかかっている人の苦悩、さらに薬物被害の被害者となられた患者さんの苦しみを直接知り、また、想像するようなことはありませんでした。講師の先生の実体験をもとに話された薬物被害の講義は、今まで考えていなかった薬物被害に遭われた患者さんの感情、不安、差別などを考えるいい機会となりました。本講義を経て、医療行為により患者さんに不利益が生じないためにも医療関連の職種で協力していくことで未然に薬物被害を抑えていく社会となること、また薬物被害に遭われた方々の苦しみを理解し、生きていきやすいより良い社会となることを願うとともに、自分自身でもできることは、たとえ小さなことであつたとしてもやっていきたいと思いました。薬物被害に対して、深く考える機会をくれる実体験をもとにした講義をしてくださりありがとうございました。」 以上に代表されるように、授業を受けた全学生が講師の心に共感し、学生自身の医学への向き合い方を考え直す良い機会になっている。	実施なし

大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は 講演名	履修年次	講師の立場	取り上げた薬害等の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業等を実施することの効果
富山大学	医療学入門	1年次	本人	薬害エイズ	薬害の実例を被害者から直接学べるとともに、医療倫理の基本的原則も併せて学ぶことができる。 (基本的原則は次の通り) 1) 患者の立場を一般的に理解する態度を養う。無危害原則。 2) 一歩進んで、患者の悲しみを追体験し、他人の身になって考える態度を養う。善行原則。 3) 無思想性を脱却し、現代社会に対して、批判的に思考できる態度を培う。自律原則。 4) 社会正義の視野を培う。正義原則。 5) 弱者、マイノリティに対する理解。尊厳原則。 6) 友達の質問を聞いて、自分と同世代の人がいかに考えているかを学ぶ。連帯原則。	肯定的に評価できるものである。課題としてレポートを提出させているが、それぞれ皆、薬害が起こる構造について、おおむね理解している。	初学者のうちに、多面的な角度から薬害について、学び考えることができるのは、これから専門教育を受ける上での礎となることが期待できる。
金沢大学	医薬保健学基礎Ⅰ・Ⅱ	1年次	本人	サリドマイド	学生に医療・薬物療法・副作用など考えるきっかけを与えることに繋がり、学修効果が高まる。	医療者として正しい知識を持つこと、患者の気持ちを理解することの重要性を強く認識できた様子が伺われた。	薬害が繰り返されていること、薬害の種類によって患者が受ける影響の違い、国や医療者の対応の違いに気づき多面的な理解につながっている
	臨床薬理学	3年次、4年次	家族	イレッサ			
福井大学	大学教育入門セミナー	1年次	本人	サリドマイド	被害者の方をお招きして直接話を聞くことにより、薬害の被害の大きさ、薬害の原因、実態、被害者やその家族に対する対応の歴史や偏見、人権問題等について具体的に知ることができ、医療従事者として薬害問題にどう向き合うか、考察する機会を得られる。	『薬害について実際の被害者が話をするというのは貴重な機会だと思う。薬害がより現実的に感じることができた。』『サリドマイドによる薬害の概要について学ぶと共に、薬害によって手を失った状態で生を受けたことによる苦悩や辛さについてのお話を拝聴し、薬害というものの恐ろしさと被害者の大変さに心を打たれた。』等の感想が多く寄せられた。また、薬害とエビデンスの関係について考えさせられたとの声もあった。	実施なし
山梨大学	倫理学・プロフェッショナルリズム	3年次	本人	複数の薬害（サリドマイド、HCV、スモン、CJD、イレッサなど）	当事者の声を聴くことにより、薬害及びそれに伴う差別・偏見等についてより理解を深めることができる。	当事者の声を聴くことにより、薬害について関心を持つことができた。また、当時の医師の対応や、被害者の家族の状況等を知り、どのような医療者を目指すのか考える機会となったなど。	実施なし

大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は 講演名	履修年次	講師の立場	取り上げた薬害等の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業等を実施することの効果
信州大学	臨床実習前集中講義	4年次	本人	薬害肝炎	・二度と同じ過ちを繰り返さないために、医学生が単なる過去の出来事（他人事）として捉えるのではなく、どうして被害が出てしまったのか、どうすれば防げたのか、そこに自分がいたら何ができたろうか等を自分事として捉えることができる良い機会であること。 ・被害者から直接話を聞くことによって被害者の痛みや苦しみ、思いを知ることができ、二度とこのような被害者を出さないためにどのように医療に向き合っていくのかを考える良い機会であること。	現時点では未実施のため、回答不可。	該当せず
岐阜大学	医学概論	1年次	本人	アルブミン製剤、免疫グロブリン製剤、血液凝固因子製剤	薬害の歴史、行政等の対応、社会的偏見や被害者の心情等に関する理解を深めることができる。 学生の医療に対する真摯な気持ちを喚起することができる。 医療従事者として、患者との関係や心構えを学ぶことができる。	初めて薬害というものに触れる学生も多くおり、実体験を聞くことで今後の医療従事者となる自身の糧とすることができている。	これまで、様々な薬害被害が繰り返されてきたこと、将来医療従事者となる学生に対し、将来の現場でこのような惨禍を起こさない心構えを学ばせることができる。

大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は 講演名	履修年次	講師の立場	取り上げた薬害等の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業等を実施することの効果
浜松医科大学	医学概論Ⅰ	1年次	本人	HIV	薬害被害者の声を直接聞くことによって、医師となるうえで心構えを学べる機会を創出できる。 実際に受けた差別や偏見がどのようなものか実感させることができる。	学生からは次のような感想が寄せられた。 ・グループワークや被害者の講演を通して、「薬害は他人事ではない」という意識が芽生えた。医療従事者一人ひとりが責任を持って対応することが重要であり、報告を怠らず、少しでも異変を感じたらすぐに相談する姿勢が求められると感じた。 ・被害者の方の「人生をめちゃくちゃにされた」という言葉が心に残った。医療者は人の人生を左右するということを改めて実感し、患者の背景や思いにも寄り添えるような関わりが必要だと学んだ。 ・薬害は制度の欠陥だけでなく、社会的な差別や偏見も関わっていることに気づき、私たち一人ひとりが正しい知識を持ち、学び続ける必要があると感じた。また、未来の医療者として真摯に向き合っていきたいという思いが強くなった。	今年は、HIV薬害であり、今まではワクチンや肝炎についても被害者をお招きしてお話を聞いてきた。一度に多くの方からお話を聞く機会はあまりなく、いろいろな被害があることを認識するためには効果的かもしれない。
名古屋大学	臨床薬理学	4年次	本人	薬害肝炎	被害者の声を直接聞く授業はインパクトがあり、将来の医薬品適正使用の推進や薬害防止に有効である。	感想文を提出させているが、大半の学生が薬害の怖さを実感しており、薬害防止について真剣に考える良い機会となっている。	薬害肝炎以外の薬害については、担当教員が各薬害の概要を講義している。薬害被害者による講義と連続して実施することにより、薬害防止の重要性の認識が高くなっている。
滋賀医科大学	医学概論Ⅱ	1年次	本人	血友病患者への血液製剤による薬害	医学部医学科入学初年次の学生は、血友病、血液製剤や薬害エイズといった単語について、新聞、テレビ等の報道によりキーワード的な知識としては知っているが、それらがどのような病気なのか、どのように感染するのか、日常生活を送るうえでどのような支障があるのか、社会の人々はどのように受け入れているのか等、深く掘り下げて知識を得る機会は少ない。しかしながら、実際の薬害被害者の生の声による特別講義を実施することで、学生の薬害被害の問題について自ら考える機会を得ることができ、将来医師として医療に携わることを想定すると有意義である。	例年、後期に当該特別講義を実施するため、令和6年度は未実施であるが、参考までに令和5年度までの講義実施後の学生へのアンケートにおいては、「医療人を目指すものとしての自覚が深まった。」、「被害者の方への意識を持つことの重要性を認識できた。」、「薬害問題についてさらに深く知ろうという意識が芽生えた。」等、真摯な姿勢による感想が多く、本学としては、当該特別講義の実施が学生にとって極めて有意義なものであったと理解している。	実施なし

大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は 講演名	履修年次	講師の立場	取り上げた薬害等の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業等を実施することの効果
京都大学	初年次プログラム（特別講義）「薬禍とは何か」	1年次	本人	サリドマイド	被害者本人が薬害によって強いられた自分や家族の人生・生活について直接話を聞くことにより、学生には、医療行為がもたらす可能性のある被害について、心に刻む機会になると思われる。	学生たちは真剣な態度で被害者の話に耳を傾けていた。学生からは、薬害の悲惨さを聴き、薬害は人災であり、医療従事者となる責任を喚起されたとの感想が多く見られた。また多くの学生が、この授業が有意義であったと評価している。	実施なし
神戸大学	初期体験臨床実習	1年次	本人	サリドマイド	学生に医療行為の危険性について教えることができる。学生が将来行うであろう医療行為における責任の重さを認識できる。	学生からは、「サリドマイドのような薬害事件は知識や対策が不十分だった過去の過ちという認識だったが、新しい薬や治療法が生み出されている現在において、いつ起こってもおかしくない身近なものだと分かった。」といった感想が寄せられた。	実施なし
島根大学	臨床薬理学	3年次	本人	HIV薬害	将来医療人として活動していく学生に薬害をより知ってもらうことができる点。（学生で言葉だけ知っていても内容まで詳しく知らない学生が多い。被害者の方の苦しみを生の声で聞くことの重要性は大きい。）	良く知らなかった。ショックだった。なぜ悲劇が繰り返されるのか。といった意見が多い。また、自分はそのようなことをしないように常に心掛けていきたいといった意見が多かった。	実施なし
岡山大学	脳神経系（臓器・系別統合講義）	4年次	本人	スモン	将来、医師として薬を処方する立場となる学生に対し、薬害の影響の大きさをリアルに感じさせることができる。また、どのように患者さんと向き合っていくべきかを考えるきっかけとなる。	講義中は患者さんの声を真剣に聞いており、講義後のレポートでも医師としての責任をしっかりと考えるきっかけとなった様子が見える。	実施なし
広島大学	社会医学	3年次	本人	薬害HIV感染、血液製剤によるC型肝炎ウイルス感染、輸血による感染、など	学生が医療の被害者となった患者の声を直接聞くことができ、より身近な問題として考えることができる。	自分が将来医者になった時を想定して、興味を持って聞いているように思う。	フィブリノーゲン、サリドマイド、肝炎など、複数の薬害の講義を行っており、学生にとってより多角的に考えることができる。
山口大学	基盤系特別専門講義	3年次	本人	サリドマイド	薬害の歴史を具体的に知ることができ、学生にとってよい考える機会となっている。	学生からは薬害の被害について真摯に受け止め、医療人として正しい知識を身につけて被害を減らしていきたいという積極的な意見が多くみられた。	毎年、異なる薬害被害のご本人にご講義頂いており、学生は、講師の方との質疑応答を含め、ご当事者の思いを傾聴する姿勢や薬剤の様々な作用、さらに薬害に係る国の救済制度等への認識を深めている。
徳島大学	臨床実習入門	4年次	家族	B型肝炎	薬害被害者から直接話を聞くことによって、薬害の実態やその背景についてより深く考えることができ、医療事故防止の重要性を認識させることができる。	「医療とは病気を治すだけではなく、患者の人生に関わるものだと感じた」、「知識だけではなく、患者の立場になって考え、寄り添うことができる患者にとってより良い医師になりたいと感じた」など、医療人としての自覚が高まったという趣旨の意見が学生から寄せられた。	薬害がおこった際の共通する注意すべき点を理解できる

大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は 講演名	履修年次	講師の立場	取り上げた薬害等の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業等を実施することの効果
香川大学	薬害被害者の声を直接聞く特別講義	5年次、6年次	本人	サリドマイド	薬害被害者本人の声を直接聞くことは、教科書的な講義とは異なるインパクトを与えることができる。また、近い将来医師となった際の責任の重大さ、患者との関わり方などを改めて考えさせる貴重な機会となる。	本人の実体験が心に響いたという声や、対応の遅れが被害を拡大させた事実について考えさせられたといった感想があった。	5年次と6年次において、事例の異なる薬害の特別講義を受講することにより、より理解が深まるとともに、繰り返し聞かせることで薬害防止への意識を高めることができる。
愛媛大学	人間と医療	5年次	本人	予防ワクチンによるB型肝炎	薬害肝炎、B型肝炎感染者の生の声を聞くことで、その実態を具体的に把握してもらう良い機会となった。また、感染当時に医師より言われた一言に傷ついた体験、また精神的に救われた医師の一言、肝細胞がんの治療での様々な社会的負担、などの体験を語っていただき、将来医師になる学生にとって、実際の診療において患者さんの気持ちを考える必要性について理解する良い機会となる。	授業終了後に学生にアンケートを実施し、「今まで患者さんの声を直に聞く機会が無かったので、良かった」、「将来医師を目指す人間として、貴重な経験になった」などの感想が寄せられ、反響の大きさを感じた。	C型肝炎の血液製剤など、薬そのものの健康被害の他、B型肝炎のように薬は問題なくても投与方法などによる集団感染など、様々な薬害があることを知ること、薬害に配慮することと対応することの複雑さを理解できる。
九州大学	薬害	4年次	本人・家族	薬害エイズ、サリドマイド、薬害ヤコブ病、薬害C型肝炎	被害者本人ならびにご家族の人の声、苦しみ、実際に受けた差別の話等を伺うことによって、薬害の真の意味での重要性を学べること。	被害者の声を聞くことができてよかったという声が多い。	それぞれの状況で対応の違い等も認められ、知識をより深めることができる。
佐賀大学	医療入門Ⅰ	1年次	本人	サリドマイド	広い視野からの「薬」や「医療」に関する認識を深めることができたとともに 薬害被害の現状に接することができる。	・薬害については、これまで講義を受ける機会があまりなかったため、実際に被害に遭った方にご自身の体験も含めて詳しくお話を聴かせていただいたことは、とても勉強になった。 ・今後医師として多くの患者さんとコミュニケーションする上では、相手の立場に立って物事を考え、言葉を選んで思いを伝えていくことを心がけたい。 といった感想が学生から寄せられた。	実施なし
長崎大学	医と社会Ⅲ	3年次	本人	サリドマイド	医療職ではない立場の人から見た場合の哲学・倫理・社会観から提訴される問題について、学生が考えることができる。	講義後に学生から講師（サリドマイド薬害の被害者）に個別質問や詳細のお話を伺うなどしており、学生に薬害をより身近に考える機会として機能を果たしていると考えられる。	実施なし

大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は 講演名	履修年次	講師の立場	取り上げた薬害等の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業等を実施することの効果
熊本大学	消化器内科学	3年次	本人	B型肝炎	B型肝炎患者さんの実際の体験談を聞くことができ、患者さんの苦労や社会に存在する差別などを学生にも伝えることができる。	学生からは次のような感想が寄せられた。 ・B型肝炎患者さんの苦悩や努力を知ることができた。 ・法律に基づいたB型肝炎訴訟について知ることができた。 ・社会に存在する差別について知ることができ、今後の対応が重要なことがわかった。	実施なし
大分大学	医療倫理学Ⅲ	2年次	本人	大腿四頭筋短縮症	直接被害者の語りを聞くことで、生活、人生に及ぼす影響の大きさを学生が実感できる。	薬害への理解が深まったとする感想が多い。	実施なし
札幌医科大学	医学概論・医療総論 4	4年次	本人	サリドマイド	薬害被害者の生の声を聞き、副作用被害の結果としての身体的特徴を目の当たりにすることにより、薬害の深刻さが直接学生に伝わる。また、講師の〇〇氏は、サリドマイド以外の薬害の歴史や薬事政策の変遷についても詳しく、薬害に関する基礎から実際の被害まで体系的な知識を得る貴重な機会となっている。	学生は初めて見る薬害被害者の姿に衝撃を受けている。また、薬害を二度と起こしてはならないという自覚を得る格好の機会となっている。	複数の薬害を取りげることにより、薬害を引き起こす製薬過程、薬事行政過程に潜む原因・問題点に視点を掘り下げた考察をすることができる。
名古屋市立大学	医薬看連携地域参加型学習	1年次	本人	薬害エイズ	毎年同じ方に来ていただいております、とても有意義な講演をしていただいている。	真摯に聞いており、質問も活発に出ていた。	実施なし
奈良県立医科大学	VOP講座	2年次	家族	陣痛促進剤	ご家族の話・意見を聞いて、患者家族側の視点を学ぶことができる。医師の適切な対応の仕方を学ぶことができる。	患者の意見を直接聞くことで医師としての対応の仕方等通常の授業だけでは得られない医療人として大切なことを学ぶことができたという反応が多い。	特になし
	公衆衛生学 社会 フィールド実習	4年次	本人	血液凝固因子製剤			

大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は 講演名	履修年次	講師の立場	取り上げた薬害等の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業等を実施することの効果
和歌山県立医科大学	ケアマインド教育	1年次	本人	B型肝炎	薬害問題の現状と現在の対応等について、患者の視点から考える良い機会である。	講義受講前はほとんどの学生が、病気や被害者について知識のない状態であるが、講義後は医療従事者として、病気に対する正しい知識、患者や患者家族に接する際の態度や言動を身につけていきたいなど、学生の意識が高まっている。	薬害の授業を実施することにより、薬害はそれぞれの時代的背景や課題・問題点などが異なるため、しっかりとした説明が必要となるが、よりよき医療人となるための礎とすることができる。
	薬害問題特別講義	6年次	家族	陣痛促進剤			
岩手医科大学	全人的医療基礎講義	1年次	本人	薬害エイズ	薬害エイズの被害者の実体験を聞くことができる。	未成年者として初の日本人HIV感染者として実名を公表し、実際に活動をされている方の生の声を聴くことによって、学生もより身近に薬害を考えることができたとの意見が多かった。また将来、自分たちが担う医療人として、医療とその周辺にある諸問題への関わり方について考える契機として意味のある講義であるとの意見が多い。	実施なし
東北医科薬科大学	ハンディキャップ体験演習	1年次	本人	サリドマイド薬害	実際の薬害被害者の声を聞き、リアルな体験談を聞くことができる点。熱心に話に耳を傾けてくれる。本学では講演後に薬害の防止策についてスモールグループディスカッション（SGD）を実施しており、医学生と薬学生がともに考える機会を設けている。コロナ禍では講演を未実施であったが、その時のSGDの成果物や発表を今年度と比較すると、やはり議論の深み、成果物の質がより良い印象を受けた。	「薬害の発生を予測することは困難であり、初期の対応を誤ると重大な結果を招くこと、その中で医師が果たす役割の重要性を認識でき、いつ自分が同じ立場に立つかもわからないということを効果的に理解できる」、「副作用の報告が上がっていないかなどアンテナを高く張って処方後まで責任を持たなければいけない」、「過ちを犯さないために、過去の事例の原因追及をしていかなければならないのだと実感した」、「私たち医療者は薬害がもたらす甚大な被害を深く理解し、二度と繰り返さないための仕組み作りに全力を尽くす責任がある」等、本演習のねらいを理解しているコメントが多く見られた。	目の前に被害者のご家族本人がいるので、自分も当事者になる可能性を実感できる。
	医療薬学概論	3年次	家族	MMRワクチン			
獨協医科大学	メディカル・プロフェッショナルリズムⅠ	1年次	本人	サリドマイド	実体験に基づいて、学生が将来のあるべき医師像を考え、学修目標に反映できる機会となる。	薬害を知らなかった学生が問題に向き合うことで、自身の将来の医師像を考えるきっかけとなった。	実施なし
埼玉医科大学	ヒトの病気コース消化器ユニット	3年次	本人	B型肝炎等	薬害訴訟の経緯等を、患者さんが自らお話しすることで、薬害が身近な問題であることを理解できる。	薬害について、身近な問題として理解することができたという意見が寄せられた。	実施なし

大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は 講演名	履修年次	講師の立場	取り上げた薬害等の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業等を実施することの効果
国際医療福祉大学	医療プロフェッショナリズムⅢ（発展）	3年次	家族	陣痛促進薬（子宮収縮薬）	実際に体験し、お子さんを失った方からのお話を聞くことで、現実感を持って理解できる。琴線に触れるお話をいただいています。	毎年講師への手紙を書かせていますが、非常に学びの深いものになっています。この事実を共有いただいたことへの感謝、被害者への共感もちろんのこと、自分たち将来医師になる立場として改めて戒める、勉強に励む、ことを伝える内容となっています。	講師からほかの薬害についても触れてお話されていますので、知識としては学んでおります。
杏林大学	生命倫理と医療安全	1年次	本人	サリドマイド	講義だけでは得られない被害者の「生の声」を知ることができ、薬禍および反医療行為の重大性を学生に実感してもらえる。過去の薬害事件の教訓が、社会の仕組みや薬事制度を改善してきた現状を考えるよい機会となる。	薬害被害者の方から直接話を聞くことで、知識が具体的な現実によく理解できるようになった、社会的責任の重要性を感じるとの感想を聞く。薬害事件の風化を防ぎ、同じ過ちを繰り返さないことがいかに重要か、学生から共感を得られた。	実施していない。
順天堂大学	G9-特別講義	4年次	本人	薬害エイズ	被害者から直接その体験と当時の社会情勢を聞くことにより、過去の出来事ではなく、将来の医師、医学研究者として常に意識しておくべきものであることを理解する貴重な機会になったと思われる。	・被害を受けたご本人から直接お話を伺うことができたのは、非常に貴重で深く心に残る経験でした。 ・歴史を学び、未来に生かす責任があることを改めて認識しました。 ・規制の整備や行政の対応の重要性、医師として研究と患者の安全のバランスを常に意識する責任についても深く考えさせられました。 など、学生にとって極めて有意義なものであったと考えられる。	該当しない
昭和医科大学	地域医療入門	1年次	家族	イレッサ	薬害被害者遺族の話を聞くことで、医薬品適正使用の重要性や、医療従事者の責任を深く考える貴重な機会となっている。	講義後アンケートを実施した結果、学生からは以下のような反応が得られた。 「医薬品は病を治すという点がかなりの印象を占めている一方で副作用といったデメリットとももっと向き合っていかなければならないと改めて思った。さらに、医薬品の開発が進められていく中で健康被害が生じないかという点をより重要視したうえで医薬品の開発研究を進めていくべきであると感じた。」	実施なし

大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は 講演名	履修年次	講師の立場	取り上げた薬害等の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業等を実施することの効果
東京医科大学	医療倫理	3年次	本人	薬害エイズ	被害者側の心情や薬害問題が生じた構造にも具体的に触れていただくことで、学生たちが薬害というものを一過的なエピソードとしてではなく、いまでも続き、今後も生じうる問題として捉えることができる。	薬害被害を受けたご本人による講義のため、学生は講師が伝える内容の切実さや薬害の問題性を強く実感できている。また、学生は授業内容から薬害防止における医師の役割を考えることができている。	実施なし
東京慈恵会医科大学	医学総論Ⅱ 演習	2年次	本人	薬害肝炎	医原性疾患、医師の治療で薬害が発生することを知ること、およびC型肝炎が長期にわたって患者の生活に大きな影響を与えることが実感できる。	学生からは次のような感想が寄せられた。 ・薬害の被害に遭われた経験談を聞いて、医師の判断や行動一つがどれだけ患者さんの精神や人生に影響を与えるのかを痛感した。 ・医師には正しい知識や技術に加え、何よりも患者と誠実に向き合う姿勢が求められることを学んだ。 ・薬害事件の授業を通して、医薬品の安全管理の重要性と、それに関わる企業や国の責任の重さを学びました。 ・被害者の苦しみや声に触れ、同じ過ちを繰り返さないために、将来医師として働く際には、正しい知識と倫理観を持つことや記録をその時に正確に取っておくことの大切さを実感しました。	実施なし
東京女子医科大学	至誠と愛の実践学修 薬害を考える「看護学部生と考える」	3年次	家族	イレッサ	実際に薬害にあわれた方のご家族の方のお話を伺うことで、医療者が講義を行うよりも、より実経験を深めることが可能です。講師の先生は、毎年医療者がどうあるべきかを講演いただけるため、これから医療の道にすすむ学生にとって代えがたい経験を得られています。	薬害が教科書の中の知識にとどまらないこと、また薬害、副作用についての情報をご本人・ご家族と共有することの重要性、さらにはその過程で多職種がかかわることの重要性など様々な反響があります。	実施なし
東邦大学	全人的医療人教育1 「倫理」	1年次	本人・弁護士	スモン、サリドマイド、薬害HIV、C型肝炎、薬害ヤコブ病、B型肝炎、ソリブジン、イレッサ	薬害の実態をするとともに、被害者本人から真実の声をきける機会を創出できる。	被害者本人から、実際の経験談を聴けて感銘を受けたという感想が寄せられた。	様々な薬害の総合理解、医療職になる責任感がうえつけられる

大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は 講演名	履修年次	講師の立場	取り上げた薬害等の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業等を実施することの効果
日本大学	社会医学演習	4年次	本人	サリドマイド	薬害当事者の実態を通じて、単なる副反応による被害ではないことを強調されている。	教科書で学んだ薬害の被害を現実のものとしてとらえている。	薬害は繰り返し起こることが理解できる。
日本医科大学	医事法学「薬害の防止に向けて」	2年次	本人	サリドマイド	書籍やDVD視聴だけでは学修が困難な、薬害被害の実情や被害者の考え等について理解を深めることができることが有意義な点として挙げられる。	当該授業に係わるレポートには、前述の当該授業の有意義な点（薬害の実情や被害者の考えの理解促進）を示唆させる学生の感想の記載が多く散見されている。	実施なし
北里大学	内科学総論（臨床実習入門）	4年次	本人	サリドマイド	薬害被害の当事者から直接お話を聞くことができる。その人自身が、何を考え、どう思ってるのかを知ることができる。	今年度は実施前のため、現在はまだありません。	実施なし
大阪医科薬科大学	多職種連携論2-医療と専門職	2年次	本人・弁護士 団弁護士	B型肝炎	医学部、薬学部、看護学部の学生が聴講する3学部合同の講義であり、医師、薬剤師、看護師を目指す学生が薬害被害に合われた患者さまご本人から診断時、治療時などの思いを伺い、その経過の中で各専門職の役割と連携の在り方を考えることができる。	国が安全性よりも経済面を重視したことにより、注射器の使いまわしという現在ではありえないことが起こっていたことや、注射器の使い回しで苦しみ亡くなられた方が多くいることを知り、このような歴史を繰り返してはならないと感じたと感想に記載した学生が多数いた。	実施なし
関西医科大学	臨床実習入門P4c	4年次	本人	サリドマイド	過去の被害、事実を学ぶことで学生への薬害の啓発になり、将来、医師になったときに同様の事例を繰り返さないという意識を持たせることができる。	学生により反応は様々であるが、真摯に被害者の言葉を受け止めようとする学生が多くみられる。	「薬害」にも様々な種類があり、それぞれがたどった経緯などを広く知ることができる。

大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は 講演名	履修年次	講師の立場	取り上げた薬害等の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業等を実施することの効果
兵庫医科大学	医療安全管理と薬害	4年次	本人	スモン	薬害の存在を知り、薬を処方する責任、薬害発生後の医師の行動を考えることができる。	学生からは次のような感想が寄せられた。 ・はじめてその存在を知り驚いた。 ・国、企業、医師の姿勢に問題があると思った。 ・被害者の方のお人柄に感動した（これまでは偏見があった）	次のような多彩な角度から考えることができる。 ・陣痛促進剤（患者さんが我が子を殺すことになる残酷さ） ・スモン（患者さん自身が障害を持つ） ・サリドマイド（服用した母親だけでなく、生まれてくる子供に障害） ・肝炎（患者さん自身が障害を持つ）
	医療安全管理と薬害	4年次	家族	陣痛促進剤			
	医療安全管理と薬害	4年次	本人	サリドマイド			
	医療入門	4年次	本人	C型肝炎			
川崎医科大学	臨床実習入門	4年次	本人	HIV（予定）	臨床実習開始前に患者さんの声を聞くことで 医師としての心構えを持つことができる。	12月実施予定のため学生の反応は確認できていない。	実施なし

薬害問題に対する各大学の取組状況（令和7年度 歯学部）

1. 薬害被害について学ぶ授業の実施
2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）の展開

NO	区分	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
1	国	北海道大学	○	○	薬理学・歯科薬理学Ⅰ・Ⅱ、口腔診断内科学、臨床講義Ⅰ、臨床講義Ⅱ、内科学、フロンティア発展科目（予定）	フロンティア発展科目（予定）
2	国	東北大学	○	○	くすりの科学、社会歯科学、医の倫理・社会の倫理	医の倫理・社会の倫理
3	国	東京科学大学	○	検討中	生体と薬物（薬理学）、包括臨床実習（PhaseⅡ）、包括医療統合教育	
4	国	新潟大学	○	検討中	微生物学Ⅰ、微生物学Ⅱ、薬理学、早期臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅰ	
5	国	大阪大学	○	○	総合歯科学	総合歯科学
6	国	岡山大学	○	検討中	薬理学総論	
7	国	広島大学	○	○	医療倫理学、歯科薬理学Ⅰ	医療倫理学
8	国	徳島大学	○	○	社会と歯科医療	新入生オリエンテーション
9	国	九州大学	○	○	医療系統合教育科目「薬害」	医療系統合教育科目「薬害」
10	国	長崎大学	○	○	薬理学及び同実習	医哲学、医療倫理
11	国	鹿児島大学	○	検討中	全人的歯科医療実践学、微生物学Ⅱ、歯科医療倫理学	
12	公	九州歯科大学	○	○	歯学概論Ⅱ、薬理学・歯科薬理学Ⅰ、薬理学・歯科薬理学Ⅱ、薬理学・歯科薬理学Ⅲ、社会歯科学Ⅲ	歯学概論Ⅱ
13	私	北海道医療大学	○	○	医薬品の科学	特別講義（薬の有害性を知る）【「医薬品の科学」関連】
14	私	岩手医科大学	○	○	歯科医学概論、特別補講、医療と法律	歯科医学概論、特別補講
15	私	奥羽大学	○	○	基礎歯学概論Ⅱ、小児歯科学	総合演習ⅠD
16	私	明海大学	○	○	薬理学、公衆歯科衛生学、医療倫理	医療倫理
17	私	東京歯科大学	○	×	微生物学、衛生学、薬理学、社会歯科学、内科学、病院実習	
18	私	昭和医科大学	○	○	地域医療入門、生体と薬物（薬理総論）	地域医療入門
19	私	日本大学	○	×	医療行動科学Ⅰ、薬理学Ⅰ、薬理学Ⅱ、薬物療法学	
20	私	日本大学（松戸）	○	検討中	歯科学統合演習Ⅵ	
21	私	日本歯科大学	○	検討中	地域口腔保健学、健康科学Ⅰ、歯科薬剤学、臨床実習、感染微生物学、薬物療法学	
22	私	日本歯科大学（新潟）	○	×	薬理学	
23	私	神奈川歯科大学	○	○	臨床医科歯科概論	臨床医科歯科概論
24	私	鶴見大学	○	○	薬物の種類と薬理作用	薬物の種類と薬理作用
25	私	松本歯科大学	○	×	歯科薬理学	
26	私	朝日大学	○	○	薬理学	基礎・臨床歯科学演習（薬害被害者に関する特別講義～薬害被害者の声を聞く～）
27	私	愛知学院大学	○	○	臨床医学（外科Ⅱ）、社会と歯学Ⅲ、歯科医師としてのプロフェッショナリズム	歯科医師としてのプロフェッショナリズム
28	私	大阪歯科大学	○	検討中	歯科薬理学、歯科医療安全管理学、内科学	
29	私	福岡歯科大学	○	○	現代文明論、臨床薬理学、歯科医療管理学	現代文明論

合計	1	2
行っている	29	18
検討中	0	7
行っていない	0	4

1.薬害被害について学ぶ授業の実施状況（令和7年度 歯学部）

①薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目名

②被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目名

大学名	①②両方	①に該当する授業科目名	②に該当する授業科目名
北海道大学	○	薬理学・歯科薬理学Ⅰ・Ⅱ、口腔診断内科学、臨床講義Ⅰ、臨床講義Ⅱ、内科学、フロンティア発展科目（予定）	薬理学・歯科薬理学Ⅰ・Ⅱ、口腔診断内科学、臨床講義Ⅰ、臨床講義Ⅱ、内科学、フロンティア発展科目（予定）
東北大学	○	くすりの科学、社会歯科学、医の倫理・社会の倫理	くすりの科学、社会歯科学、医の倫理・社会の倫理
東京科学大学	×	包括医療統合教育	生体と薬物（薬理学）
新潟大学	○	微生物学Ⅱ、薬理学、臨床実習Ⅰ、微生物学Ⅰ	微生物学Ⅱ、薬理学、臨床実習Ⅰ、早期臨床実習Ⅱ
大阪大学	○	総合歯科学	総合歯科学
岡山大学	○	薬理学総論	薬理学総論
広島大学	○	医療倫理学、歯科薬理学Ⅰ	医療倫理学、歯科薬理学Ⅰ
徳島大学	×	社会と歯科医療	
九州大学	○	医療系統合教育科目「薬害」	医療系統合教育科目「薬害」
長崎大学	○	薬理学及び同実習	薬理学及び同実習
鹿児島大学	○	全人的歯科医療実践学、微生物学Ⅱ、歯科医療倫理学	全人的歯科医療実践学
九州歯科大学	○	歯学概論Ⅱ、薬理学・歯科薬理学Ⅰ、薬理学・歯科薬理学Ⅱ、薬理学・歯科薬理学Ⅲ、社会歯科学Ⅲ	歯学概論Ⅱ
北海道医療大学	○	医薬品の科学	医薬品の科学
岩手医科大学	○	歯科医学概論、特別補講、医療と法律	歯科医学概論、特別補講
奥羽大学	○	基礎歯学概論Ⅱ、小児歯科学	基礎歯学概論Ⅱ、小児歯科学
明海大学	○	薬理学、公衆歯科衛生学、医療倫理	薬理学、公衆歯科衛生学、医療倫理
東京歯科大学	○	薬理学、社会歯科学、病院実習	薬理学、社会歯科学
昭和医科大学	○	地域医療入門、生体と薬物（薬理総論）	地域医療入門
日本大学	×	医療行動科学Ⅰ	
日本大学（松戸）	×	歯科学統合演習Ⅵ	
日本歯科大学	○	地域口腔保健学、健康科学Ⅰ、歯科薬剤学、臨床実習、感染微生物学、薬物療法学	地域口腔保健学、健康科学Ⅰ
日本歯科大学（新潟）	○	薬理学	薬理学
神奈川歯科大学	○	臨床医科歯科概論	臨床医科歯科概論
鶴見大学	○	薬物の種類と薬理作用	薬物の種類と薬理作用
松本歯科大学	○	歯科薬理学	歯科薬理学
朝日大学	○	薬理学	薬理学
愛知学院大学	○	臨床医学（外科Ⅱ）、歯科医師としてのプロフェッショナリズム、社会と歯学Ⅲ	臨床医学（外科Ⅱ）、歯科医師としてのプロフェッショナリズム
大阪歯科大学	×	内科学	
福岡歯科大学	○	現代文明論	現代文明論

2.薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）又は特別講演等の実施状況（令和7年度 歯学部）

▼実施学部：29学部中18学部

大学名	授業科目名 （特別講義名）又は 講演名	履修年次	講師の立場	取り上げた薬害等の名称	授業を実施するメリット （有意義な点・利点等）	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業等を実施すること の効果
北海道大学	フロンティア発展科目 （予定）	5年次	本人・家族	薬害エイズ、スモン、コロナワクチン など全般	学生が被害者の方の生の声を聞け、共感 することができる。薬害エイズの歴史を風化させ ることなく、次世代の歯科医療従事者に確実 に伝えていくことができる。	学生さん達からも、薬害被害当事者からの話だけではなく、一 番近くにいる家族からの話を聞いて、自分に引き寄せて共感 したなどの感想が寄せられ、手前味噌ではありますが、毎回好 評をいただいております。〇〇さんにも学生の感想アンケートを 読んでいただき、フィードバックをしています。	学生が薬剤の使用について、そのメリット、デメ リットを良く考えてから使用するような意識をも つようになっている。
東北大学	医の倫理・社会の倫 理	5年次	本人	薬害肝炎	薬害被害者の声を直接聞く授業の受講を、 倫理観および職業観について深く考え、将来 の歯科医師としての自覚をもつ機会とすること ができる。	多くの学生が、講義を受けて感銘を受けたとの感想を寄せた。 学生の感想の例を記載する。「医療に携わる人間は、免許を とるのがゴールではなく、医療人になった後も日々勉強し、新 たに学ばなければならないと思った。それを怠らなければ、この ような薬害も防げるのではないかと思う。」「今後、歯科医師と なって患者さんの口の中を見る時に、病気を診るのではなく、 患者さんを診るということがいかに大切かということを感じた。」	実施なし
大阪大学	総合歯科学	1年次、5年次	本人	サリドマイド薬害	医療人としての道を歩み始めた1年次学生へ の講義の一環として例年どおり企画する。 薬害被害者等の方の声を直接聞く機会を持 つことにより、医療における安全性の実態と知 識はもとより、医療人としての薬害防止に対す る意識付けを行う。 また、臨床実習開始直後の5年次学生にも 受講させ、臨床の現場における医療の安全に 対する重要性を再認識させる機会となる。	薬害被害者の方から直接話を伺うことで、薬害防止に関し て、医療人および国民の理解と努力が如何に大切かというこ とを再確認することができ、今後の歯科医学教育修得の心構 えを新たにすることができた、など、例年、受講した学生から狙 いどりの感想を得ることができている。	実施なし

大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は 講演名	履修年次	講師の立場	取り上げた薬害等の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業等を実施すること の効果
広島大学	医療倫理学	2年次	本人	サリドマイド	将来歯科医療に携わる学生が、薬害の被害者の方から実体験を聞き、薬害の実態を知ったこと、特に根治療法のないサリドマイド被害で、講演者本人を始め苦しんでいる被害者が多数おられることを知ったことはもちろんであるが、薬害の原因、行政の対応の不備（対応の遅れや不十分な被害者救済措置）、社会、特に製薬会社や医療従事者が加害者となったばかりでなく、中傷や差別を行っていたことについて理解したことは、医療に関わる職に就いた場合、大変役立つと考えられる。	学生全員に授業の感想文を提出させている。ほぼ全員が非常に価値のある授業であったと評価している。主に評価された点は、①薬害の歴史は古く、様々な薬害があることを知ったこと、②薬害がどのようにして起こったか、特になぜ多くの被害者が生まれたかを学んだこと、③薬害の被害者やその家族が、身体への障害のみならず、社会からの差別や偏見によって、大変な苦労をしており、十分な救済措置がとられていない現状を知ったこと、④医療従事者として、薬害は起こりうることを念頭に置いて診療に当たる必要性を学んだこと、⑤不幸にして薬剤の副作用による被害が起こった場合は、被害者の救済に向けた努力を惜しまないことが医療従事者に求められていることを理解したこと、であった。	薬害の種類の違いによって、患者さんの症状の違い、厚生労働省の認可の責任、製薬会社の責任が異なっており、医療人として何ができるのか、何をすべきかを学ぶよい機会となっている。
徳島大学	新入生オリエンテーション	1年次	本人	B型肝炎	生命の尊さを自覚させ、医療事故防止の重要性を認識させる。	医療事故防止の重要性を学ぶ良い機会になっている。	実施なし
九州大学	医療系統合教育科目「薬害」	4年次	未定	サリドマイド薬害、薬害エイズ、薬害ヤコブ病、薬害肝炎に関する講義の中で、差別問題・偏見の問題を扱っている	被害者本人やその家族の生の声、苦しみ、実際に受けた差別の話等を聞くことによって、薬害の真の意味の重大さを知ることができる。	被害者の声を直接聞いて良かったという声が多い。	サリドマイドやC型肝炎など複数の薬害事例を通じて、発生要因を多面的に学ぶことで、薬害への理解を深め、医療従事者としての責任感と薬害防止への意識を高める効果がある。
長崎大学	医哲学、医療倫理	3年次	本人	サリドマイド薬害	学生に薬学被害の現状を認識してもらう。	該当なし	実施なし
九州歯科大学	歯学概論Ⅱ	1年次	本人	サリドマイド	薬害の実態を正確に理解して、対応等について考える機会を与えることができる。	例年、真剣に受講し、患者さんの生の声から薬害というものを考えているようである。	実施なし
北海道医療大学	特別講義（薬の有害性を知る）【「医薬品の科学」関連】	2年次	本人	薬害エイズ	医療における感染の問題、薬害被害者の実情、薬害が生じた原因や責任の所在および医療における差別の問題を学生に考えさせる機会となっている。	講演について、意欲的に聴講している学生がほとんどであり、また終了後の質疑応答も活発に行われている。また、講演内容のまとめと感想を書いたレポートを提出させているが、充実した内容のレポートが多い。	実施なし

大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は 講演名	履修年次	講師の立場	取り上げた薬害等の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業等を実施すること の効果
岩手医科大学	歯科医学概論	1年次	本人	薬害エイズ	薬害エイズ被害者の実体験を直接聞くことができる。	・自分が現場に立った際には、正しい知識と情報を伝え、最善の治療を提供できるようになりたい。 ・テレビや新聞等の情報が全て真実だとは限らないと感じた。 ・家族（親戚等）も大変な苦勞をしており、薬害の被害者のみではなく、その家族にも生活しやすい環境を作ってあげるべきと感じた。 ※実施済みの年度の反応・感想を参考として記入しました。	特になし
	特別補講	1年次	本人	HIV陽性			
奥羽大学	総合演習 I D	1年次	本人	サリドマイド	医療人として、薬害の原因、健康被害、社会的影響を考察する。	未定	実施なし
明海大学	医療倫理	5年次	本人	薬害エイズ、薬害肝炎	最近の医療の現場では、医療水準の向上だけでなく、医療従事者に、高い責任感、人権意識、倫理感、及び危機管理意識が求められるようになっていく。薬害被害者の方の声を直接聞くことによって、学生は、『共感力と倫理観の向上』、『医療過誤やリスク管理の重要性』、及び『薬害問題の歴史と社会の理解』などについての意識が向上するのではないかとと思われる。	「被害者の話を直接聞くことで、その苦しみや困難が実感として伝わってきた。心に深く響いた。」「薬害の恐ろしさを実際に被害に遭った方から聞くことで、言葉では表せない強いショックを受けた。」等の強い衝撃を受けたといった感想を持つ学生がいた。また、「自分が将来医療従事者としての責任を果たすために、薬害を防ぐ努力を惜しまないことを誓いたい。」「患者の安全を最優先に考える姿勢が求められていることを再認識した。」等の責任感の向上につながるような意見を持つ学生もいた。	本学の医療倫理の講義では、薬害エイズ（HIV）の被害者がC型肝炎ウイルスの薬害の被害者でもあるため、1回の講義で、2つの薬害についての講義を受けることになっている。また、本年度からは、サリドマイド薬害事件の被害者による講義も実施している。この事件は、妊婦に処方された薬が胎児に重度の奇形を引き起こしたもので、特に弱者である胎児に対する十分な説明や補償が行われなかった点が問題となっている。複数の薬害事例を学ぶことにより、薬害問題の多様性を理解し、単一の事例にとどまらない広範な知識を得ることができると思われる。また、薬害事例を比較することで、共通する問題点にも気づくことができる。薬害被害者の苦しみが続いていることを学生が認識し、薬害が過去の問題ではなく現在も続いている問題であることを理解することができる。将来、医療従事者になる学生が加害者にならないためにも、薬害を繰り返さないことが重要であると認識することができると思われる。
	医療倫理	5年次	本人	サリドマイド薬害			

大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は 講演名	履修年次	講師の立場	取り上げた薬害等の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業等を実施すること の効果
昭和医科大学	地域医療入門	1年次	家族	イレッサ	薬害被害者遺族の話を聞くことで、医薬品適正使用の重要性や、医療従事者の責任を深く考える貴重な機会となっている。	講義後アンケートを実施した結果、学生からは以下のような反応が得られた。 「医薬品は病を治すという点がかなりの印象を占めている一方で副作用といったデメリットとももっと向き合っていかなければならないなと改めて思った。さらに、医薬品の開発が進められていく中で健康被害が生じないかという点をより重要視したうえで医薬品の開発研究を進めていくべきであると感じた。」	実施なし
神奈川歯科大学	臨床医科歯科概論	1年次	本人	サリドマイド	直接、被害者の方から話を伺うことで、机上の学問ではなく、現実問題として身近に薬害問題をとらえることが出来る。	学生からは次のような感想が寄せられた。 ・薬害事件は決して過去の出来事ではなく、今後も起こり得ると感じました。 ・常に最新の知識を学び続けること、そして疑問を持つ姿勢を大切にしたいです。 ・薬害を通して、多くの学生が医療従事者としての責任の重さを実感し、医療の正しい使い方の重要性や、職務に対する覚悟の必要性を学びました。	実施なし
鶴見大学	薬物の種類と薬理作用	2年次	本人	H I V、薬害エイズ	・薬害被害者のこれまでの経験した被害、現状、原因と対策等これからの問題点がご本人の生の声として聞くことができる。 ・薬剤を処方する医療従事者の責任について、学生の理解が進んだ。また、患者さん側に立つ医療の重要性についても認識できる。	生の声を聞くことで非常に勉強になった、という感想が毎年多く寄せられている。	他の薬害についても問2に記入した授業中に学んでおり、試験問題としても扱っており、知識の定着を目指している。
朝日大学	基礎・臨床歯科学演習（薬害被害者に関する特別講義～薬害被害者の声を聞く～）	4年次	本人	サリドマイド	薬害問題の実態に関して、その被害者本人から生の声を聞くことで、その被害や言われ無き偏見・差別の実態、社会としての対応のあり方のみならず、医療従事者として患者に寄り添う意識を一層高めるとともに、薬の為害性や倫理観についても理解を深めることができる。	「日々新しく薬が開発される中で、正しい知識のもと、情報を精査する力を身に付ける必要があると感じた」、「薬害に対する恐ろしさ、薬害被害者本人との意思疎通方法、薬害被害者の家族の気持ち等を改めて考えることができた」、「薬害被害者ご本人が話された「薬害を起こすのは薬剤ではなく「人」であるということ」の言葉が印象に残った」等の感想が聞かれた。	実施なし

大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は 講演名	履修年次	講師の立場	取り上げた薬害等の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業等を実施すること の効果
愛知学院大学	歯科医師としてのプロ フェッショナリズム	1年次	本人	薬害C型肝炎	薬害の被害にあわれたご本人から直接お話を うかがうことで、学生が患者中心の医療の大 切さに気づくことができ、学生の授業に対する 受講態度が良好になる。 また、授業終了時(後)に学生からの疑問点に ついて、後日、授業担当者から講師(薬害 被害者本人)に確認することができるため、 学生へのフィードバックが効果的に図ることが できる。	学生からは次のような感想が寄せられた。 ・国は責任を持って、治療体制の確立、生活支援を今後も 続けるべきだと感じた。 ・肝炎は予防接種での注射器の使い回しや輸血、血液製剤 といった医療行為を介して感染する、という問題は医療従事 者を目指す自分にとって重大な問題だと感じた。 ・絶対に薬害が起こらないよう、医療者は、十分に気をつけて 行くことが大切であると考え。薬害が起こらないようにするた めには、薬の使い方、医療器具を使うときに感染に十分に注 意して、患者さんに使っていくことが大切である。	実施なし
福岡歯科大学	現代文明論	1年次	本人	C型肝炎	薬害を受けた方の意見を聞くことにより、被害 者を深く理解することなどを通して、医療人とし て必要なプロフェッショナリズムが身につく。	「薬害について理解が深まった」、「被害者感情についての感 想」および「政府の対応への疑問」という内容の記載が多くみ られた。	これまでの薬害被害事例を学ぶことを通して、 将来医療関係に従事する際に、同様の事例 を発生させないという意味が醸成される。

薬害問題に対する各大学の取組状況（令和7年度 看護学部等）

1. 薬害被害について学ぶ授業の実施
2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）の展開

大学名	学部学科等名	1	2	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演
北海道大学	医学部保健学科看護学専攻	○	×	成人看護学援助論Ⅰ、母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅱ	
旭川医科大学	医学部看護学科	○	検討中	人間と行動（法学）、公衆衛生看護活動論Ⅰ	
弘前大学	医学部保健学科看護学専攻	○	○	薬理学	薬害防止に関する講演会（講演テーマ：薬禍サリドマイドから学ぶ（仮））
東北大学	医学部保健学科看護学専攻	○	×	臨床薬理学	
秋田大学	医学部保健学科看護学専攻	○	○	薬理学	薬理学
山形大学	医学部看護学科	○	○	生命倫理	生命倫理（薬害被害者による特別講演会）
筑波大学	医学群看護学類	○	○	看護生命倫理	看護生命倫理
群馬大学	医学部保健学科看護学専攻	○	×	臨床医学総論、基礎医学Ⅲ（薬理学）	
千葉大学	看護学部看護学科	○	○	連携協働実践Ⅰ、病態生理学Ⅰ（病理学総論）	連携協働実践Ⅰ
東京大学	医学部健康総合科学科	○	×	長期ケア看護学	
東京科学大学	医学部保健衛生学科看護学専攻	○	○	薬理学Ⅰ、薬理学Ⅱ、特別講義「薬害被害に関する特別講演」（仮）※看護学専攻においては薬理学Ⅰ及びⅡの関連講義として実施。、性と生殖と健康と看護、周産看護学Ⅰ、周産看護学Ⅱ	特別講義「薬害被害に関する特別講演」（仮）※看護学専攻においては薬理学Ⅰ及びⅡの関連講義として実施。
新潟大学	医学部保健学科看護学専攻	○	○	医療の倫理、疾病の原因と成り立ち、治療法概説、疾病の予防と治療、病態論、助産学特論	助産学特論
富山大学	医学部看護学科	○	○	医療学入門、母性看護学総論、母性看護論	医療学入門
金沢大学	医薬保健学域保健学類看護学専攻	○	○	臨床薬学論、医薬保健学基礎Ⅱ	臨床薬学論、医薬保健学基礎Ⅱ
福井大学	医学部看護学科	○	○	大学教育入門セミナー	大学教育入門セミナー
山梨大学	医学部看護学科	○	○	保健学	医療チームの中の看護（医学科看護学科合同授業）
信州大学	医学部保健学科看護学専攻	○	○	健康科学概論	健康科学概論
岐阜大学	医学部看護学科	○	○	医学概論	医学概論
浜松医科大学	医学部看護学科	○	○	医療概論、医療法学Ⅰ、臨床薬理学	医療概論
名古屋大学	医学部保健学科看護学専攻	○	×	公衆衛生学	
三重大学	医学部看護学科	○	×	看護倫理	
滋賀医科大学	医学部看護学科	○	○	薬物治療学、保健医療行政論、診断と治療Ⅰ	保健医療行政論
京都大学	医学部人間健康科学科	○	×	薬剤・薬理学概論	
大阪大学	医学部保健学科看護学専攻	○	×	現代の生命倫理・法・経済を考える、薬理作用と臨床適用	
神戸大学	医学部保健学科	○	○	薬と生体反応、感染看護論、看護管理論、周産母子健康障害論、疾病の成り立ちと治療Ⅳ（こども）、新生児健康障害論、公衆衛生学	初期体験実習

大学名	学部学科等名	1	2	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演
鳥取大学	医学部保健学科看護学専攻	○	○	くすりと作用、病の体験と医療	病の体験と医療
島根大学	医学部 看護学科	○	×	病理学の基礎、薬理と薬剤、地域看護学活動論、小児看護学援助論	
岡山大学	医学部保健学科看護学専攻	○	×	臨床薬理学	
広島大学	医学部保健学科看護学専攻	○	○	周産期健康障害看護	周産期健康障害看護
山口大学	医学部保健学科看護学専攻	○	×	臨床薬理学、基礎看護方法論Ⅱ、基礎看護方法演習Ⅱ、小児保健医療論	
徳島大学	医学部保健学科看護学専攻	○	○	看護技術Ⅲ(診療の補助)、学校保健論	薬害講演
香川大学	医学部看護学科	○	○	看護薬理学	薬害被害者の声を直接聴く特別講義
愛媛大学	医学部看護学科	○	○	医療被害と看護	医療被害と看護
高知大学	医学部看護学科	○	検討中	薬の効用と看護	
九州大学	医学部保健学科看護学専攻	○	○	医療系統合教育科目「薬害」	医療系統合教育科目「薬害」
佐賀大学	医学部看護学科	○	○	コミュニケーション論、臨床薬理学	コミュニケーション論
長崎大学	医学部保健学科看護学専攻	○	×	看護倫理	
熊本大学	医学部保健学科看護学専攻	○	○	臨床薬理学、病理学Ⅰ、感染看護学	薬害被害講演会【特別講演会】
大分大学	医学部看護学科	○	×	保健学	
宮崎大学	医学部看護学科	○	検討中	臨床薬理学	
鹿児島大学	医学部保健学科看護学専攻	○	×	解剖生理学Ⅰ、病理学総論	
琉球大学	医学部保健学科	○	×	保健福祉政策論、薬理学	
札幌医科大学	保健医療学部看護学科	○	○	看護学概論、社会と健康史	社会と健康史
札幌市立大学	看護学部看護学科	○	×	臨床薬理学	
名寄市立大学	保健福祉学部看護学科	○	×	公衆衛生看護学概論、感染微生物学、統計学、公衆衛生学、成人看護学概論、臨床治療学Ⅰ、地域看護学概論、地域看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅰ	
旭川市立大学	保健福祉学部保健看護学科	検討中	×		
青森県立保健大学	健康科学部看護学科	○	×	感染免疫学、母性疾病治療論、成人看護援助論Ⅲ、看護関係法規	
岩手県立大学	看護学部看護学科	○	×	感染免疫学、薬理代謝学、感染看護学、生物学の世界、臨床病態治療学	
宮城大学	看護学群看護学類	○	×	薬理学	
山形県立保健医療大学	保健医療学部看護学科	○	×	臨床薬理学、生殖遺伝学	
福島県立医科大学	看護学部看護学科	○	×	病理学、病態診断治療学、地域看護学Ⅱ	
茨城県立医療大学	保健医療学部看護学科	○	検討中	衛生・公衆衛生学	
群馬県立県民健康科学大学	看護学部看護学科	○	検討中	環境科学、人間集団と健康（疫学）、地域健康看護学各論Ⅱ、保健医療チーム連携論Ⅰ	
埼玉県立大学	保健医療福祉学部看護学科	○	検討中	看護薬理学	
千葉県立保健医療大学	健康科学部看護学科	○	×	病態学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅱ	

大学名	学部学科等名	1	2	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演
東京都立大学	健康福祉学部看護学科	○	○	慢性期看護学演習、母性看護学概論、周産期学、母性看護学演習、公衆衛生看護学概論、総合臨地看護学実習（在宅）、精神看護学演習	慢性期看護学演習、慢性期看護学演習
神奈川県立保健福祉大学	保健福祉学部看護学科	○	×	看護倫理、人権・ジェンダー、精神保健看護学Ⅱ、小児看護学Ⅱ、公衆衛生看護活動論、成人看護学（慢性期）Ⅱ	
川崎市立看護大学	看護学部看護学科	○	×	臨床薬理学	
横浜市立大学	医学部看護学科	○	○	看護倫理学、感染看護学	感染看護学
新潟県立看護大学	看護学部看護学科	検討中	×		
富山県立大学	看護学部看護学科	○	検討中	薬理学、感染看護学	
石川県立看護大学	看護学部看護学科	検討中	検討中		
公立小松大学	保健医療学部看護学科	○	○	保健医療福祉法制度論	保健医療福祉法制度論
敦賀市立看護大学	看護学部看護学科	○	検討中	臨床薬理学、公衆衛生学、保健医療福祉行政論、看護倫理学、看護学概論、感染症学	
福井県立大学	看護福祉学部看護学科	○	○	臨床薬理学	臨床病態学Ⅱ
山梨県立大学	看護学部看護学科	○	×	疾病治療総論	
長野県看護大学	看護学部看護学科	検討中	検討中		
岐阜県立看護大学	看護学部看護学科	○	×	日本国憲法（法と人権）、環境保健学	
静岡県立大学	看護学部看護学科	×	×		
愛知県立大学	看護学部看護学科	○	×	病因論	
名古屋市立大学	医学部保健医療学科看護学専攻	○	○	疫学・保健統計学Ⅰ	疫学・保健統計学Ⅰ
三重県立看護大学	看護学部看護学科	×	×		
滋賀県立大学	人間看護学部人間看護学科	○	検討中	生命・人間・倫理、人間と病気、微生物学／免疫学、看護管理学、基礎看護技術Ⅲ（フィジカルアセスメント・臨床看護）、災害看護学、差別と人権（同和問題）	
京都府立医科大学	医学部看護学科	○	×	看護と法律	
大阪公立大学	看護学部看護学科	○	○	看護学概論	看護学概論
兵庫県立大学	看護学部看護学科	○	×	感染免疫学、成人健康看護論（急性）	
神戸市看護大学	看護学部看護学科	検討中	検討中		
奈良県立医科大学	医学部看護学科	○	×	社会福祉と医療法規	
和歌山県立医科大学	保健看護学部保健看護学科	○	○	ケアマインド教育、慢性期病態学Ⅰ、基礎薬理学	ケアマインド教育
島根県立大学	看護栄養学部看護学科	○	×	成人看護学援助論Ⅰ（慢性・終末期）	
岡山県立大学	保健福祉学部看護学科	○	検討中	病理学	
新見公立大学	健康科学部看護学科	○	検討中	薬物乱用の防止	
県立広島大学	保健福祉学部保健福祉学科看護学コース	○	検討中	看護倫理	

大学名	学部学科等名	1	2	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演
山口県立大学	看護栄養学部看護学科	○	検討中	看護倫理	
下関市立大学	看護学部看護学科	検討中	検討中		
周南公立大学	人間健康科学部看護学科	○	○	看護学概論	看護学概論
香川県立保健医療大学	保健医療学部看護学科	○	検討中	疾病と治療Ⅱ、臨床薬理	
愛媛県立医療技術大学	保健科学部看護学科	○	検討中	薬と健康	
高知県立大学	看護学部看護学科	○	○	医学の世界、グローバル社会と看護Ⅰ、人体のしくみの乱れⅡ、治療学総論、グローバル社会と看護Ⅱ、治療援助論、母性の健康と看護、病態と治療Ⅰ、健康管理論、地域の健康と看護、助産技術論Ⅱ	グローバル社会と看護Ⅰ
福岡県立大学	看護学部看護学科	○	○	看護倫理学	看護倫理学
長崎県立大学	看護栄養学部看護学科	○	検討中	薬理代謝学	
大分県立看護科学大学	看護学部看護学科	○	×	薬理学Ⅰ、病理学総論	
宮崎県立看護大学	看護学部看護学科	○	×	人権論	
沖縄県立看護大学	看護学部看護学科	○	×	小児保健看護Ⅰ	
名桜大学	人間健康学部看護学科	○	検討中	看護学概論、臨床薬理学、成人看護方法論Ⅰ、成人看護学方法論Ⅱ、グローバルナースィングⅡ、感染看護論、公衆衛生学	
札幌保健医療大学	保健医療学部看護学科	検討中	検討中		
天使大学	看護栄養学部看護学科	×	×		
日本赤十字北海道看護大学	看護学部看護学科	○	○	薬理学、病態治療学Ⅱ(消化・代謝・ライフステージ)、病態治療学Ⅳ(頭頸部・皮膚・血液・泌尿・小児)、成人慢性看護学演習	成人慢性看護学演習
日本医療大学	保健医療学部看護学科	○	×	看護学科 臨床薬理学、看護学科 形態機能学Ⅳ(標本館・人体解剖実習)	
北海道医療大学	看護福祉学部看護学科	○	○	微生物学、医療概論、公衆衛生学Ⅰ	医療概論
北海道科学大学	保健医療学部看護学科	○	検討中	医療概論、感染免疫学、病態生理学	
北海道文教大学	医療保健科学部看護学科	○	○	免疫学、薬理学、地域看護学の基礎、保健医療福祉行政論	保健医療福祉行政論
青森中央学院大学	看護学部看護学科	○	×	薬理と薬剤	
八戸学院大学	健康医療学部看護学科	○	×	病態学Ⅱ、薬理学、医療安全	
弘前医療福祉大学	保健学部看護学科	×	×		
弘前学院大学	看護学部看護学科	○	×	薬理学	
岩手医科大学	看護学部看護学科	○	○	医療と法律	看護学概論(全人的医療基礎講義含む)
岩手保健医療大学	看護学部看護学科	○	×	臨床薬理学	
東北福祉大学	健康科学部保健看護学科	○	×	臨床薬理学	
東北文化学園大学	医療福祉学部看護学科	○	○	アカデミック・スキル演習、公衆衛生看護学Ⅱ	アカデミック・スキル演習
仙台青葉学院大学	看護学部看護学科	○	×	看護薬理学、公衆衛生学	

大学名	学部学科等名	1	2	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演
秋田看護福祉大学	看護福祉学部看護学科	○	×	薬理学概論、臨床薬理学、公衆衛生学、成人看護方法論Ⅲ、保健・医療と法律、セイフティマネジメント論、救急医療と看護	
日本赤十字東北看護大学	看護学部看護学科	○	×	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ機能別、成人看護学Ⅱ－2慢性看護	
医療創生大学	看護学部看護学科	○	検討中	健康と薬、薬理学、自然科学のあゆみ	
茨城キリスト教大学	看護学部看護学科	○	○	生と死の倫理、公衆衛生看護学概論	生と死の倫理
つくば国際大学	医療保健学部看護学科	○	×	生命倫理	
常磐大学	看護学部看護学科	○	○	母性看護援助	母性看護援助
足利大学	看護学部看護学科	○	検討中	臨床薬理学、公衆衛生学	
国際医療福祉大学	保健医療学部看護学科	○	検討中	対象別保健活動論Ⅰ（発達段階別）、対象別保健活動論Ⅱ（障害別）、早期体験実習、衛生化学Ⅱ（毒性・代謝）、OTC医薬品概論、薬学演習Ⅲ、医薬品安全性学、医薬品情報学Ⅰ	
自治医科大学	看護学部看護学科	○	×	公衆衛生看護活動論、難病患者支援システムと看護の実践方法、公衆衛生看護活動論、感染症対策システムと看護の実践方法、臨床薬理学、保健医療福祉システム論 保健医療福祉行政の発展過程	
獨協医科大学	看護学部看護学科	○	○	生命倫理学	生命倫理学
桐生大学	医療保健学部看護学科	○	検討中	臨床薬理学、感染看護	
群馬医療福祉大学	看護学部看護学科	○	検討中	公衆衛生学	
群馬パース大学	看護学部看護学科	○	×	公衆衛生看護学概論、薬理学	
上武大学	看護学部看護学科	○	×	生命倫理	
高崎健康福祉大学	保健医療学部看護学科	○	×	臨床医学Ⅰ（内科学・外科学）、薬理学	
埼玉医科大学	保健医療学部看護学科	○	○	病むことの心理	病むことの心理
西武文理大学	看護学部看護学科	○	検討中	母性看護学概論、母性看護支援論Ⅱ	
大東文化大学	スポーツ・健康科学部看護学科	○	○	疾病・治療学Ⅵ（精神医療他）、母性看護学方法論	Daito 'Green 'Ceremony-Reflection on a Nursing Journey-（学科行事）、基礎ゼミナール（特別講演）
東京家政大学	健康科学部看護学科	○	×	薬理学、公衆衛生学、地域・在宅看護学概論Ⅰ	
東都大学	ヒューマンケア学部看護学科	○	×	薬理学	
日本医療科学大学	保健医療学部看護学科	○	○	臨床薬理学	臨床薬理学
日本保健医療大学	保健医療学部看護学科	○	検討中	臨床薬理学	
人間総合科学大学	保健医療学部看護学科	○	検討中	薬理学、薬と健康	
目白大学	看護学部看護学科	○	○	医療概論、薬理学	総合看護学セミナー
日本赤十字看護大学	さいたま看護学部看護学科	○	検討中	看護関係法規	
植草学園大学	看護学部看護学科	○	×	薬理学	

大学名	学部学科等名	1	2	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演
亀田医療大学	看護学部看護学科	○	×	看護倫理学、ウィメンズヘルス看護学概論	
国際医療福祉大学	成田看護学部 看護学科	○	検討中	感染看護論	
三育学院大学	看護学部看護学科	○	×	保健医療社会学	
秀明大学	看護学部看護学科	○	検討中	母性看護学概論、病理学、免疫・微生物学、生活環境と健康、薬理学、薬理学	
淑徳大学	看護栄養学部看護学科	○	検討中	病態学（医学概論・病理学・症候学）	
順天堂大学	医療看護学部看護学科	○	×	薬理学、臨床薬理学	
城西国際大学	看護学部看護学科	○	○	公衆衛生看護学概論、感染症学	公衆衛生看護学概論
聖徳大学	看護学部看護学科	×	×		
千葉科学大学	看護学部看護学科	○	×	公衆衛生看護方法論Ⅰ	
帝京平成大学	健康医療スポーツ学部看護学科	○	検討中	人間と社会と看護	
東京医療保健大学	千葉看護学部看護学科	○	○	臨床薬理学	臨床薬理学
東京情報大学	看護学部看護学科	○	検討中	臨床薬理学	
東都大学	幕張ヒューマンケア学部看護学科	○	×	看護関係法規	
東邦大学	健康科学部看護学科	○	×	トランスレーショナルへの挑戦Ⅰ、薬剤学	
SBC東京医療大学	健康科学部看護学科	○	検討中	成人看護学方法論Ⅲ	
和洋女子大学	看護学部看護学科	○	○	成人看護援助論Ⅱ（慢性期看護）	成人看護援助論Ⅱ（慢性期看護）
医療創生大学	国際看護学部看護学科	○	検討中	薬物と薬物療法	
共立女子大学	看護学部看護学科	○	○	ヘルスアセスメント論	ヘルスアセスメント論
杏林大学	保健学部看護学科看護学専攻	○	×	健康支援と法律（関係法規）、生命倫理学、治療・処置の技術、公衆衛生看護活動論Ⅱ、感染症・免疫学	
杏林大学	保健学部看護学科看護養護教育学専攻	○	×	看護基本技術Ⅲ、公衆衛生看護学概論	
駒沢女子大学	看護学部看護学科	○	○	感染防御学、総合看護演習	総合看護演習
上智大学	総合人間科学部看護学科	○	×	薬理学	
聖路加国際大学	看護学部看護学科	○	×	薬理学	
創価大学	看護学部看護学科	○	×	薬理の基礎	
帝京大学	医療技術学部看護学科	○	○	医療学社会学	ライフデザイン演習Ⅲ「看護の対象者の理解」
帝京科学大学	医療科学部看護学科	×	○		基礎看護技術Ⅲ
帝京平成大学	ヒューマンケア学部看護学科	○	×	薬の科学、看護臨床薬剤学	
東京有明医療大学	看護学部看護学科	○	○	臨床薬理学概論	入門ゼミナール、基礎ゼミナール
東京医科大学	医学部看護学科	○	○	キャリアデザインⅠ(基礎)	キャリアデザインⅠ(基礎)
東京医療学院大学	保健医療学部看護学科	○	○	看護倫理学	看護倫理学
東京医療保健大学	医療保健学部看護学科	○	○	臨床薬理学	臨床薬理学

大学名	学部学科等名	1	2	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演
東京医療保健大学	東が丘看護学部看護学科	○	×	看護政策論、医療安全学、小児看護実践論、母性看護学概論、母性看護実践論、医療と法（看護関係法規）	
東京医療保健大学	立川看護学部看護学科	○	×	慢性期看護論、公衆衛生学、臨床薬理学演習、母性看護実践論	
東京工科大学	医療保健学部看護学科	○	×	公衆衛生学、保健医療福祉論Ⅰ、公衆衛生看護学Ⅱ	
東京慈恵会医科大学	医学部看護学科	○	○	看護と倫理、地域看護方法論Ⅰ	看護と倫理
東京純心大学	看護学部看護学科	○	×	薬理学	
東京女子医科大学	看護学部看護学科	○	○	薬理学	薬理学
東邦大学	看護学部看護学科	○	検討中	医療人間論	
日本赤十字看護大学	看護学部看護学科	○	検討中	看護関係法規、公衆衛生看護活動論	
武蔵野大学	看護学部看護学科	○	○	薬理学、薬物療法学	薬効安全性学
文京学院大学	保健医療技術学部看護学科	○	検討中	看護倫理学	
神奈川工科大学	健康医療科学部看護学科	○	×	看護倫理、診療の補助技術、老年看護援助論、臨床薬理学	
関東学院大学	看護学部看護学科	○	検討中	基礎看護技術Ⅲ	
北里大学	看護学部看護学科	×	×		
慶應義塾大学	看護医療学部看護学科	○	×	環境論、看護のための薬理学	
国際医療福祉大学	小田原保健医療学部・看護学科	○	×	成人看護学方法論Ⅱ、薬理学	
松蔭大学	看護学部看護学科	○	×	薬物や放射線による人間の反応	
湘南医療大学	保健医療学部看護学科	○	○	薬と毒性学入門	薬と毒性学入門
湘南鎌倉医療大学	看護学部看護学科	○	×	薬理学	
昭和医科大学	保健医療学部看護学科	○	○	地域医療入門、薬理学、コミュニティ・ヘルス看護活動論、看護研究	地域医療入門
東海大学	医学部看護学科	○	○	小児看護学概論、保健医療関係法規、人体の構造と機能Ⅰ、疾病と看護Ⅴ	疾病と看護Ⅴ
横浜創英大学	看護学部看護学科	○	○	看護管理学	看護管理学
長岡崇徳大学	看護学部看護学科	○	×	薬理学	
新潟医療福祉大学	看護学部看護学科	○	○	診療看護論演習	診療看護論演習
新潟青陵大学	看護学部看護学科	検討中	検討中		
新潟薬科大学	看護学部看護学科	○	×	医療と看護の歴史、薬と健康、薬理学と薬剤管理	
北里大学	健康科学部看護学科	×	×		
金沢医科大学	看護学部看護学科	○	○	臨床薬理学	薬害被害に関する講演会
金城大学	看護学部看護学科	○	×	感染防御	
福井医療大学	保健医療学部看護学科	○	×	薬理学	
健康科学大学	看護学部看護学科	×	×		
佐久大学	看護学部看護学科	○	×	看護リスクマネジメント	

大学名	学部学科等名	1	2	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演
清泉大学	看護学部看護学科	○	×	薬理学	
長野保健医療大学	看護学部看護学科	○	×	保健医療福祉行政論	
松本看護大学	看護学部看護学科	検討中	×		
朝日大学	保健医療学部看護学科	○	○	薬理学、病理学	「薬害被害者の声を聞く」特別講演
岐阜医療科学大学	看護学部看護学科	○	○	薬学概論	薬学概論 害被害者のお話を聴く講義
岐阜協立大学	看護学部看護学科	×	×		
岐阜保健大学	看護学部看護学科	×	×		
中京学院大学	看護学部看護学科	○	検討中	感染看護論、臨床薬理学	
中部学院大学	看護リハビリテーション学部看護学科	○	○	公衆衛生看護学概論、保健医療福祉行政論	公衆衛生看護学概論
岐阜聖徳学園大学	看護学部看護学科	○	検討中	薬理薬剤学	
順天堂大学	保健看護学部看護学科	○	×	医療の歴史、薬理学、臨床薬理学	
聖隷クリストファー大学	看護学部看護学科	○	検討中	薬理、医療法学	
常葉大学	健康科学部看護学科	○	×	健康増進論	
東都大学	沼津ヒューマンケア学部看護学科	○	×	いのちと倫理、公衆衛生学、病態学、疾病治療論Ⅰ（呼吸・循環器系）、看護倫理、感染と免疫	
愛知医科大学	看護学部看護学科	○	×	薬理学、感染看護学Ⅱ、母性看護学Ⅰ、小児看護学Ⅰ	
一宮研伸大学	看護学部看護学科	○	○	法学、公衆衛生学	公衆衛生学
金城学院大学	看護学部看護学科	○	検討中	疫学、感染症と社会	
修文大学	看護学部看護学科	○	×	公衆衛生学、感染看護学Ⅱ、公衆衛生看護実践論Ⅱ	
椙山女学園大学	看護学部看護学科	○	×	薬理学	
中部大学	生命健康科学部保健看護学科	○	○	薬理学	薬理学
豊橋創造大学	保健医療学部看護学科	○	○	看護学原論、臨床薬理学、看護倫理、在宅看護学原論Ⅱ	在宅看護学原論Ⅱ、在宅看護学原論Ⅱ
名古屋学芸大学	看護学部看護学科	○	○	医療概論、社会保障制度、特別講義1	特別講義1
名古屋葵大学	健康科学部看護学科	○	×	臨床薬理学	
日本赤十字豊田看護大学	看護学部看護学科	○	×	微生物学、公衆衛生看護管理	
日本福祉大学	看護学部看護学科	○	×	成人看護学概論	
人間環境大学	看護学部看護学科	検討中	×		
藤田医科大学	保健衛生学部看護学科	○	検討中	地域・在宅看護学概論	
鈴鹿医療科学大学	看護学部看護学科	○	○	臨床薬理学	臨床薬理学
四日市看護医療大学	看護医療学部看護学科	○	○	薬理学、診断・治療学概論	母性看護学概論
聖泉大学	看護学部看護学科	○	検討中	人権論、微生物学、病理学、薬理・薬剤学、疾病・障害論Ⅰ、疾病・障害論Ⅱ	
京都先端科学大学	健康医療学部看護学科	○	検討中	看護治療支援技術論	

大学名	学部学科等名	1	2	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演
京都看護大学	看護学部看護学科	×	×		
京都光華女子大学	看護福祉リハビリテーション学部看護学科	○	検討中	薬理学、生命倫理	
京都橘大学	看護学部看護学科	○	○	キャリア開発演習Ⅳ	キャリア開発演習Ⅳ
同志社女子大学	看護学部看護学科	○	○	母子保健看護概論、看護と法律	母子保健看護概論
佛教大学	保健医療技術学部看護学科	○	○	慢性看護学Ⅰ、成人看護学概論、診療援助技術論Ⅱ、薬理学、医療概論、病と人間の歩み	学科講演会
明治国際医療大学	看護学部看護学科	○	検討中	疾病治療論Ⅳ、薬理学	
藍野大学	看護学部看護学科	○	×	薬理学	
大阪青山大学	看護学部看護学科	検討中	×		
大阪医科薬科大学	看護学部看護学科	○	×	健康科学論	
大阪信愛学院大学	看護学部看護学科	○	×	臨床薬理学	
大阪成蹊大学	看護学部看護学科	○	×	化学、基礎看護学方法論Ⅲ	
大手前大学	国際看護学部看護学科	○	×	医療関係法規	
関西医科大学	看護学部看護学科	○	×	薬理学	
関西医療大学	保健看護学部保健看護学科	○	×	総合看護学演習、障害者と感染症の保健活動、公衆衛生看護学概論	
四條畷学園大学	看護学部看護学科	○	×	薬理学	
四天王寺大学	看護学部看護学科	○	×	薬理学、生活健康論、在宅療養生活支援論	
摂南大学	看護学部看護学科	○	○	看護倫理	看護倫理
千里金蘭大学	看護学部看護学科	○	×	臨床薬理学	
太成学院大学	看護学部看護学科	○	検討中	薬理学、疾病論Ⅰ、病理学、衛生・公衆衛生学	
宝塚大学	看護学部看護学科	○	○	公衆衛生学、医療ジャーナリズム論	公衆衛生学
梅花女子大学	看護保健学部看護学科	○	×	臨床病理・病態学Ⅱ、臨床病理・病態学Ⅱ、臨床病理・病態学Ⅲ、薬理学、公衆衛生看護学Ⅰ、公衆衛生看護学Ⅱ	
森ノ宮医療大学	看護学部看護学科	○	×	成人看護援助論Ⅱ	
大和大学	保健医療学部看護学科	○	○	薬理学、公衆衛生学	薬理学
大阪歯科大学	看護学部看護学科	○	×	小児看護援助論、老年看護援助論、看護関係法規	
関西看護医療大学	看護学部看護学科	○	○	薬理学Ⅰ	感染と免疫
関西国際大学	保健医療学部看護学科	○	×	看護倫理Ⅰ	
関西福祉大学	看護学部看護学科	○	×	薬理学	
姫路大学	看護学部看護学科	検討中	検討中		
甲南女子大学	看護リハビリテーション学部看護学科	○	×	成人看護学方法論Ⅰ	

大学名	学部学科等名	1	2	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演
神戸常盤大学	保健科学部看護学科	○	検討中	科目名：「公衆衛生学」 該当の講義回6回目：「社会保障と医療経済」、科目名：「公衆衛生学」 該当の講義回12回目：「感染症対策」	
神戸女子大学	看護学部看護学科	○	○	看護倫理	看護倫理
園田学園大学	人間健康学部人間看護学科	○	検討中	看護病態学	
姫路獨協大学	看護学部看護学科	○	×	公衆衛生学、公衆衛生看護学概論	
兵庫大学	看護学部看護学科	○	検討中	薬理学、免疫・微生物学、公衆衛生学(疫学を含む)、リスクマネジメント論、看護学概論	
武庫川女子大学	看護学部看護学科	○	○	看護薬理学	成人看護学概論
兵庫医科大学	看護学部看護学科	○	○	公衆衛生学、慢性看護援助論、免疫学（含微生物学）、母性看護学概論	母性看護学概論
畿央大学	健康科学部看護医療学科	○	○	薬と健康、看護倫理、診療課程援助技術、感染・免疫学、公衆衛生学、看護管理論、医療安全論	保健医療福祉システム論Ⅰ
天理大学	医療学部看護学科	○	検討中	保健医療概論、基礎ゼミナール、体のしくみⅠ、薬理学・臨床薬理学	
奈良学園大学	保健医療学部看護学科	○	×	看護技術の基礎Ⅱ、環境化学の基礎、精神看護学概論、精神看護援助論、精神看護援助論演習	
宝塚医療大学	和歌山保健医療学部看護学科	○	×	看護の統合Ⅱ（演習）	
東京医療保健大学	和歌山看護学部看護学科	○	×	看護倫理	
鳥取看護大学	看護学部看護学科	○	×	薬理学	
川崎医療福祉大学	保健看護学部保健看護学科	○	×	薬理学、保健指導論、健康危機管理論	
吉備国際大学	看護学部看護学科	○	×	成人看護学Ⅳ（周手術期看護）、成人看護学Ⅲ（がん看護）、公衆衛生看護学Ⅱ（対象別看護活動）、精神看護学Ⅱ（援助論）、母性看護学概論、母性看護学Ⅱ（援助論）、臨床薬理学、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、臨床微生物学	
山陽学園大学	看護学部看護学科	○	×	衛生学・公衆衛生学Ⅰ、生命・医療倫理	
日本赤十字広島看護大学	看護学部看護学科	×	検討中		
広島国際大学	看護学部看護学科	○	×	臨床病態学Ⅰ、臨床病態学Ⅲ	
広島都市学園大学	健康科学部看護学科	○	検討中	臨床薬理学	
広島文化学園大学	看護学部看護学科	○	検討中	人間発生・発達学、薬理学、病態微生物学、公衆衛生学	
福山平成大学	看護学部看護学科	○	検討中	成人慢性期疾患看護	
安田女子大学	看護学部看護学科	○	○	共通教育「人間論B」、病理病態学、疾病論Ⅰ、成人看護学、病理病態学	まほろば教養ゼミⅣ
宇部フロンティア大学	看護学部看護学科	○	○	薬理・薬剤学、微生物・免疫学、公衆衛生看護活動論、基礎ゼミナールⅡ（キャリアデザイン）	特別授業（薬害被害者講演会）
四国大学	看護学部看護学科	○	×	薬理学、女性と胎児の薬理学、母性保健論、小児看護学概論、小児保健論、微生物学、身体の構造と機能Ⅱ、看護史・制度論	
徳島文理大学	保健福祉学部看護学科	○	×	母子のための薬理学、臨床薬理学、感染学、老年看護学概論	
聖カトリナ大学	看護学部看護学科	○	検討中	感染管理看護論、地域生活支援論、地域看護学Ⅱ	

大学名	学部学科等名	1	2	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演
人間環境大学	松山看護学部看護学科	×	○		陣痛促進剤事故について知ろう ～誘発分娩で子宮破裂した本人が語る～
久留米大学	医学部看護学科	○	○	生命・看護倫理	生命・看護倫理
国際医療福祉大学	福岡保健医療学部看護学科	○	○	地域・在宅看護論Ⅱ (地域での療養支援)	地域・在宅看護論Ⅱ (科目の中で特別講義として)
福岡国際医療福祉大学	看護学部看護学科	○	×	生命倫理	
産業医科大学	産業保健学部看護学科	○	○	リハビリテーション医学概論、医療社会学、在宅看護学方法論演習、看護倫理学、産・婦人科系病態治療学、成人看護学方法論(慢性期)、代謝栄養学、感染症学	看護倫理学
純真学園大学	保健医療学部看護学科	○	×	臨床薬理学	
西南女学院大学	保健福祉学部看護学科	○	×	疾病学総論、看護倫理、保健医療福祉行政と政策、薬理学	
聖マリア学院大学	看護学部看護学科	○	×	薬理学、精神看護学ケア論Ⅱ、保健医療福祉行政論	
帝京大学	福岡医療技術学部看護学科	○	×	臨床薬理学	
日本赤十字九州国際看護大学	看護学部看護学科	○	検討中	臨床薬理学	
福岡看護大学	看護学部看護学科	○	検討中	薬理学	
福岡大学	医学部看護学科	○	○	薬のはたらきと薬物療法	薬のはたらきと薬物療法
福岡女学院看護大学	看護学部看護学科	○	検討中	基礎看護学方法論Ⅱ、成人看護援助論Ⅰ(慢性期)、クリティカルケア	
第一薬科大学	看護学部看護学科	○	検討中	薬理学、臨床薬理学	
令和健康科学大学	看護学部看護学科	○	○	看護倫理	看護倫理
西九州大学	看護学部看護学科	○	検討中	臨床薬理学	
活水女子大学	看護学部看護学科	○	×	看護倫理、看護医療と法規	
九州看護福祉大学	看護福祉学部看護学科	○	×	薬理学、感染症学、病態生理学Ⅰ	
熊本保健科学大学	保健科学部看護学科	○	検討中	生命と倫理	
別府大学	看護学部看護学科	○	×	看護学概論	
鹿児島国際大学	看護学部看護学科	○	検討中	保健医療福祉行政論、健康をまもる法律	
鹿児島純心大学	看護栄養学部看護学科	○	検討中	看護薬理学	

薬害問題に対する各大学の取組状況（令和7年度 看護学部等）

薬害問題に関する授業等のうち以下の①②を実施

①薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目

②被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目

大学名 (薬害問題に関する授業を実施している大学)	学部学科等名	①	②	①② 両方を実施している
		薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目	被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目	
北海道大学	医学部保健学科看護学専攻	成人看護学援助論Ⅰ、母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅱ	成人看護学援助論Ⅰ、母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅱ	○
旭川医科大学	医学部看護学科	人間と行動（法学）、公衆衛生看護活動論Ⅰ	公衆衛生看護活動論Ⅰ	○
弘前大学	医学部保健学科看護学専攻	薬理学		
東北大学	医学部保健学科看護学専攻	臨床薬理学	臨床薬理学	○
秋田大学	医学部保健学科看護学専攻	薬理学	薬理学	○
山形大学	医学部看護学科	生命倫理	生命倫理	○
筑波大学	医学群看護学類	看護生命倫理	看護生命倫理	○
群馬大学	医学部保健学科看護学専攻	臨床医学総論、基礎医学Ⅲ（薬理学）	臨床医学総論	○
千葉大学	看護学部看護学科	連携協働実践Ⅰ	連携協働実践Ⅰ	○
東京科学大学	医学部保健衛生学科看護学専攻	薬理学Ⅰ、薬理学Ⅱ、特別講義「薬害被害に関する特別講演」（仮）※看護学専攻においては薬理学Ⅰ及びⅡの関連講義として実施。	特別講義「薬害被害に関する特別講演」（仮）※看護学専攻においては薬理学Ⅰ及びⅡの関連講義として実施。	○
新潟大学	医学部保健学科看護学専攻	医療の倫理、疾病の原因と成り立ち、治療法概説、疾病の予防と治療、助産学特論	医療の倫理、疾病の予防と治療、助産学特論	○
富山大学	医学部看護学科	医療学入門、母性看護学総論、母性看護論	医療学入門	○
金沢大学	医薬保健学域保健学類看護学専攻	臨床薬学論、医薬保健学基礎Ⅱ	臨床薬学論、医薬保健学基礎Ⅱ	○
福井大学	医学部看護学科	大学教育入門セミナー	大学教育入門セミナー	○
山梨大学	医学部看護学科	保健学	保健学	○
信州大学	医学部保健学科看護学専攻	健康科学概論	健康科学概論	○
岐阜大学	医学部看護学科	医学概論	医学概論	○
浜松医科大学	医学部看護学科	医療概論、医療法学Ⅰ、臨床薬理学	医療概論	○
名古屋大学	医学部保健学科看護学専攻	公衆衛生学		
三重大学	医学部看護学科	看護倫理	看護倫理	○
滋賀医科大学	医学部看護学科	薬物治療学、保健医療行政論、診断と治療Ⅰ	薬物治療学、保健医療行政論、診断と治療Ⅰ	○
京都大学	医学部人間健康科学科	薬剤・薬理学概論	薬剤・薬理学概論	○
大阪大学	医学部保健学科看護学専攻	現代の生命倫理・法・経済を考える、薬理作用と臨床適用	現代の生命倫理・法・経済を考える、薬理作用と臨床適用	○
神戸大学	医学部保健学科	疾病の成り立ちと治療Ⅳ（こども）、公衆衛生学	感染看護論	○
鳥取大学	医学部保健学科看護学専攻	くすりと作用、病の体験と医療	病の体験と医療	○

大学名 (薬害問題に関する授業を実施している大学)	学部学科等名	①	②	①② 両方を実施している
		薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目	被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目	
島根大学	医学部 看護学科	地域看護学活動論		
岡山大学	医学部保健学科看護学専攻	臨床薬理学	臨床薬理学	○
広島大学	医学部保健学科看護学専攻	周産期健康障害看護	周産期健康障害看護	○
山口大学	医学部保健学科看護学専攻	臨床薬理学、小児保健医療論	臨床薬理学	○
徳島大学	医学部保健学科看護学専攻	看護技術Ⅲ(診療の補助)		
香川大学	医学部看護学科	看護薬理学	看護薬理学	○
愛媛大学	医学部看護学科	医療被害と看護	医療被害と看護	○
高知大学	医学部看護学科	薬の効用と看護		
九州大学	医学部保健学科看護学専攻	医療系統合教育科目「薬害」	医療系統合教育科目「薬害」	○
佐賀大学	医学部看護学科	コミュニケーション論	コミュニケーション論	○
長崎大学	医学部保健学科看護学専攻	看護倫理	看護倫理	○
熊本大学	医学部保健学科看護学専攻	臨床薬理学、病理学Ⅰ、感染看護学	病理学Ⅰ、感染看護学	○
大分大学	医学部看護学科	保健学	保健学	○
宮崎大学	医学部看護学科	臨床薬理学	臨床薬理学	○
鹿児島大学	医学部保健学科看護学専攻	解剖生理学Ⅰ、病理学総論	解剖生理学Ⅰ	○
琉球大学	医学部保健学科	保健福祉政策論、薬理学		
札幌医科大学	保健医療学部看護学科	看護学概論、社会と健康史	社会と健康史	○
名寄市立大学	保健福祉学部看護学科	公衆衛生看護学概論、統計学、公衆衛生学、成人看護学概論、臨床治療学Ⅰ、地域看護学概論、地域看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅰ	公衆衛生看護学概論、成人看護学概論、臨床治療学Ⅰ、地域看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅰ	○
青森県立保健大学	健康科学部看護学科	成人看護援助論Ⅲ、看護関係法規	看護関係法規	○
岩手県立大学	看護学部看護学科	薬理代謝学	薬理代謝学	○
宮城大学	看護学群看護学類	薬理学	薬理学	○
山形県立保健医療大学	保健医療学部看護学科	臨床薬理学、生殖遺伝学	生殖遺伝学	○
福島県立医科大学	看護学部看護学科	病理学、病態診断治療学	病理学	○
茨城県立医療大学	保健医療学部看護学科	衛生・公衆衛生学	衛生・公衆衛生学	○
群馬県立県民健康科学大学	看護学部看護学科	環境科学、人間集団と健康（疫学）、地域健康看護学各論Ⅱ、保健医療チーム連携論Ⅰ	人間集団と健康（疫学）	○
埼玉県立大学	保健医療福祉学部看護学科	看護薬理学	看護薬理学	○
東京都立大学	健康福祉学部看護学科	慢性期看護学演習、母性看護学概論、周産期学、母性看護学演習、公衆衛生看護学概論、総合臨地看護学実習（在宅）	慢性期看護学演習、総合臨地看護学実習（在宅）	○

大学名 (薬害問題に関する授業を実施している大学)	学部学科等名	①	②	①② 両方を実施している
		薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目	被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目	
神奈川県立保健福祉大学	保健福祉学部看護学科	看護倫理、人権・ジェンダー、小児看護学Ⅱ、成人看護学（慢性期）Ⅱ	看護倫理、人権・ジェンダー、精神保健看護学Ⅱ、小児看護学Ⅱ、公衆衛生看護活動論	○
横浜市立大学	医学部看護学科	看護倫理学、感染看護学	看護倫理学、感染看護学	○
富山県立大学	看護学部看護学科	薬理学、感染看護学	感染看護学	○
公立小松大学	保健医療学部看護学科	保健医療福祉法制度論	保健医療福祉法制度論	○
敦賀市立看護大学	看護学部看護学科	臨床薬理学、感染症学	臨床薬理学、公衆衛生学、看護倫理学、感染症学	○
福井県立大学	看護福祉学部看護学科	臨床薬理学	臨床薬理学	○
山梨県立大学	看護学部看護学科	疾病治療総論	疾病治療総論	○
岐阜県立看護大学	看護学部看護学科	日本国憲法（法と人権）、環境保健学	日本国憲法（法と人権）、環境保健学	○
愛知県立大学	看護学部看護学科	病因論	病因論	○
名古屋市立大学	医学部保健医療学科看護学専攻	疫学・保健統計学Ⅰ	疫学・保健統計学Ⅰ	○
滋賀県立大学	人間看護学部人間看護学科	差別と人権（同和問題）	差別と人権（同和問題）	○
大阪公立大学	看護学部看護学科	看護学概論	看護学概論	○
兵庫県立大学	看護学部看護学科	感染免疫学	感染免疫学	○
奈良県立医科大学	医学部看護学科	社会福祉と医療法規	社会福祉と医療法規	○
和歌山県立医科大学	保健看護学部保健看護学科	ケアマインド教育、基礎薬理学	ケアマインド教育	○
島根県立大学	看護栄養学部看護学科	成人看護学援助論Ⅰ（慢性・終末期）	成人看護学援助論Ⅰ（慢性・終末期）	○
県立広島大学	保健福祉学部保健福祉学科看護学コース	看護倫理	看護倫理	○
山口県立大学	看護栄養学部看護学科	看護倫理	看護倫理	○
周南公立大学	人間健康科学部看護学科	看護学概論	看護学概論	○
香川県立保健医療大学	保健医療学部看護学科	臨床薬理	臨床薬理	○
愛媛県立医療技術大学	保健科学部看護学科	薬と健康	薬と健康	○
高知県立大学	看護学部看護学科	グローバル社会と看護Ⅰ、グローバル社会と看護Ⅱ、地域の健康と看護、助産技術論Ⅱ	グローバル社会と看護Ⅰ、グローバル社会と看護Ⅱ、地域の健康と看護	○
福岡県立大学	看護学部看護学科	看護倫理学	看護倫理学	○
長崎県立大学	看護栄養学部看護学科	薬理代謝学	薬理代謝学	○
大分県立看護科学大学	看護学部看護学科	薬理学Ⅰ、病理学総論		
宮崎県立看護大学	看護学部看護学科	人権論	人権論	○
名桜大学	人間健康学部看護学科	感染看護論、公衆衛生学	グローバルナーシングⅡ、感染看護論	○
日本赤十字北海道看護大学	看護学部看護学科	薬理学、病態治療学Ⅱ（消化・代謝・ライフステージ）、病態治療学Ⅳ（頭頸部・皮膚・血液・泌尿・小児）、成人慢性看護学演習	成人慢性看護学演習	○

大学名 (薬害問題に関する授業を実施している大学)	学部学科等名	①	②	①② 両方を実施している
		薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目	被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目	
日本医療大学	保健医療学部看護学科	看護学科 臨床薬理学、看護学科 形態機能学Ⅳ（標本館・人体解剖実習）		
北海道医療大学	看護福祉学部看護学科	医療概論、公衆衛生学Ⅰ	医療概論	○
北海道科学大学	保健医療学部看護学科	医療概論		
北海道文教大学	医療保健科学部看護学科	免疫学、薬理学、保健医療福祉行政論	保健医療福祉行政論	○
岩手医科大学	看護学部看護学科	医療と法律		
東北福祉大学	健康科学部保健看護学科	臨床薬理学	臨床薬理学	○
東北文化学園大学	医療福祉学部看護学科	アカデミック・スキル演習	アカデミック・スキル演習	○
秋田看護福祉大学	看護福祉学部看護学科	公衆衛生学	公衆衛生学	○
日本赤十字東北看護大学	看護学部看護学科	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ機能別、成人看護学Ⅱ－２慢性看護	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ機能別	○
医療創生大学	看護学部看護学科	健康と薬、薬理学、自然科学のあゆみ	健康と薬、自然科学のあゆみ	○
茨城キリスト教大学	看護学部看護学科	生と死の倫理、公衆衛生看護学概論	生と死の倫理、公衆衛生看護学概論	○
つくば国際大学	医療保健学部看護学科	生命倫理	生命倫理	○
常磐大学	看護学部看護学科	母性看護援助	母性看護援助	○
足利大学	看護学部看護学科	臨床薬理学、公衆衛生学		
国際医療福祉大学	保健医療学部看護学科	対象別保健活動論Ⅰ（発達段階別）、早期体験実習、衛生化学Ⅱ（毒性・代謝）、OTC医薬品概論、薬学演習Ⅲ、医薬品安全性学、医薬品情報学Ⅰ	対象別保健活動論Ⅰ（発達段階別）、早期体験実習、薬学演習Ⅲ	○
自治医科大学	看護学部看護学科	公衆衛生看護活動論、難病患者支援システムと看護の実践方法、公衆衛生看護活動論、感染症対策システムと看護の実践方法、臨床薬理学、保健医療福祉システム論保健医療福祉行政の発展過程	公衆衛生看護活動論、難病患者支援システムと看護の実践方法、公衆衛生看護活動論、感染症対策システムと看護の実践方法	○
獨協医科大学	看護学部看護学科	生命倫理学	生命倫理学	○
桐生大学	医療保健学部看護学科	臨床薬理学、感染看護		
群馬医療福祉大学	看護学部看護学科	公衆衛生学	公衆衛生学	○
群馬パース大学	看護学部看護学科	公衆衛生看護学概論		
上武大学	看護学部看護学科	生命倫理	生命倫理	○
高崎健康福祉大学	保健医療学部看護学科	薬理学		
埼玉医科大学	保健医療学部看護学科	病むことの心理	病むことの心理	○
大東文化大学	スポーツ・健康科学部看護学科	疾病・治療学Ⅵ（精神医療他）、母性看護学方法論	疾病・治療学Ⅵ（精神医療他）、母性看護学方法論	○
東京家政大学	健康科学部看護学科	薬理学、公衆衛生学、地域・在宅看護学概論Ⅰ	薬理学、公衆衛生学、地域・在宅看護学概論Ⅰ	○
東都大学	ヒューマンケア学部看護学科	薬理学		

大学名 (薬害問題に関する授業を実施している大学)	学部学科等名	①	②	①② 両方を実施している
		薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目	被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目	
日本医療科学大学	保健医療学部看護学科	臨床薬理学		
日本保健医療大学	保健医療学部看護学科	臨床薬理学		
人間総合科学大学	保健医療学部看護学科	薬理学、薬と健康	薬理学、薬と健康	○
目白大学	看護学部看護学科	医療概論、薬理学	薬理学	○
日本赤十字看護大学	さいたま看護学部看護学科	看護関係法規	看護関係法規	○
植草学園大学	看護学部看護学科	薬理学		
亀田医療大学	看護学部看護学科	看護倫理学、ウイメンズヘルス看護学概論	看護倫理学	○
国際医療福祉大学	成田看護学部 看護学科	感染看護論	感染看護論	○
秀明大学	看護学部看護学科	母性看護学概論、病理学、免疫・微生物学、生活環境と健康、薬理学、薬理学	病理学、免疫・微生物学、生活環境と健康、薬理学	○
淑徳大学	看護栄養学部看護学科	病態学（医学概論・病理学・症候学）	病態学（医学概論・病理学・症候学）	○
順天堂大学	医療看護学部看護学科	薬理学、臨床薬理学	薬理学、臨床薬理学	○
城西国際大学	看護学部看護学科	公衆衛生看護学概論、感染症学	公衆衛生看護学概論、感染症学	○
千葉科学大学	看護学部看護学科	公衆衛生看護方法論Ⅰ	公衆衛生看護方法論Ⅰ	○
帝京平成大学	健康医療スポーツ学部看護学科	人間と社会と看護	人間と社会と看護	○
東京医療保健大学	千葉看護学部看護学科	臨床薬理学	臨床薬理学	○
東都大学	幕張ヒューマンケア学部看護学科	看護関係法規		
東邦大学	健康科学部看護学科	トランスレーショナルへの挑戦Ⅰ	トランスレーショナルへの挑戦Ⅰ	○
和洋女子大学	看護学部看護学科	成人看護援助論Ⅱ（慢性期看護）	成人看護援助論Ⅱ（慢性期看護）	○
医療創生大学	国際看護学部看護学科	薬物と薬物療法	薬物と薬物療法	○
共立女子大学	看護学部看護学科	ヘルスアセスメント論	ヘルスアセスメント論	○
杏林大学	保健学部看護学科看護学専攻	健康支援と法律（関係法規）、生命倫理学、治療・処置の技術、公衆衛生看護活動論Ⅱ	健康支援と法律（関係法規）、生命倫理学、治療・処置の技術、公衆衛生看護活動論Ⅱ	○
杏林大学	保健学部看護学科看護看護教育学専攻	看護基本技術Ⅲ、公衆衛生看護学概論	看護基本技術Ⅲ、公衆衛生看護学概論	○
駒沢女子大学	看護学部看護学科	感染防御学、総合看護演習	感染防御学、総合看護演習	○
聖路加国際大学	看護学部看護学科	薬理学	薬理学	○
創価大学	看護学部看護学科	薬理の基礎		
帝京大学	医療技術学部看護学科	医療学社会学	医療学社会学	○
帝京平成大学	ヒューマンケア学部看護学科		薬の科学	
東京有明医療大学	看護学部看護学科	臨床薬理学概論	臨床薬理学概論	○
東京医科大学	医学部看護学科	キャリアデザインⅠ（基礎）	キャリアデザインⅠ（基礎）	○

大学名 (薬害問題に関する授業を実施している大学)	学部学科等名	①	②	①② 両方を実施している
		薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目	被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目	
東京医療学院大学	保健医療学部看護学科	看護倫理学	看護倫理学	○
東京医療保健大学	医療保健学部看護学科	臨床薬理学	臨床薬理学	○
東京医療保健大学	東が丘看護学部看護学科	看護政策論、医療安全学、小児看護実践論、母性看護学概論、母性看護実践論、医療と法（看護関係法規）	看護政策論、医療安全学、小児看護実践論、母性看護学概論、医療と法（看護関係法規）	○
東京医療保健大学	立川看護学部看護学科	慢性期看護論、臨床薬理学演習	慢性期看護論、臨床薬理学演習	○
東京工科大学	医療保健学部看護学科	公衆衛生学、保健医療福祉論Ⅰ、公衆衛生看護学Ⅱ	公衆衛生学、保健医療福祉論Ⅰ、公衆衛生看護学Ⅱ	○
東京慈恵会医科大学	医学部看護学科	看護と倫理、地域看護方法論Ⅰ	看護と倫理	○
東京純心大学	看護学部看護学科	薬理学	薬理学	○
東京女子医科大学	看護学部看護学科	薬理学	薬理学	○
日本赤十字看護大学	看護学部看護学科	看護関係法規、公衆衛生看護活動論	看護関係法規	○
武蔵野大学	看護学部看護学科			
文京学院大学	保健医療技術学部看護学科	看護倫理学	看護倫理学	○
神奈川工科大学	健康医療科学部看護学科	看護倫理、臨床薬理学	看護倫理	○
関東学院大学	看護学部看護学科	基礎看護技術Ⅲ		
国際医療福祉大学	小田原保健医療学部・看護学科	薬理学	成人看護学方法論Ⅱ、薬理学	○
松蔭大学	看護学部看護学科	薬物や放射線による人間の反応	薬物や放射線による人間の反応	○
湘南医療大学	保健医療学部看護学科	薬と毒性学入門		
昭和医科大学	保健医療学部看護学科	地域医療入門、コミュニティ・ヘルス看護活動論、看護研究	地域医療入門、コミュニティ・ヘルス看護活動論	○
東海大学	医学部看護学科	保健医療関係法規、疾病と看護E	保健医療関係法規、人体の構造と機能1、疾病と看護E	○
横浜創英大学	看護学部看護学科	看護管理学	看護管理学	○
新潟医療福祉大学	看護学部看護学科	診療看護論演習	診療看護論演習	○
新潟薬科大学	看護学部看護学科	医療と看護の歴史		
金沢医科大学	看護学部看護学科	臨床薬理学	臨床薬理学	○
金城大学	看護学部看護学科	感染防御		
佐久大学	看護学部看護学科	看護リスクマネジメント		
長野保健医療大学	看護学部看護学科	保健医療福祉行政論	保健医療福祉行政論	○
朝日大学	保健医療学部看護学科	薬理学、病理学	薬理学	○
岐阜医療科学大学	看護学部看護学科	薬学概論	薬学概論	○
中部学院大学	看護リハビリテーション学部看護学科	公衆衛生看護学概論、保健医療福祉行政論	公衆衛生看護学概論、保健医療福祉行政論	○
岐阜聖徳学園大学	看護学部看護学科	薬理薬剤学	薬理薬剤学	○

大学名 (薬害問題に関する授業を実施している大学)	学部学科等名	①	②	①② 両方を実施している
		薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目	被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目	
順天堂大学	保健看護学部看護学科	薬理学、臨床薬理学	薬理学	○
常葉大学	健康科学部看護学科	健康増進論	健康増進論	○
東都大学	沼津ヒューマンケア学部看護学科	いのちと倫理、病態学、疾病治療論Ⅰ（呼吸・循環器系）、看護倫理	いのちと倫理、病態学、疾病治療論Ⅰ（呼吸・循環器系）、看護倫理	○
愛知医科大学	看護学部看護学科	薬理学、感染看護学Ⅱ、母性看護学Ⅰ、小児看護学Ⅰ	薬理学、感染看護学Ⅱ	○
一宮研伸大学	看護学部看護学科		公衆衛生学	
金城学院大学	看護学部看護学科	疫学、感染症と社会	疫学、感染症と社会	○
修文大学	看護学部看護学科	公衆衛生学、感染看護学Ⅱ、公衆衛生看護実践論Ⅱ	公衆衛生学、感染看護学Ⅱ、公衆衛生看護実践論Ⅱ	○
中部大学	生命健康科学部保健看護学科	薬理学	薬理学	○
豊橋創造大学	保健医療学部看護学科	在宅看護学原論Ⅱ	在宅看護学原論Ⅱ	○
名古屋学芸大学	看護学部看護学科	医療概論、社会保障制度、特別講義1	特別講義1	○
名古屋葵大学	健康科学部看護学科	臨床薬理学	臨床薬理学	○
日本赤十字豊田看護大学	看護学部看護学科	微生物学	微生物学	○
日本福祉大学	看護学部看護学科	成人看護学概論	成人看護学概論	○
藤田医科大学	保健衛生学部看護学科	地域・在宅看護学概論	地域・在宅看護学概論	○
鈴鹿医療科学大学	看護学部看護学科	臨床薬理学	臨床薬理学	○
聖泉大学	看護学部看護学科		人権論	
京都先端科学大学	健康医療学部看護学科	看護治療支援技術論	看護治療支援技術論	○
京都光華女子大学	看護福祉リハビリテーション学部看護学科	生命倫理	生命倫理	○
京都橘大学	看護学部看護学科	キャリア開発演習Ⅳ	キャリア開発演習Ⅳ	○
同志社女子大学	看護学部看護学科	母子保健看護概論、看護と法律	母子保健看護概論、看護と法律	○
佛教大学	保健医療技術学部看護学科	慢性看護学Ⅰ、薬理学、医療概論、病と人間の歩み	慢性看護学Ⅰ、成人看護学概論、薬理学、医療概論、病と人間の歩み	○
明治国際医療大学	看護学部看護学科	薬理学		
大阪医科薬科大学	看護学部看護学科	健康科学論		
大阪成蹊大学	看護学部看護学科	化学、基礎看護学方法論Ⅲ	化学、基礎看護学方法論Ⅲ	○
大手前大学	国際看護学部看護学科	医療関係法規	医療関係法規	○
関西医療大学	保健看護学部保健看護学科	総合看護学演習、障害者と感染症の保健活動、公衆衛生看護学概論	総合看護学演習、障害者と感染症の保健活動	○
四天王寺大学	看護学部看護学科	薬理学、在宅療養生活支援論	生活健康論	○
摂南大学	看護学部看護学科	看護倫理	看護倫理	○
千里金蘭大学	看護学部看護学科	臨床薬理学	臨床薬理学	○
太成学院大学	看護学部看護学科		薬理学、衛生・公衆衛生学	

大学名 (薬害問題に関する授業を実施している大学)	学部学科等名	①	②	①② 両方を実施している
		薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目	被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目	
宝塚大学	看護学部看護学科	公衆衛生学、医療ジャーナリズム論	公衆衛生学、医療ジャーナリズム論	○
梅花女子大学	看護保健学部看護学科	薬理学、公衆衛生看護学Ⅰ、公衆衛生看護学Ⅱ	薬理学、公衆衛生看護学Ⅰ、公衆衛生看護学Ⅱ	○
大和大学	保健医療学部看護学科	薬理学、公衆衛生学	薬理学	○
大阪歯科大学	看護学部看護学科	小児看護援助論、看護関係法規	小児看護援助論	○
関西看護医療大学	看護学部看護学科	薬理学Ⅰ		
関西福祉大学	看護学部看護学科	薬理学	薬理学	○
甲南女子大学	看護リハビリテーション学部看護学科	成人看護学方法論Ⅰ	成人看護学方法論Ⅰ	○
神戸常盤大学	保健科学部看護学科	科目名：「公衆衛生学」 該当の講義回6回目：「社会保障と医療経済」、科目名：「公衆衛生学」 該当の講義回12回目：「感染症対策」	科目名：「公衆衛生学」 該当の講義回12回目：「感染症対策」	○
神戸女子大学	看護学部看護学科	看護倫理	看護倫理	○
園田学園大学	人間健康学部人間看護学科		看護病態学	
姫路獨協大学	看護学部看護学科	公衆衛生学、公衆衛生看護学概論	公衆衛生学	○
兵庫大学	看護学部看護学科	薬理学、免疫・微生物学、公衆衛生学(疫学を含む)、リスクマネジメント論、看護学概論	薬理学	○
武庫川女子大学	看護学部看護学科	看護薬理学	看護薬理学	○
兵庫医科大学	看護学部看護学科	母性看護学概論	慢性看護援助論、母性看護学概論	○
畿央大学	健康科学部看護医療学科	公衆衛生学	公衆衛生学	○
天理大学	医療学部看護学科	保健医療概論		
宝塚医療大学	和歌山保健医療学部看護学科	看護の統合Ⅱ（演習）	看護の統合Ⅱ（演習）	○
東京医療保健大学	和歌山看護学部看護学科	看護倫理	看護倫理	○
川崎医療福祉大学	保健看護学部保健看護学科	保健指導論、健康危機管理論	保健指導論、健康危機管理論	○
吉備国際大学	看護学部看護学科	成人看護学Ⅳ（周手術期看護）、成人看護学Ⅲ（がん看護）、公衆衛生看護学Ⅱ（対象別看護活動）、母性看護学概論、母性看護学Ⅱ（援助論）、臨床薬理学、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、臨床微生物学	成人看護学Ⅳ（周手術期看護）、成人看護学Ⅲ（がん看護）、公衆衛生看護学Ⅱ（対象別看護活動）、精神看護学Ⅱ（援助論）、母性看護学概論、母性看護学Ⅱ（援助論）、臨床薬理学、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、臨床微生物学	○
山陽学園大学	看護学部看護学科	衛生学・公衆衛生学Ⅰ、生命・医療倫理	衛生学・公衆衛生学Ⅰ	○
広島都市学園大学	健康科学部看護学科	臨床薬理学	臨床薬理学	○
広島文化学園大学	看護学部看護学科	病態微生物学、公衆衛生学	病態微生物学、公衆衛生学	○
福山平成大学	看護学部看護学科	成人慢性期疾患看護	成人慢性期疾患看護	○
安田女子大学	看護学部看護学科	共通教育「人間論B」、病理病態学、疾病論Ⅰ、成人看護学	共通教育「人間論B」、病理病態学	○
宇部フロンティア大学	看護学部看護学科	薬理・薬剤学、公衆衛生看護活動論、基礎ゼミナールⅡ（キャリアデザイン）	基礎ゼミナールⅡ（キャリアデザイン）	○

大学名 (薬害問題に関する授業を実施している大学)	学部学科等名	①	②	①② 両方を実施している
		薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目	被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目	
四国大学	看護学部看護学科	小児看護学概論	母性保健論	○
徳島文理大学	保健福祉学部看護学科	臨床薬理学、感染学、老年看護学概論	臨床薬理学、感染学	○
聖カトリナ大学	看護学部看護学科	感染管理看護論、地域生活支援論、地域看護学Ⅱ		
久留米大学	医学部看護学科	生命・看護倫理	生命・看護倫理	○
国際医療福祉大学	福岡保健医療学部看護学科	地域・在宅看護論Ⅱ (地域での療養支援)	地域・在宅看護論Ⅱ (地域での療養支援)	○
福岡国際医療福祉大学	看護学部看護学科	生命倫理	生命倫理	○
産業医科大学	産業保健学部看護学科	医療社会学、看護倫理学、感染症学	リハビリテーション医学概論、医療社会学、看護倫理学、感染症学	○
純真学園大学	保健医療学部看護学科	臨床薬理学		
西南学院大学	保健福祉学部看護学科	看護倫理、保健医療福祉行政と政策、薬理学	疾病学総論、看護倫理、保健医療福祉行政と政策	○
聖マリア学院大学	看護学部看護学科	保健医療福祉行政論	保健医療福祉行政論	○
帝京大学	福岡医療技術学部看護学科	臨床薬理学		
日本赤十字九州国際看護大学	看護学部看護学科	臨床薬理学		
福岡看護大学	看護学部看護学科	薬理学	薬理学	○
福岡大学	医学部看護学科	薬のはたらきと薬物療法	薬のはたらきと薬物療法	○
福岡女学院看護大学	看護学部看護学科	基礎看護学方法論Ⅱ	基礎看護学方法論Ⅱ	○
令和健康科学大学	看護学部看護学科	看護倫理	看護倫理	○
西九州大学	看護学部看護学科	臨床薬理学	臨床薬理学	○
活水女子大学	看護学部看護学科	看護倫理、看護医療と法規	看護倫理、看護医療と法規	○
九州看護福祉大学	看護福祉学部看護学科	薬理学、感染症学、病態生理学Ⅰ	薬理学、感染症学	○
熊本保健科学大学	保健科学部看護学科	生命と倫理	生命と倫理	○
別府大学	看護学部看護学科	看護学概論	看護学概論	○
鹿児島国際大学	看護学部看護学科	保健医療福祉行政論、健康をまもる法律	保健医療福祉行政論、健康をまもる法律	○
鹿児島純心大学	看護栄養学部看護学科	看護薬理学	看護薬理学	○

薬害被害者の声を直接聞く授業(特別講義など)又は特別講演等の実施状況（令和7年度 看護学部等）

▼実施学部：307学部中95学部

大学名	学部学科等名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師	取り上げ た薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害について の授業実施における効果
弘前大学	医学部 保健学科看護学専攻	薬害防止に関する講演会 (講演テーマ：薬禍サリドマイドから学ぶ (仮))	4年次	本人	サリドマイド	直接被害に遭われた本人から話を聞き、医療の現場で起こりうる「薬害リスク」を実感することで、関心を高める機会になること。	令和7年度は10月に実施予定。 過去の講演会においては、「薬害への理解を深めることができた」「医療従事者として正しい知識を身につけること、疑問点や不安点を共有しやすい職場環境というのが大事であることを感じた」等の感想が寄せられている。	
秋田大学	医学部 保健学科看護学専攻	薬理学	2年次	本人	サリドマイド	薬害被害者の方の声を直接伺うことにより、薬害被害の背景や問題点について正しく理解することが出来る。医療従事者として働く上で持つべき責任感や倫理観の醸成に資する。	「薬害の原因は薬そのものではなく、被害を拡大させ、薬害を引き起こすのは『人』であるという話を聞き、薬に関わるすべての人が、その薬の使い方や供給方法の安全性を第一に考えることの重要性を学びました。」「社会的に問題となったような薬はもちろん危険だが、患者の治療に関する薬も、使い方を一歩間違えると途端に患者の健康を妨げるものになってしまう。このように、文字通り患者の命を握る職業として、その危険性を常に意識しながら責任をもって将来働きたいと思った。」といった感想があった。受講学生には全員にレポート提出させ、その内容を講演いただいた講師と共有している。	
山形大学	医学部 看護学科	生命倫理（薬害被害者による特別講演会）	4年次	未定	未定	薬害被害者から、直接、自分が被った薬害の実態や今後の医療への期待等の話を伺うことは、学生にとっては自分の今後を考える上で貴重な機会である。	薬剤は、人間に大きな影響を与えるため、薬が承認するまでにきちんとした過程を踏み、安全性を確認することが重要であることが分かった。 障害のある方を出会っても一人の人間としてとらえ、相手の立場に立って物事を考えられる医療者になりたい。	複数の薬害を取り上げることで、医療の歴史について深く学ぶことができ、薬害を防止するために正しい知識や倫理観を身につけることの必要性や、薬害被害者との向き合い方を考える機会となっている。
筑波大学	医学群 看護学類	看護生命倫理	1年次	本人	非加熱製剤によるHIV感染	薬害被害者の当事者の経験と、薬害訴訟についての経緯を聴くことは非常に貴重な経験である。	非常によい。医療者を志すものとして身が引き締まるおもしろいというようなコメントを多くの学生が感想として残している。	
千葉大学	看護学部看護学科	連携協働実践Ⅰ	1年次	本人	サリドマイド	薬害被害の当事者の経験が赤裸々に語られ、医療を受ける患者からみた医療の問題点が学生に伝わること。 そこから、自分たちが未来の医療人としてどうあればよいかを考える機会となること。	講師から薬害は「人が起こすものである」という結論が述べられ、そのことを未来の医療人である学生が、自分自身の責任として認識できていることが授業後のリフレクションシートから伺われる。 当事者の視点から述べられた治療や検査の苦痛、無意識の偏見などの話を聞き、「診察や治療」「医療機器の開発」「看護ケア」「安全な創薬や調剤」など将来自分たちが担う役割に活かしたいという展望と、そのためには専門職連携が必要であるという認識ができている。	
東京科学大学	医学部 保健衛生学科看護学専攻	特別講義 「薬害被害に関する特別講演」（仮） ※看護学専攻においては薬理学Ⅰ及びⅡの関連講義として実施。	2年次	未定	未定	薬理学の授業はあるが、国家試験のための必須事項の学習が主のため、薬害が患者の生活に及ぼす影響を学び考える時間が不足しがちであるなか、薬害被害者の生の声を通して、看護のあり方を考える貴重な機会となる。	薬害についての意識がより一層深まったという印象。熱心に耳を傾ける学生が殆どである。	

大学名	学部学科等名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師	取り上げ た薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害につい ての授業実施における効 果
新潟大学	医学部 保健学 科看護 学専攻	助産学特論	4年次	家族	陣痛促進 剤	子宮収縮薬（陣痛促進剤）は、臨床の間では、多く使用される薬剤である。薬剤を使用する際の情報提供、インフォームドコンセント、適切な使用を遵守の必要性等を遵守すること、並びに、使用した場合の対象者の訴え、反応を注意深く観察する必要性等などについて、当事者である家族の体験を通して学ぶ機会は、重要で意義深いと考えている。陣痛促進剤の問題も、単なる医療事故ではなく、情報公開の不足、責任回避、遺族に対する無理解や偏見といった社会的構造が複合的に関わっていることを、将来、医療に関わる学生に臨床に出る前に学ぶ機会として利点がある。	今後実施予定のためなし	
富山大学	医学部 看護学 科	医療学入門	1年次	本人	薬害エイ ズ	・医療学入門 医療倫理の基本的原則を学ぶことができる。 1) 患者の立場を一般的に理解する態度を養う。無危害原則。 2) 一歩進んで、患者の悲しみを追体験し、他人の身になって考える態度を養う。善行原則。 3) 無思想性を脱却し、現代社会に対して、批判的に思考できる態度を培う。自律原則。 4) 社会正義の視野を培う。正義原則。 5) 弱者、マイノリティに対する理解。尊厳原則。 6) 友達の質問を聞いて、自分と同世代の人がいかに考えているかを学ぶ。連帯原則。	・医療学入門 大変良い。課題としてレポートを提出させているが、それぞれが皆、薬害が起こる構造について、おおむね理解しているようだ。	
金沢大学	医薬保 健学域 保健学 類看護 学専攻	臨床薬学論、医薬保健学 基礎Ⅱ	1年次、 1年次	調整中、 本人	イレッ サ、サリ ドマイド	・将来医療従事者となる立場から、薬害問題を自分自身の問題としてとらえることができる。 ・薬剤裁判の当事者から話を聞くことにより、紙面上（教科書上）のものではなく現実のものとして受け止めることができる。	「医療制度や規制のあり方についても考えさせられた。」 「患者の安全を守るためには、医療機関や製薬会社、政府などが連携する必要がある。」などの感想があった。	
福井大学	医学部 看護学 科	大学教育入門セミナー	1年次	本人	サリドマ イド	被害者の方をお招きして直接話を聞くことにより、薬害の被害の大きさ、薬害の原因、実態、被害者やその家族に対する対応の歴史や偏見、人権問題等について具体的に知ることができ、医療従事者として薬害問題にどう向き合うか、考察する機会を得られる。	薬害発生の際の経緯の理解や、回収の遅れ等の対応、被害者の方に対する共感等の感想が多かった。また、「看護職は患者さんに一番近くで関われる職ではあるが、医者のように医療行為で携わることはできない。こういった場面で看護職がどうしていくか自分の中で考えていきたい。」等、将来看護職としてのあり方を考える声もあった。	
山梨大学	医学部 看護学 科	医療チームの中の看護 (医学科看護学科合同授 業)	3年次	本人	AHF製剤に よる非A 非B型肝炎 (C型肝炎) 感染。輸入 血液製剤 によるHIV 感染。	基本的な事柄を授業で学んだ上で当事者の声を聞くことにより、理解を深めることができる。	当事者の声を聞くことにより、薬害についてより関心を持つことができ、医療者を目指す者としては授業の内容をより深く理解していきたいと思ったなどの意見、感想があった。	

大学名	学部学科等名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師	取り上げ た薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害につい ての授業実施における効果 果
信州大学	医学部 保健学 科看護 学専攻	健康科学概論	1年次	本人	薬害エイ ズ	●薬害に対する正しい知識が得られる。 ●単なる「副作用」とは異なる被害者・親族の身体・心理・社会的影響の甚大さを生の声で聞くことができる。 ●薬害が派生する背景を制度や経済などの幅広い視点から考えることができるようになる。 ●1年次から「薬物製剤」「薬物療法」等の背景にある社会的課題を視野にいれながら学ぶことができる。	●代表的な学生の反応・感想を列記する：「薬害を受けた患者さんは、被害を受けて訴訟を起こし、判決がでて表面上は薬害問題が収束したとしても、その後何十年感もずっと被害者であり続けるということを知った。エイズパニックが起こり、メディアの報道方法が差別的であったことが、エイズ患者への差別を悪化させていたことを知り、知識がある人でさえ差別の風潮に乗ってしまうことが怖いと感じた、正しい知識を得ることの大切さを感じた。」「薬害エイズ事件は、医薬品の安全性や行政の責任、社会全体の認識において大きな影響をもたらした事件だと感じた。特に被害者が病気そのものだけでなく、社会的偏見や差別とも闘わざるを得なかった現実には深刻な問題だ。このような悲劇を繰り返さないために、医療従事者だけでなく一般市民にも薬害への理解を深める教育が必要不可欠だと考える。」「この事件を通じて、医薬品利用には常にリスクが伴うことを再認識するとともに、製薬業界や行政、医療従事者、さらに社会全体が協力して透明性や安全性を追求し続ける必要性を改めて感じた。」「今回の講義で薬害エイズと血友病の問題は、医療従事者として考えさせられるものだったと思った。1980年代に使用された血液製剤がHIVに汚染され、多くの血友病患者が薬害エイズの犠牲者となったと知り、このような事態が起きた背景には、薬の安全性管理が十分でなかったことがあり、自分も医療学生として、患者の信頼を裏切ることなく、安全な治療を提供する重要性を痛感した。」	複数の種類の薬害については実施していない。講義では「薬害の歴史的経緯」の内容の中で、「薬害エイズ」の他に「サリドマイド薬害」「薬害スモン」「薬害ヤコブ病」などについて学ぶ。
岐阜大学	医学部 看護学 科	医学概論	1年次	本人	アルブ ミン製 剤、免 疫グロ ブリン 製剤、 血液凝 固因子 製剤	薬害の歴史や行政の対応、社会的偏見に対する知見を深めることができる。学生の医療に対する真摯な気持ちを喚起することができる。医療従事者を志す者として心構えを学ぶことができる。	実際の薬害被害者からの声を聞くことができ、心が痛むと同時に、学ぶことが多かった。学生からは、有意義であったとの声があった。	これまで様々な薬害被害が繰り返されてきたこと、将来医療従事者となる学生に対し、将来の現場でこのような惨禍を起こさない心構えを学ばせることができる。
浜松医科大学	医学部 看護学 科	医療概論	1年次、 編入3年 次	本人	HIV	薬害被害者の声を直接聞くことによって、看護師となるうえでの心構えを学ぶ機会となった。実際に受けた差別や偏り?がどのようなものか実感できた。	・薬害は副作用とは異なり、製薬会社・行政・医療機関などの過失や制度の欠陥によって起こる「防ぎ得た被害」であり、医療に携わる者としてその重大性と責任を強く認識した。 ・被害者が受けた差別・偏見を知り、単なる治療ではなく、思いやり・傾聴・相手に寄り添う姿勢が欠かせないこと、患者を対等に扱い信頼関係を築く必要を痛感した。 ・医療者として最新の情報を常に学び続け、観察力と早期対応力を高めること、過去の不祥事を教訓に管理体制や制度の改善、多職種協働の必要性について考えるきっかけとなった。	今年は、HIV薬害であり、今まではワクチンや肝炎についても被害者をお招きしてお話を聞いてきた。一度に多くの方からお話を聞く機会はあまりなく、いろいろな被害があることを認識するためには効果的かもしれない。
滋賀医科大学	医学部 看護学 科	保健医療行政論	2年次	本人	血友病患 者への血 液製剤に よる薬害 サリドマ イド薬害 、ソリブ ジン薬害 、陣痛促 進剤薬害 、スモン	学生は、血友病、血液製剤や薬害エイズといった単語について、新聞、テレビ等の報道によりキーワード的な知識としては知っているが、それらがどのような病気なのか、どのように感染するのか、生活していくうえでどのような支障があるのか、社会の人々はどのように受け入れているのか等、深く掘り下げて知識を得る機会にはなかった。しかし、実際の薬害被害者の生の声による特別講義を実施することで、学生は薬害問題について自ら考える機会を得ることができ、将来看護師として医療に携わることを想定すると有意義である。また同時に薬害エイズについては血友病治療の医療技術革新の過程で生じていることや、新たに認可された薬剤も販売後に初めて新たに見つかる問題があることを学んでいた。さらに看護職に引き寄せて薬害問題の再発予防策を考えるにあたって、薬剤の添付文書に目を通すことや、患者の訴えと文書情報を照合して問題がないかを確認するなど、育薬についても考えることができていたことは評価できる。	特別講義後の学生へのアンケートにおいては、「医療人を目指す者としての自覚が深まった」、「薬の副作用について、再考するきっかけとなった」、「薬害問題についてさらに深く知ろうという意識が芽生えた」等、真摯な姿勢による感想が多く、本学としては、当該特別講義の実施が学生にとって極めて有意義なものであったと理解できる状況である。	

大学名	学部学科等名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師	取り上げ た薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害につい ての授業実施における効 果
神戸大学	医学部 保健学 科	初期体験実習	1年次	本人	サリドマ イド被害	入学後の早い時期に薬害被害者の講演を聴くことにより、薬害そのものや薬害被害者が置かれる社会的状況に関する知識を深め、医療関係者になる者としての責任と課題意識をもって今後の勉学に臨めるようになることが期待される。	初期体験実習：医療者になるものとしての責任と課題意識を持ったとの回答が多く寄せられた	
鳥取大学	医学部 保健学 科看護 学専攻	病の体験と医療	4年次	本人	薬害筋短 縮症中心	薬害の歴史、訴訟の経過、当事者の生の声を聴くことができ、被害者の置かれた状況を具体的に知ることができる。看護者としての態度、行動を考えることができる。	薬害被害者の思い、薬害が被害者の生活等にどのように影響を受けたか理解できた。患者に対する偏見、差別を実感した。看護職、医療職の態度、行動を考えた。	
広島大学	医学部 保健学 科看護 学専攻	周産期健康障害看護	2年次	本人	陣痛促進 剤	医療事故の重大性とその回避法について、患者の立場による捉え方を学習できる。 また、医療事故の解決を個人的な問題としてのみ捉えるのではなく、広く社会の問題として捉え、医療事故予防の政策反映を踏まえた活動について、その重要性を学習できる。	【学生の感想より一部抜粋】 ・SNSで無痛分娩を使ったという人の投稿を見て、自分も将来できるだけ痛い思いしたくないなと思っていて、無痛分娩という選択肢を選ぼうと考えていましたが、ネットで調べたときに、あまりよくないと出てきて、理由がよく分かりませんでした。しかし、今回の講義を聞いて、陣痛促進剤の危険性が理解できました。正しい知識をもって、正しい使い方で、それを妊婦側も理解した上で、利用するのは良いと思いますが、今、無痛分娩に関するSNSをよく見かけて、安易に、選択肢に入れて考えてしまう人も多いと思うので、医療従事者側も、正しい知識を伝えられるようにもっと勉強していきたいと思いました。 ・陣痛促進剤で事故があることは今日の講義で初めて知りました。出産の記録が細かく書かれていて赤ちゃんが無事にうまれることを楽しみにしておられたことが伝わりましたが、その分医者や准看護師の考えられない態度に胸が苦しくなりました。ご自身のつらい経験からこのような会を立ち上げわたしたちに講義をして大切なことを教えてくださりとてもありがたいと感じました。 ・陣痛促進剤が医学的な根拠もなく、使われることを知り衝撃を受けました。現在の日本の医療でも出産時に使う薬剤の説明が十分でないことを知って驚きました。薬の感受性は人によって違い、個人差があるため、今までは大丈夫だったから今回も大丈夫とは限らないため、そのことをよく頭に入れて、経過の観察や注意をすることは重要だと思いました。薬剤を使う際は医学的な根拠を考える必要があることが分かりました。出産の際、腹部が張りっぱなしの場合は、異常であると分かりました。子宮破裂などの事故を防ぐために、陣痛の監視は重要であることが分かりました。こども家庭庁のホームページは妊娠中の女性が利用するには、分かりづらいと思いました。 ・陣痛促進剤の適切でない使用によってたくさんの命が奪われていることを今回の講義を聞いて初めて知りました。医師や助産師の話を鵜呑みにするのではなく、薬剤を使用するデメリットにまで焦点を当て自分でも知識をつけておくことが必要と感じました。	

大学名	学部学科等名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師	取り上げ た薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害につい ての授業実施における効 果
広島大学	医学部 保健学 科看護 学専攻	周産期健康障害看護	2年次	本人			・陣痛促進剤についてこれまであまり詳しく知らなかったですが、無痛分娩などでも使用され、リスクがあるということが分かりました。陣痛促進剤を使用する場面として、医学的な理由のある時があるが、陣痛を促進しないと出産が遅れるだけで、はっきりとした医学的理由のない場合もあるので、納得のいかないときは「誘発しないとどうなりますか？」と医師に聞くことが大切だと学びました。陣痛促進剤の被害事例を読んで、医師が遅発一過性徐脈を把握していなかったり、産婦の痛いというような声を聞き流していたりと、医師の対応が適切ではないと思いました。他にも、子宮破裂を起こした産婦に対する声掛けや、亡くなった産婦の旦那さんに対する言葉がけが心無いもので、決して許されることではないと感じました。陣痛促進剤のリスクについて医療従事者が適切に把握することはもちろんのこと、産婦や産婦の家族も陣痛促進剤について理解できるように、添付文書の警告欄に適切な文言を記載することが必要と感じました。 ・出産という大きな医療行為に対しての向き合い方について、看護学生としても女性としても考えるきっかけとなりました。痛いのは嫌だし無痛分娩したいなー、でも結構お金かかるみたいだなー、とそのくらいののんきな印象しかもっていなかったのも、知らず知らずのうちに自分や自分の子供を危険にさらしてしまっていたかもしれないと気づき本当に恐ろしく感じました。無知は罪で、医療従事者として多くの人の希望と不安を抱えて、責任を持った医療行為がとれるような看護師になりたいと思いました。貴重なお話をありがとうございました。 ・被害者の方の訴えとそれに対する製薬会社と医療者側の誤い対応に驚きました。医療者側の立場が余りにもかわいそうとも思いましたが、お母さんと赤ちゃんが主体でなければならないから、対象者を尊重する立場をとらなければならないと思います。無痛分娩が増えているから、安易な選択を避けるためにもよりいっそう医療者側の説明責任の必要性が増していると感じました。医師の選択が正しく行われているか判断する責任も看護師・助産師にもあると思うので、深い理解が必要だと感じました。	
徳島大学	医学部 保健学 科看護 学専攻	薬害講演	3年次	本人	B型肝炎	薬害被害の講演を聴き、総合討論を行うことで、生命の尊さを自覚でき、医療事故防止の重要性を認識できること。	例年、多くの学生が現実の身近な問題として考える機会をもち、薬害の実態を正しく理解することの重要性についての前向きな感想を述べている。	
香川大学	医学部 看護学 科	薬害被害者の声を直接聴く特別講義	4年次	本人	HIV	薬害被害者の生の声を聞くことは、通常の講義とは違った角度から学びを深めることができる。また、近い将来看護師となった際の責任の重大さ、患者との関わり方などを改めて考えさせる貴重な機会となっている。	薬害の歴史や薬害の実態を学べて良かったという声や、危険性が分かった時点で国や医療者が患者さんをどう守るかが大切だと感じたという感想があった。	
愛媛大学	医学部 看護学 科	医療被害と看護	4年次	本人	C型肝炎	薬害肝炎訴訟原告団（本人・家族）が受けた様々な苦悩について生の声を聴くことができる	医療被害にあった人は生涯を通して身体的・精神的・社会的苦痛を味わう、医療被害者の相談の場がなく整備が必要である、感染の可能性のある疾患では特に社会全体の誤った知識や偏見・差別が二次被害を生む、被害者への精神的なサポートや適切な情報提供によって権利を守り、地域の看護職と包括的な支援をすることで、患者の社会的孤立を阻止することが看護職者の重要な役割である	

大学名	学部学科等名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師	取り上げ た薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害につい ての授業実施における効果
九州大学	医学部 保健学 科看護 学専攻	医療系統合教育科目「薬 害」	3年次、 4年次	本人	サリドマ イド、エ イズ、ヤ コブ病、 肝炎	薬害の多さ、薬害の歴史的背景、過ちを繰り返さないための正しい情報提供に関するシステムと限界などについて学ぶことができる。被害者本人の生の声、苦しみ、実際に受けた差別の話等を聞く事によって、薬害の真の意味の重大さを知ることができる。	被害者の実際の声を聞いて、より具体的に薬害について学び、理解が深まったという声が多かった。過去の薬害では、国の対応の遅れ、医師や製薬会社の無責任な対応、製薬会社の利益追求が原因―警告や危険情報に対する行動の遅れが問題であったことを学んだ。医療従事者は加害者にも、被害者にもなりうる。薬物は、医師・歯科医師→薬剤師→看護師とくるが、もし疑問を感じたら、確認して与薬することが必要で、良いコミュニケーションをとることが必要だと感じた。企業や行政の責任が大きい、私たち医療従事者が「最後の砦」となる覚悟を持つ必要がある。他学部（医・歯・薬）の学生と同じテーマで話すことができた。薬害を防ぐためには「幾重ものバリア」が必要で、防げる可能性がある。医師、歯科医師、薬剤師、看護師、自分の仕事はこれだけとせずに、重なる部分も自分の仕事と思ってバリアを厚くすることが薬害防止につながる。今後も医療従事者の継続的な学習が必要である。	それぞれの薬害の発生の背景、発生時の状況や対応の違い等があるため、薬害に対する理解や見識をより広めることができる。
佐賀大学	医学部 看護学 科	コミュニケーション論	1年次	本人	サリドマ イド	薬害被害を受けた方からの視点や立場からの講演を行っていただくことにより、広い視野からの「薬」や「医療」に関する認識を深めるとともに、薬害被害の現状に接することができる。	薬害の被害に苦しんでいる人々がいることは以前から知っていたが、実際に被害を受けた方からの話を聞くのは初めてのことだったので、学校で習ったことよりも悲惨さがはっきりと伝わった。 言葉を選び、相手を思いやって発言することが大切であり、コミュニケーションの重要性について考えさせられた。具体的にサリドマイドがどのような障害をもたらすのか、国と製薬会社が薬害に対してどのように対応してきたかなどを学ぶことができた。	
熊本大学	医学部 保健学 科看護 学専攻	薬害被害講演会【特別講演会】	3年次	本人	フィブリ ノゲン	薬害被害の実態、被害者がどのような思いで日々を生きてこられたのか、また医療施策の問題点について理解を深めることができる。	薬害被害の存在を知ることができた、医療者としてどうすべきかを考えるきっかけとなった、との意見があった。	
札幌医科大学	保健医 療学部 看護学 科	社会と健康史	2年次	本人	薬害エイ ズ	「社会と健康史」において、薬害被害者から直接的に体験を聴かせていただくことで、被害者やその家族に対する理解を深め、薬害が起こらない社会を目指してできることを考えるきっかけとなる。	「社会と健康史」において、薬害エイズについて知識をほとんど持っていないかった学生が、医療者として正しい知識を持ち、患者の利益を優先することが大事だという感想が見られた。	
東京都立大学	健康福 祉学部 看護学 科	慢性期看護学演習	3年次	本人、 弁護士	ウイルス 性肝炎	特別講義後、学生には①看護職の役割、②当事者への偏見・差別と改善点についてリアクションペーパーの提出を求めた。講義では、当事者自身の体験や発言を通じて現存する課題を具体的に理解することができ、学びの意義が大きかった。さらに、患者の生の声に加え、法律の専門家による活動内容に触れることで、患者理解を深めるとともに、医療の現場における人権や権利擁護の重要性を考える機会となった。これらの学習経験は、教科書やメディアでは得られない事実を知る契機となり、将来の医療専門職として必要な真実を見極める力や倫理的意識を養う実践的な教育の一端を担うものであった。	患者会の活動を通じて当事者同士の支援や社会的啓発の意義が示され、患者や家族が直面する困難を社会全体で共有する必要性が指摘された。さらに、訴訟を通じて当事者と法律・医療などの専門職が連携し、権利擁護や環境改善を進める重要性にも言及があった。これらの感想は、疾患を医学的課題にとどめず、社会的・倫理的課題として多面的に捉える姿勢を示しており、今後の医療者に求められる視点を具体的に反映していた。	リアクションペーパーには、B型・C型肝炎に関する偏見や差別の実態に触れ、それを克服するために医療者として正確な知識を持つことの重要性が強調されていた。
横浜市立大学	医学部 看護学 科	感染看護学	4年次	本人	薬害エイ ズ	薬害エイズの社会的背景や制度的課題を実体験を通して深く学べる。 当事者の語りから、偏見や差別に対する当事者の思いを直に理解できる。 実習や臨床に向けて、倫理的態度や人権感覚を涵養する機会になる。 学生とのディスカッションにより、主体的な気づきと内省が促される。	「薬害エイズは、国が止血効果を優先し感染リスクを無視した結果起きた問題。背景を学べてよかった」 「当事者の語りから、自分のHIVに対する偏見に気づいた」 「HIV感染症が“死の病”ではなく、日常生活を送れる慢性疾患であると理解できた」 「当事者の生の声に触れたことで、今後、偏見を持たずに向き合いたいと感じた」 「病気による差別の現実に関心がもてた」	
公立小松大学	保健医 療学部 看護学 科	保健医療福祉法制度論	2年次	本人	B型肝炎	学生が生まれる前の話で、「初めて知った」という経験をしている。被害者の苦痛や前向きに生きようとする姿勢に心を打たれている。教育の意義があると回答した学生が非常に多かった。	学生が生まれる前の話で、「初めて知った」という経験をしている。被害者の苦痛や前向きに生きようとする姿勢に心を打たれている。教育の意義があると回答した学生が非常に多かった。	

大学名	学部学科等名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師	取り上げ た薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害について の授業実施における効果
福井県立大学	看護福祉学部看護学科	臨床病態学Ⅱ	1年次	本人、 弁護士	集団接種 によるB型 肝炎	学生が薬害被害者本人より生の声を聴くことにより、薬害に関して身近なものとしてとらえ、理解を深めることができる。	授業後のアンケート結果からも強い関心を示していた。	臨床薬理学では薬害一般の歴史や補償について扱っている。
名古屋市立大学	医学部保健医療学科看護学専攻	疫学・保健統計学Ⅰ	1年次	本人	薬害エイズ	薬害当事者からの講義を受けることで、今後医療者になるものが、自身も薬害の加害者にも被害者にもなる可能性があることを、身をもって学ぶことができる。また薬害被害にあり、希望通りの人生ではなくなったかもしれない当事者の語りを聞くことで、薬は間違えて使われることで、人生を大きく変える影響があること、医療者は人に大きな影響を与えうる存在であることを深く考えることができる。また薬害発生の過程や社会的な動き等を学ぶことを通じ、今後、同様の被害が起こらない社会の仕組みの在り方等を考えることができる。	学生の反応はよく、特に当事者スピーカーからのリアルな声を本人から、目の前にて聞くことができるのは、大きな学びとなるとの声が多い。また質疑応答の時間を設けるとさらに、学びが深まるとの声があった。医療は過去の失敗から、多くの人の犠牲に成り立つことを学べたとのこと、また医療保険従事者は、常に患者から学び続けなければならないとの声も多い。	
大阪公立大学	看護学部看護学科	看護学概論	1年次	本人	HIV/AIDS	卒業後必ずしも出会う機会が多くない薬害被害者から直接講義を受ける意義は、薬害が他人事や単に新聞の世界の話ではなく、薬害やそれに伴って生じた感染症を身近に感じ取ることができる。また、当事者からの声が心によく残り、本学の卒業生は行政や公衆衛生に関わる者も多いので、将来の行政能力の向上にも貢献できていると考える。	対面授業であり、当事者の思いが伝わったとの感想がみられた。薬害が単に薬の特性によるものばかりでなく、人間の行動や政策、政治・企業・医療従事者の腐敗によっても引き起こされる点を指摘する学生や、薬害を身近に感じ看護職としてどうあるべきかを考える学生が多くいた。また、講義後のレポートでは、他の薬害にも関心を向けて調べる学生もいた。新型コロナ感染とも関連付け、差別問題や患者の利益について考察する学生もいた。また、講演者の「看護学生へのメッセージ」に対して、「看護職として社会（社会的に弱い人立場にある々）に貢献できる人材になりたい」との感想が多く述べられていた。	
和歌山県立医科大学	保健看護学部保健看護学科	ケアマインド教育	1年次	全国B型肝炎訴訟原告団・弁護士団	B型肝炎	薬害問題の現状と現在の対応等について、患者の視点から考える良い機会である。	講義受講前はほとんどの学生が、病気や被害者について知識のない状態であるが、講義後は医療従事者として、病気に対する正しい知識、患者や患者家族に接する際の態度や言動を身につけていきたいなど、学生の意識が高まっている。	

大学名	学部学科等名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師	取り上げ た薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害について の授業実施における効果
周南公立大学	人間健康科学部看護学科	看護学概論	1年次	本人	薬害エイズ	被害者本人からの講演を聞くことで、薬害エイズの問題は過去の出来事ではなく、現在も続いていることを知る機会となる。 本人から症状のつらさや差別のつらさを聞くことで、医療者としてどう薬害と向き合うかを考える機会となる。	看護師を目指す私にとって、疾患をケアするだけでは足りない、「人の痛みとともに寄り添う姿勢」の重要性を学ぶ機会となった。 看護師としては疾患をケアするだけでは足りない、「人の痛みとともに寄り添う姿勢」の重要性を学ぶ機会となった。講演の中で印象的だったのは、患者さんが「声を上げ続けたこと」で社会が少しずつ動き出したという言葉だ。薬害の真実を訴える中で、支援者や仲間が増えていった過程は、医療や看護の力だけではなく、人と人のつながりの中に希望があることを教えてくれた。私はこれまで、知識を身に付けることばかりに意識が向いていたが、今回の講演を通して、「命の重み」に向き合う覚悟や倫理観の大切さを痛感した。 HIVという病気そのものの恐ろしさだけでなく、治療薬を通じて感染したという理不尽な現実、さらにそれに対して社会が行ってきた差別や無理解が、人の命と尊厳をどれ程傷つけてきたのかを実感した。患者さんは、自らの病と向き合いながらも、「病気よりもつらかったのは世間の目だった」と語っていた。それは、ただの医学的問題ではなく、社会全体の意識や偏見の問題と気づかされた。 講演からは未だに根強く残る偏見や差別、無理解、無責任な報道による被害が存在しているという現実を痛感した。患者は医療や社会の中で安心して暮らせる環境を求めている。医療者として私たちは単に病気の治療を行うだけではなく、患者の人権や尊厳を守り、社会的な偏見をなくすための活動にも積極的に参加するべきであると強く感じた。 「病気の痛み」以上に「偏見や差別の痛み」が人を深く傷つけるということを学んだ。薬害エイズという病気に対する無責任な報道、誤解や恐れが、感染した方々を社会から孤立させ、心まで追い詰めてきたという現実、胸が苦しくなった。	
高知県立大学	看護学部看護学科	グローバル社会と看護Ⅰ	1年次	未定	薬害エイズ・C型肝炎	薬害というと、とかく被害者・家族の感情的な面が強調されるが、薬害をグローバル化との関連で取り上げることによって、事実を客観的に、分析的に学習することができ、多くの学生が抵抗なく学習できる。	薬害エイズ事件を知り、興味をもったとの感想が目立つ。被害者本人が対面で講義を行った回（昨年）では、被害者の心情を思いやり、再発防止のために看護師としての決意を述べている例もある。	薬害エイズとC型肝炎について紹介しているが、感染症の病態、治療の相違、課題の複雑さ、広さを学習する機会となっている。

大学名	学部学科等名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師	取り上げ た薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害につい ての授業実施における効 果
福岡県立大学	看護学部看護学科	看護倫理学	2年次	本人	サリドマイド	有意義な点（教育的意義） 1. 「当事者の声」から学ぶ看護の本質 被害者の語りは、単なる知識の伝達ではなく、「命の重さ」「健康被害の深刻さ」「回復への道のり」など、教科書では得られない人間的な経験を伝えるものである。これにより、学生は「看護とは何か」「患者にどう向き合うべきか」といった看護の根本を深く見つめ直すきっかけとなる。 2. 倫理観・責任感の醸成 薬害は医療制度や企業、行政、そして医療者の判断ミスが複雑に絡み合って発生した問題である。被害者の語りは、看護師としての職業倫理、説明責任、安全性への配慮の必要性を実感させ、「自分の判断が誰かの人生に影響を与える」ことの重みを自覚する契機となる。 3. 患者中心の視点の深化 看護学生は医療者視点に偏りがちであるが、被害者の語りは「患者の苦悩・葛藤」「生活への影響」「制度からの疎外感」などを伝えることで、患者中心の視点や共感力を養う機会となる。 利点（実践的効果） 4. リスクマネジメントと安全管理意識の向上 医療現場において再発防止や医療安全の徹底が求められるなか、薬害の実例は「なぜ安全管理が必要なのか」をリアルに伝え、学生に主体的なリスク感覚を育む。 5. 医療の歴史と制度を自ら考える力の育成 薬害事件を通じて、医療制度・薬事行政・市民運動の変遷を知ること、医療の進歩の背景や限界を理解し、「制度をどう良くするか」という社会的視点を持つ看護職の育成につながる。 6. コミュニケーション能力の涵養 当事者との対話を通じて、相手の想いを傾聴し、言葉の重みを受け止める経験は、将来の患者や家族との信頼関係構築に役立つ重要な実践的訓練となる。	感想：抜粋「薬は服薬するタイミングによって児に影響が出るということに驚きました。やはり、薬は適切な薬、時間、量で服用することが大事なのだと痛感しました。また、サリドマイドの薬害被害者の女性が少ない理由はおそらく生まれてから殺されるためだと聞いて、当時の時代背景に驚きました。」	
日本赤十字北海道看護大学	看護学部看護学科	成人慢性看護学演習	2年次	本人	B型肝炎	薬害被害者の声を直接聞くことは、薬害被害者に関する正しい知識教育をするうえで大変有意義である。	今年度はこれから実施予定であるが、昨年度の実施においては活発なグループディスカッションができ、薬害被害に関する学生の理解を深めることができた。	
北海道医療大学	看護福祉学部看護学科	医療概論	1年次	本人	薬害エイズ	薬害HIV感染被害者の方に直接話していただくことで、薬害問題が誰の身にも起こりうる身近な問題であるのだと知り、予期せぬ医療上の問題が起こったときに医療者や行政を含めた関係者が速やかに誠実に対応していくことが何よりも重要であることを実感できるのが最大のメリットです。また、薬害HIVを知らない学生が半数を超えてきており、当事者にお話をしていただくと、問題が風化しないよう次世代に語り継ぐのに非常に有効だと思います。さらに、専門科目に入る前の低学年向けに授業を行っているのですが、HIV・エイズについて感染ルートなどを知らない学生も年々増えており、性感染症に関して学ぼうとする契機にもなっているようです。	同一講義内の他の回と比較し、集中して聴いています。また、学生からは薬害について知らなかった、感銘を受けた等、大きな反響があります。	
北海道文教大学	医療保健科学部看護学科	保健医療福祉行政論	1年次	本人、本人	薬害エイズ	薬害被害者の当事者とそのご家族かた直接、お話を伺うことで、身近に薬害の問題をとらえることができ、将来、看護者として薬物を扱う際に、より慎重かつ対象者の側に立ったケア等が実施できると考えられる。また、医療に限らず、行政の問題など社会的な視点をもつことができると思われる。	今後実施予定のためなし	複数の種類の薬害について学ぶことで様々な視点で薬害をとらえることができる。

大学名	学部学科等名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師	取り上げ た薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害につい ての授業実施における効 果
岩手医科大学	看護学部看護学科	看護学概論（全人的医療 基礎講義含む）	1年次	本人	薬害エイ ズ	薬害エイズ被害者の実体験を聞くことができる	講義をうけ、自分で情報を集め判断することの重要性を学んだ。専門家の言葉は無条件に信じてしまいがちだが、今回の講義を通じて物事をあらゆる方面から俯瞰することも必要なのだと考える。薬害を未然に防ぐために患者と一番近い存在である看護師にできることは、患者がその薬の作用やリスクについてをしっかりと理解しているかの確認と、医師・薬剤師等の多職種連携で危険が無いかを確認することであると考え	
東北文化学園大学	医療福祉学部看護学科	アカデミック・スキル演習	1年次	B型肝炎 控訴原告 者：未定 弁護士 弁護士	B型肝炎	学生が薬害被害についての、倫理的課題を理解し、医療者の責任について考えることができる。	今後実施予定のためなし	
茨城キリスト教大学	看護学部看護学科	生と死の倫理	4年次	本人	サリドマ イド	当事者の声を聴くことで、当事者の言葉でしか語り得ない経験や苦悩を知ることができる。	具体的な体験に基づく話を聴くことで、当事者の苦悩に関する理解が深まるほか、この問題に対する関心を持つ学生も多くみられている。	【授業科目名称】精神保健 【必修・選択等】必修 【修年次】2年次 【講義の概要】薬物依存症の諸問題やDARCの支援活動 【薬害被害】①被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史：内容の有無 ○ 具体的な教育内容：覚醒剤の歴史（戦争で使用されたヒロポン：メタンフェタミン） 【薬害被害】②被害者や遺族への差別や偏見の問題について：内容の有無 ○ 具体的な教育内容：薬物依存症患者やその家族に対する支援について薬物依存症支援施設の施設長（茨城ダルク）から話（講話）を聴く。 【授業の効果】茨城DARCの施設長（元暴力団組長、自身が薬物依存症の経験を持つ）の講義を聴くことで、薬物依存症患者および家族支援の諸問題や支援の困難さを学ぶことができる。 そして、日本における若者の薬物依存症の実態について考えることができる。

大学名	学部学科等名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師	取り上げ た薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害につい ての授業実施における効果
常磐大学	看護学部看護学科	母性看護援助	3年次	本人	サリドマイド薬害	看護職として、薬害被害に関する理解を深め、被害を受けた方々に寄り添う態度を養い、また薬害防止策や安全な薬剤使用を行うための責務と行動について考察する機会となる。	・義務教育で戦争、公害、薬物乱用については習ったが、薬害については初めて知った。講義前は他人事のようにニュースを見ていたが、市販薬の薬害であるサリドマイドの講義を聞き、薬害に対する認識が変わった。 ・薬害の原因は薬ではなく「人」であることから、薬を扱う人、薬を利用する人など、薬に関わるすべての人が安全を第一に考え、薬を安心して服用できるようにすることが大切だと学んだ。 ・看護職となるうえで、薬剤や薬害に関する知識を深め、患者に正しい情報を伝えることや患者が知る権利の重要性について考えた。 ・薬害は過去の話ではなく現代でも繰り返されてしまう可能性があること、一人でも多くの人に教育をすることで、人々の安全を守ることができることを学んだ。	
獨協医科大学	看護学部看護学科	生命倫理学	1年次	本人	サリドマイド薬害	学生には遠い話題となったサリドマイド事件の被害者の話を直接聞くことで、薬害の恐ろしさと看護専門職者としての責任を痛感する機会となっている。	メリットに記載	
埼玉医科大学	保健医療学部看護学科	病むことの心理	2年次	本人	イレッサを中心に、我が国における主な薬害被害。	当事者の方から直接、話を伺うことは、学生にとって極めて貴重な機会です。	学生はあらかじめ予習をして講義に臨み、講義後、講師へ質問をしています。翌週のグループワークでは、各グループそれぞれ、テーマを定めてディスカッションをしてPPTにまとめ、翌々週、全体発表と共有をします。グループのテーマは多様であり、学生たちが様々な視点から講義を受け止めていることがわかります。また、日常生活における「くすり」との向き合い方についても改めて考え直す機会にもなっているようです。	
大東文化大学	スポーツ・健康科学部看護学科	Daito 'Green' Ceremony-Reflection on a Nursing Journey- (学科行事)、基礎ゼミナール (特別講演)	1年次、 3年次	本人、 弁護士、 本人	B 型肝炎薬害被害、サリドマイド薬害被害	1. 薬害被害の歴史的事実を知り、看護職者として薬害被害再発防止(医療安全)のために必要なこと学ぶことができる。特に、薬物に関する知識の必要性、安全な薬物療法実施のための技術、薬物療法を対象者へ説明できる必要性について学習できる。 2. 薬害被害者の声を直接聴き、病気や身体・精神・社会的な生活上の苦痛について、認知的・情意的に共感できる能力を養うことができる。 3. 後遺症がもたらす日常生活への影響とその支援のあり方について、看護職を目指すものとして学ぶことができる。 4. 薬害被害者や弁護士からの声を聴き、偏見や差別の実態と権利擁護の実際と重要性について具体的に学ぶことができる。	実施済の授業科目2について寄せられた感想や決意として以下のものなどがあつた。 ・サリドマイド薬害被害についてはこれまでの授業や事前課題で存在を知っていたが、当事者のご講演は大きなインパクトがあつた。また、薬害被害はその人の人生だけでなくその家族を含めて大きな影響を受けることがわかつた。 ・「薬害の原因は薬ではなくて人」というお言葉が非常に印象に残つた。離床に携わるものの責任の重さを痛感した。 ・自分の行動や言葉が、当事者の方にとって好ましいものなのか逆に傷つけてしまうものなのかをしっかりと見極め、コミュニケーション能力を高めていきたい。 ・「自分はこの体で生まれたが、それを完璧だと思っている。みなさんも持っていないものではなく持っているものに注目し、自分を認めてあげてください」という演者のお言葉に、自分自身が勇気づけられると共に看護の指針をいただいた。 ・これから薬害への知識を深めるだけでなく、なぜこの薬を使うのかなど根拠を持って説明できるよう、主体的に学んでいきたい。	1. 複数の種類の薬害をテーマとすることで、薬害の発生過程や当事者に及ぶ影響などの多様な問題状況について理解を深めることができる。 2. 薬害の歴史を多面的に学修できることから、医療従事者を目指す者として、薬害の再発防止や早期発見、薬害被害によるスティグマや権利擁護などの意識をより高めることができると考えられる。 3. 異学年で実施することで、看護学の学修が進んだ状態で薬害に対する理解をさらに深めることができる。
日本医療科学大学	保健医療学部看護学科	臨床薬理学	1年次	本人	サリドマイド剤被害	日本における薬害の歴史などを、学ぶことが出来る。また、薬害被害の当事者より直接話を聞くことにより、被害者の置かれた立場や心理を共感的に理解できる機会となる。	単なる同情ではなく当事者自身の強さを知ることができた。薬害を根絶することの重要性を考えるきっかけとなった。人間にとっての「しあわせ」を考えるきっかけとなった。	講師が日本における薬害の歴史を含めて講演されており、薬害根絶に向けた患者組織についても、学ぶ機会となっている。
目白大学	看護学部看護学科	総合看護学セミナー	4年次	本人	サリドマイド・C型肝炎	当事者の体験談を直接聴くことにより薬害被害の重大さを強く認識し薬害防止に向けた取り組みを通して、将来看護職として働くうえで自分たちの役割を考えることができる。	授業後のアンケートでは、体験談を直接聴くことで、薬害についての知識にとどまらず、医療者の為すべきこと、そもその人としての在り方、薬害教育の在り方など学生は多くのことを深く考えることができたと回答していました。	

大学名	学部学科等名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師	取り上げ た薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害について の授業実施における効果
城西国際大学	看護学部看護学科	公衆衛生看護学概論	2年次	本人	薬害エイズ	患者理解や、医療従事者自身の持つ無意識な偏見や差別について自分自身に対しても問い直すことができる。	・まずは誤解や偏見を持たずに接することが大切であり、相手の気持ちになり寄り添いながらアプローチをすることが大切。心構えとして、HIVは日常生活では感染しないという事実をしっかりと理解することである。 ・「恐れず、特別扱いせず、敬意と理解を持って接する」ことが基本姿勢です。HIV感染者も私たちと同じように、生き、悩み、喜びを感じる人間です。そのことを忘れずに、思いやりと知識をもって関わるのが、何よりも大切です。	
東京医療保健大学	千葉看護学部看護学科	臨床薬理学	2年次	本人	サリドマイド	授業担当講師は、7年目の担当であり、当事者としての視点ではなく、歴史的背景を踏まえた事実の説明が丁寧である。それに加え、当事者および親族関係者の生き様が語られ、単に、薬害の再発防止にむけた切実な思いのみならず、学生に、看護専門職となることへの自覚を促す内容となっている。	事前の資料・生活の様子に関する動画視聴を経て、上肢短縮のあるご本人が、障がい者仕様の車で来校し、下肢で額の汗をぬぐう姿もオープンにし、かつ、直接学生に語り掛けるように講演をしてくださった。 学生は、講師の熱意に引き込まれ、全員が講師をみつめて、集中力高く受講していた。授業後のレポートでは、薬害そのものをもっと深く知ろうとする記述や、講師の生き様に触れたことで得られた自分の人生の苦悩への示唆もあり、さらに、薬害をもたらす側になったり、早期発見する上での看護専門職としての責任を考えたなどの記載が豊富にあります。	
和洋女子大学	看護学部看護学科	成人看護援助論Ⅱ（慢性期看護）	2年次	本人	C型肝炎	薬害被害の歴史を含めた現状を知ること、また、当事者の体験を聞くことにより、薬害そのものへの興味関心が高まるとともに、患者の心情などへの理解も深まる	昨年度実施した際、学生には受講後に課題レポートを課しているが、多くの学生が心を揺さぶられた内容や患者が病の中で生きることについて、また、医療者の責任について等の感想や意見を寄せていた。	
共立女子大学	看護学部看護学科	ヘルスアセスメント論	1年次	本人	輸入非加熱血液凝固因子製剤	当事者の方のお話を直接、お聴きすることができるため、当事者の視点を臨場感をもって体験でき、よりリアルに捉えることができている。入院歴が長いため、医療従事者への当事者側からの意見や感想もお話しくださり、学生の持つ看護へのイメージが良い方向に変化している。血友病に関する事前学習、受講後の感想レポートを事後学習として提示しているが、講師は非常に熱心にすべて目を通してコメントやフィードバックをしてくださっている。このことも学生の理解の深化の一助となっている。	講師の体験をお聞きすることで、薬害問題に対する興味を持ち、自己学習をするようになったり、内容に感動をしてよい看護が実践できるように学習に取り組みたいといったモチベーションの向上につながっている。	
駒沢女子大学	看護学部看護学科	総合看護演習	4年次	本人	サリドマイド	薬害問題の講義を通して、薬剤の功罪について考えを深めることにつながる。治療のために、利益のために開発されたはずが、害を与えるものになってしまう。薬剤について、開発、治験、認証などの手順の重要性も再確認できる。また、サリドマイド薬害は胎児に影響を与え、奇形という辛い状況を引き起こしている。女性として、妊娠出産という出来事の捉え方、薬剤使用への関心にも影響を与える。また、当事者の方に授業を担当していただくことから、当事者の切実な思いを受け取ることができると考えられる。そして、障害をもって生きてきた実体験は、障害受容、差別、偏見について考えることにつながり、ノーマライゼーションにも意識を向けることができる。	今後実施予定のためなし	
帝京大学	医療技術学部看護学科	ライフデザイン演習Ⅲ「看護の対象者の理解」	3年次	本人	スティープンス・ジョンソン症候群	学生が講師の闘病体験を実際に聞くことにより、SJSの症状の重篤さや深刻さを実感することができ、薬害が生活や人生に及ぼす影響をより深く考えることができている。	授業後のレポートの記述では、「身近な薬により講師の生活や人生が一変してしまったことに衝撃を受けた」など、薬害が及ぼす影響の大きさを実感していた。また、講師の入院中の体験談から、看護師として患者の思いを傾聴し寄り添うことの大切さを学んでいた。 講演後のグループ討議では、看護師の役割として、患者に投与されている薬剤の副作用の知識を持ち症状の早期発見に努めることや医薬品副作用被害救済制度など利用可能な社会資源を患者・家族に情報提供することなどが挙げられていた。	

大学名	学部学科等名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師	取り上げ た薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害について の授業実施における効果
帝京科学大学	医療科学部看護学科	基礎看護技術Ⅲ	2年次	本人	スティーブンス・ジョンソン症候群、中毒性表皮壊死症(TEN)	「薬物療法の援助」の授業開始のタイミングで講義を計画しているため、薬物療法の安全について受ける側と提供する側、両方の立場になってこの問題を考える機会となっている。さらに当事者から講演いただくことで、学生に直接的に薬害の状況や当事者の想いが伝わる。また医療従事者へ求められること、学生自身も被害者となりうることなど、身近な問題として捉えられている。	「薬物療法は単に薬を渡して終わりではなく、患者さんがきちんと理解し安心して服用できるように支援することが大事だと感じた。」「薬に作用や副作用の知識を身につけると、薬物使用後の異変に気づく観察力や患者の訴えに耳を傾けることが大切だと感じた。」「自分たちが普段服用する身近は薬で起こりうることを知って驚いたと同時に、服用後の体調変化に周囲して初期症状で気づくことが重要だと感じた。」など、薬物療法に関する意識が高まったようである。	
東京有明医療大学	看護学部看護学科	入門ゼミナール、基礎ゼミナール	1年次、2年次	本人、本人	C型肝炎、C型肝炎	・被害の実態や偏見等について被害者自身から直接伺うことにより、被害者の気持ちに寄りそうことができる。 ・教科書や座学で得られる知識ではなく、生きた学びの機会として重要である。 ・看護師を目指す者としての医療倫理について考えさせることができる。	多くの学生がC型肝炎薬害問題の知識を習得するとともに、被害者本人の声を直接聞くことによって被害者の痛みや苦しみに共感したことが伺えた。自身が将来の医療者となることを意識して被害問題を考える機会となったようである。講義後に行ったアンケートにおいては、C型肝炎をはじめ様々な病について正確な知識を身につけることの重要性や、被害者の「看護師からの励ましによって、辛い治療に向きあうことができた」というエピソードから、医療従事者の言動・行動が患者に与える影響の大きさを被害者の声から学ぶことができたことが伺える。自分が今後看護師として働くにあたってこの講義で学習したことを活かしていきたいとの記述が多く見られた。	・本学では看護学科1・2年生合同で、C型肝炎と薬害エイズの被害者の声を聞く講演を交互に実施している。それぞれの背景や被害の実態を知ること、幅広く薬害問題を考えることができる。
東京医科大学	医学部看護学科	キャリアデザインⅠ(基礎)	1年次	本人	薬害エイズ	1年生科目のため、早期から看護師の与薬に対する責任の大きさを理解できる。薬害の当事者の支援に興味をもつ。	看護師としては患者との信頼関係の構築、多職種連携における報告と情報共有、患者や家族への情報提供と説明責任に対する理解の深まりがあった。当事者や家族の立場では情報収集や状況の把握、医療機関への相談やセカンドオピニオンの活用など自身がよく理解する重要性への認識がみられた。また、多くが薬害エイズ事件は過去の話ではなく現在も継続している問題であること、同じ過ちを繰り返さないために自分事としても捉える機会になっていた。	
東京医療学院大学	保健医療学部看護学科	看護倫理学	3年次	ほんにん	サリドマイド	・対象者の体験をうかがうことにより実際のご苦労や世間の対応について実感できる。また、障害のある人への学生自身の態度を振り返るきっかけになる。 ・薬害被害について理解することができ、薬の承認過程などの重要性が実感できる。	・学生は講義に真剣に聞き入り、障害者に対する対応を振り返り、自身の態度を変えようと考えていた。また、医療事故を未然に防ぐ必要性についても考えるきっかけになったと感想を述べていた。 ・講師から「自分を認めることは相手を認めること」という話を伺い、自分を受け入れることの重要性に気づいた学生もいた。 ・本学は助産師養成課程もあるため、サリドマイド被害について深く考えた学生もいた。 ・薬害被害の実態から啓発活動の重要性を感じた学生が多かった。	
東京医療保健大学	医療保健学部看護学科	臨床薬理学	1年次	本人	輸入血液製剤	代表的疾患・治療薬ならびに予防薬の作用について学習しているが、国・企業の対応、差別・偏見等について薬害被害者(家族)の方の話しを伺うことで、被害者状況を理解し、被害者の方が看護師に何を求めるか等を聞くことができ、患者・被害者(家族)の方の権利や医療安全(対策)についての重要性を改めて考える機会となっている。	将来看護師を目指す学生にとって、薬害被害者の方のお話しを直接伺えることで、薬害について考える貴重な時間となっている。	
東京慈恵会医科大学	医学部看護学科	看護と倫理	2年次	本人	「市販薬の薬害／サリドマイド」	薬害の歴史的背景と当事者のおかれた状況の困難さについて理解を深め、自己の考えを記述することができる。	薬害の歴史について学びまとめた上で、薬害にあわれた方々から直接お話をお聞きすることで、薬害の歴史的背景を理解し当事者の方々のおかれた状況の困難さを理解できる。過去の反省を踏まえて人々の共生を可能とする社会の仕組みについて考察を深められる。	

大学名	学部学科等名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師	取り上げ た薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害について の授業実施における効果
東京女子医科大学	看護学部看護学科	薬理学	2年次	本人	HIV・HCV	当該授業は薬害被害者による講義形式で行う。薬害を二度と繰り返さないためには自らが医療従事者としてどのようにすればよいのか、患者や家族との信頼関係をどのように築いていくのかなどについて学生が考えることを目的としている。薬害被害者の話を直接聞いた上で、同様の背景にある患者の治療に関わる際にどのようにすべきかを自発的に考える中で、医療人としての使命を強く意識させることができる。	今後実施予定のためなし	H I V／H C V重複感染の方から講義いただいている。重複感染患者の治療の難しさを知った上で、患者の治療に関わる際にどのようにすべきかを本学の理念である至誠と愛に沿って自発的に考え、医療人としての使命を強く意識させることができる。
武蔵野大学	看護学部看護学科	薬効安全性学	3年次	本人	サリマイド薬害	薬害の実態を知ってもらうことで、医療人として考えるべきことを自覚する機会を設ける事ができる。	薬害被害者の生の声を聴くことで、自分たちの役割や責任を実感する機会となった等の感想が多く寄せられている。	
湘南医療大学	保健医療学部看護学科	薬と毒性学入門	1年次	本人	サリドマイド	薬害について、身近に感じることができる。	近年はサリドマイドの新たな発症はないため、被害者本人から話を聞くことで、「本当にあったこと」という真剣さが見られた。	
昭和医科大学	保健医療学部看護学科	地域医療入門	1年次	家族	イレッサ	薬害被害者遺族の話を聞くことで、医薬品適正使用の重要性や、医療従事者の責任を深く考える貴重な機会となっている。	講義後アンケートを実施した結果、学生からは以下のような反応が得られた。 「医薬品は病を治すという点がかなりの印象を占めている一方で副作用といったデメリットとももっと向き合っていかなければならないなと改めて思った。さらに、医薬品の開発が進められていく中で健康被害が生じないかという点をより重要視したうえで医薬品の開発研究を進めていくべきであると感じた。」	
東海大学	医学部看護学科	疾病と看護E	2年次	本人	薬害AIDS	より身近な出来事として、認識できること	薬害AIDS患者さんがゲストスピーカーとして、オンライン顔出しでご自身の体験を語ってくれたのだが、その時の学生の眼差しはとても真剣で、通常の講義ではあまり出ない質問も、この講義では、学生から積極的な質問や感想が多く出た。授業後のミニレポートにおいても、多くの学生が「心に響いた」、「患者さんの言葉を直接聞けた貴重な体験」、などと記載していた。	
横浜創英大学	看護学部看護学科	看護管理学	3年次	本人	サリドマイド	薬害被害の当事者の方から、体験をふまえて薬害の実際について学ぶことで、薬害問題に関して深く考えることができること。 また、学生は薬害問題を社会全体で考えることを認識できる。	紙面上では得られない生の声や生活上の障害を知ることによって、将来医療に携わることへの自覚が強化されたという感想が多い。	
新潟医療福祉大学	看護学部看護学科	診療看護論演習	2年次	本人	サリドマイド被害	診療看護論演習については、薬害による影響を、他人事ではない現実問題として実感する。被害者の体験、生活をイメージすることで、被害者の思いに気づくことができる。被害の深刻さの理解ができる。なぜ薬害が生じてしまったのかを教訓に薬害防止への問題意識、責任感などの意識づけも行われる。	関心を持って聴講している。感想では、初めて困難な歴史があったことを知ったという学生が多い。知識を得るだけでなく、当事者の語りから被害の深刻さ、薬害を繰り返さないために自分ができること等を考える機会になっているのがうかがえる。	
金沢医科大学	看護学部看護学科	薬害被害に関する講演会	3年次	未定	未定	薬害被害者の声を直接聞くことで、薬害被害について身近に感じ理解をより深めることができ、医療従事者としての責任について考える良い機会となる。	今後実施予定のためなし	
朝日大学	保健医療学部看護学科	「薬害被害者の声を聞く」特別講演	1年次	本人	サリドマイド	薬害問題の実態に関して、その被害者から生の声を聞くことで、その被害や言われ無き偏見・差別の実態、社会としての対応のあり方のみならず、医療従事者として患者に寄り添う意識を一層高めるとともに、薬の為害性や倫理観についても理解を深めることができる。看護の対象者の人権や看護師の役割、責任を考えるうえで、効果的な学修機会となる。	薬害に対する恐ろしさ、薬害被害者本人との意思疎通方法、薬害被害者の家族の気持ち等を改めて考えることができた等の感想が聞かれた。また、講演の中の「幸せとは自分が感じるものであって、他人が考えることではない」との言葉が印象に残ったとの感想も聞かれた。	
岐阜医療科学大学	看護学部看護学科	薬学概論 薬害被害者のお話を聴く講義	1年次	本人	サリドマイド	過去の薬害の歴史と制度的課題を知ることで、今後の薬害を防ぐための構造的理解が深まる。また、当事者の語りを通して薬害の実相に触れることにより、医療者としての倫理観、患者中心の医療の重要性を学ぶことができる。	今後実施予定のためなし	

大学名	学部学科等名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師	取り上げ た薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害について の授業実施における効果
中部学院大学	看護リハビリテーション学部看護学科	公衆衛生看護学概論	2年次	本人	薬害エイズ	学生は、初めて薬害当事者と家族の苦悩を知ることができた。薬害の歴史から差別と偏見が生まれたこと、医療機関、教育機関、職業機関など社会に与えた大きな影響について学ぶことができた。看護師を目指す学生へ患者からの要望を直接聞いて、看護師は命を預かる仕事であることを肝に銘じた。	学生は、特に差別や偏見を生んでしまう薬害の真の恐ろしさを知り、看護専門職として、正しい知識をもち患者さんに関わる自覚を新たにしたという意見が聞かれた。学生は真摯に講演を聞いており、大変貴重な機会であったという感想が聞かれた。	
一宮研伸大学	看護学部看護学科	公衆衛生学	1年次	未定	薬害エイズ事件	被害者の体験談を直接聞くことによって、看護師となる上で、自ら考える機会を得ることができる。	今後実施予定のためなし	
中部大学	生命健康科学部保健看護学科	薬理学	1年次	本人	サリドマイド	薬害被害者本人から実体験を聞くことで薬害がもたらした様々な問題について深く理解させることができる。また、ベッドサイドで患者に触れる機会の多い看護師が薬の副作用にいち早く気づくことの重要性を学生に理解させることができ、薬理学全体を通しての学習意欲向上にもつながる。また、薬害被害者として障害を抱えながらもひたむきに生きる被害者の姿が人間の生き様として、人生の先輩として、若い学生に勇気と感動を与えることにつながる。さらには、患者を守るという医療者としての自覚の涵養にもつながる。	「サリドマイド薬害は手足の奇形だけでなく、内臓にも障害がおよぶ恐ろしいものであることが分かった。」「医療職につくということは、被害者よりも加害者になりやすいと分かったため、今後患者と接していくうえで気を引き締めて医薬品を扱っていくべきだと感じた。しかし、新薬は危険なものもあるが、よりたくさんの人を救うために必要なものでもあるため新しい治療も視野に入れながら行動していきたいと考える。」「医療従事者を志す者として、薬害の知識を忘れることなく、二度と繰り返さないために未来への教訓として伝え続けていくことが重要であると強く感じました。」「障害をもって生まれた方へも偏見ではなくその人としてみて理解することで、講師のように運転をしたり講習にまわったり豊かな生き方ができるのではないかと思った。」「被害者の方々の声に耳を傾けながら、安全で公平な医療を追求していくことが大切であると考えました。」「製造や販売する前に本当にこの薬は体に害を与えないのかなど、さらに深い研究が必要だと考える。」「今後奇形がある患者と接していくときには、積極的に何かお手伝いできることがあればしていきたいなと感じた。」「科学的根拠を待っている時間にも被害者が増えてしまうことを理解して、きちんと対策する必要がある。」など	
豊橋創造大学	保健医療学部看護学科	在宅看護学原論Ⅱ	2年次	本人、家族	B型肝炎	薬害被害者及びその家族の方から実体験を聞くことで、薬害がもたらした様々な問題について理解を深めることができる。また、これから医療従事者を目指すものとして、求められる知識や態度、行動などを考える機会となり、専門職者としての責務への自覚が高まる。	当事者の声を聞くことにより、薬害を身近な問題として考える機会となり、今まで授業で学んだ内容の理解も深まったとの意見が多く寄せられた。また、将来看護師として患者と接する立場として、薬害の当事者らの直接の声を聞いたことで、自らをあらためて省み、課題等をあげている。	当事者の声を聞くことにより、薬害を身近な問題として考える機会となり、今まで授業で学んだ内容の理解も深まったとの意見が多く寄せられた。また、将来看護師として患者と接する立場として、薬害の当事者らの直接の声を聞いたことで、自らをあらためて省み、課題等をあげている。
名古屋学芸大学	看護学部看護学科	特別講義1	2～4年次	全国B型肝炎訴訟弁護団弁護団名古屋	肝炎	病気や障害を持って生きる当事者の生活を知り、看護職として具体的な支援内容を知ることが、医療の場でのケアの質向上につながる。薬害問題を理解することで、医療や医薬品が絶対的なものではないことから、専門職として適切なアセスメントが必要であることが理解できる。そのためには常に自己研鑽が必要であることが理解できる。対象者の人権尊重、人権擁護の立場が理解できる。	今後実施予定のためなし	

大学名	学部学科等名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師	取り上げ た薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害について の授業実施における効果
鈴鹿医療科学大学	看護学部看護学科	臨床薬理学	3年次	本人	スモン事件	医薬品情報の大切さ、医薬品適正使用の重要性、医薬品評価、副作用救済制度等における理解向上と看護師の役割についての認識が深まることが期待できる。	被害者の声を直接聞き、医薬品情報の大切さと薬害が確認された後の迅速な対応の重要性についての学びが講義後のアンケートに記載されていた。	看護学科カリキュラムの中で、薬害については1年次選択科目「薬の役割・薬のできるまで」を受講し、3年必修科目臨床薬理学で薬害被害者の体験と救済制度を、そして4年次に特別講義としてB型肝炎ウィルスの薬害被害・救済制度について学習している。このように薬害に関する学習機会を増やすことにより学習内容は強化され、看護の専門知識をもとにした薬害被害者の体験に関する理解が深まり、看護者として果たすべき役割がより具体的になる。
四日市看護医療大学	看護医療学部看護学科	母性看護学概論	2年次	本人	陣痛促進剤	薬害問題について、事故当事者による貴重な体験談を聞くことができる。	・講演をとおして出産医療での安全性や情報の正確さが重要であることについて深く考えました。医療者が十分に正確な知識を知らない上で患者に説明をしてそのまま処置を行っているところが印象的でした。妊産婦にとって出産は命懸けの行為であるにも関わらず命を軽視している点で使用している薬や発症するリスクについて丁寧な説明を受ける権利が十分にあると思った。 ・陣痛促進剤による子宮破裂は医療過誤であり、患者に深い喪失をもたらすことを実感した。感受性に個人差があるにもかかわらず、十分な説明や適切な管理が行われていない現状は、患者安全の観点から重大な課題である。「お腹に手を当てて陣痛の山と谷を感じ取る」という姿勢からは、数値化できない観察力の重要性を再認識した。講師の訴えを受け止め、教育や多職種連携を通じて再発防止へつなげることが医療者に求められると感じた。また、このような事例があるにもかかわらず、促進剤が禁忌とされていない現状には、「慎重な使用」の具体的基準が必要であると考えた。	
京都橘大学	看護学部看護学科	キャリア開発演習Ⅳ	2年次	本人	血液製剤とAIDS他	講師に薬害被害当事者の方を迎え、直接、話を伺うことによって、その具体的な体験や思いを聞くことができる。また、そこから自分の考えを深め、看護職（医療従事者）としての今後にかすことができる。	“血友病患者への非加熱製剤による薬害エイズ事件を通じ、医療者の無知や怠慢が深刻な被害を生むことを痛感し、自らが将来看護師として「知らなかった」では済まされない責任を持ち、勇気をもって声を上げる姿勢の大切さを学んだ。 薬物の安全性確保の重要性を理解し、投与時の確認や慎重な対応、適切な技術習得への意識を高めた。 被害者や遺族が受けた差別・偏見について、根拠のない恐怖や無知から生まれる差別の構造を学び、医療従事者として正しい知識を持ち、患者や家族を尊重する姿勢を重視する必要性を感じた。 報道の影響による偏見拡大や医療者による診療拒否などの差別事例に衝撃を受け、言動に責任を持ち、患者の「人間」を診る看護を心がけたいと考えた。”	
同志社女子大学	看護学部看護学科	母子保健看護概論	2年次	家族	陣痛促進剤	薬学被害の視点から、医療現場に潜むリスクについて理解を深める機会となる。さらに、看護職に求められる知識や態度、行動を考える機会となり、専門職者としての責務への自覚につながる。	今後実施予定のためなし	

大学名	学部学科等名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師	取り上げ た薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害につい ての授業実施における効果
佛教大学	保健医療技術 学部看護学科	学科講演会	全学年対象	本人	スモン	実施前の段階であり、具体的な効果については今後の実施を通じて検証していく必要がある。ただし、被害当事者の声に直接触れる機会は、学生の人権意識や倫理観を育むうえで有意義であると考えられ、また、薬害という社会的課題に対して当事者視点から理解を深めることは、専門知識だけでなく社会的責任感を醸成する契機となることが期待される。	今後実施予定のためなし	
摂南大学	看護学部看護 学科	看護倫理	4年次	家族	陣痛促進 剤による 薬害 被害	薬害被害者の生の声は、看護学教育コアカリキュラムの内、 A 看護系人材（看護職）として求められる基本的な資質・能力 A-1 プロフェッショナリズム A-1-2) 看護の基盤となる基本的人権の理解と擁護 B 社会と看護学 B-2 社会システムと健康 B-2-2) 環境と健康 の習得に極めて強いインパクトを与え、学生のモチベーションが格段に向上すると考える。	陣痛促進剤による被害者から実体験を直接伺い、当時の医療や医療者の実態を授業によって知り得たことで、医療者としての責任の重大性を認識したとともに、専門職業人としての自覚と姿勢を新たにしたとの感想や反応を得る事ができた。また、薬害の被害者となる患者と最も近い位置に存在する看護職の倫理観が薬害の防止にもつながることや社会の仕組みにも目を向け、常に患者や我々の人権が尊重されているのかも問い続けることの大切さを実感できていた。	
宝塚大学	看護学部看護 学科	公衆衛生学	2年次	本人	薬害エイズ	薬害エイズ問題の背景を知り、HIV訴訟の原告当事者から話を伺うことで患者の置かれた立場や苦悩、当時の時代背景と厚生行政を含めて深く学ぶ機会となった。医療従事者を目指す本学部の学生にとって、兼ね備えておかなければならない医療の史実を学び、それを深めることができた。何より大阪HIV訴訟で裁判の経験があるご本人の語りは学生にとって強いメッセージとなったと思われる。	他人から聞いたり動画で聞くのと実際に経験した方からの話は重みが違った。HIV訴訟原告団長自らが語る言葉の重みと、薬害エイズや日本の血液行政について知らないことばかりであり驚愕と共に深い学びになった。大学受験を目前にして亡くなった若い方の映像や、個々の患者の背景、国や製薬会社のことを知った、病気だけでなく人を見る看護につながると実感した、等の感想が寄せられた。	
大和大学	保健医療学部 看護学科	薬理学	2年次	本人	・ジフテリア予防 接種禍事件 ・ペニシリンによる ショック死 ・サリドマイドによる 四肢欠損等の障害 ・アンブル入り風邪薬による ショック死 ・ストレプトマイシン、カナマイシン等の抗生物質による聴力障害	・薬害の日本の歴史について考えることで、医療従事者としての今後の薬害へ意識づけと、安全に対する意識向上、責任を自覚することができる。 ・当事者の話は、心に響く。また、差別や偏見に対して、誤った考えや固定観念をおかしいと声に出せる人を育てることになる。	今後実施予定のためなし	

大学名	学部学科等名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師	取り上げ た薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害につい ての授業実施における効 果
大和大学	保健医 療学部 看護学 科	薬理学	2年次	本人	・クロラムフェニコールによる再生不良性貧血 ・クロロキンによる網膜症 ・キノホルムによる亜急性脊髄視神経症 ・予防接種事故 ・筋肉注射液による大腿四頭筋拘縮症 ・予防接種事故三種混合DPTワクチン ・保育器に収容時の酸素供給による未熟児網膜症 ・ダイアライザーによる眼障害 ・血液製剤（血液凝固因子製剤によるHIV感染） ・血液製剤（フィブリノゲン製剤によるHCV感染）			

大学名	学部学科等名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師	取り上げ た薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害につい ての授業実施における効 果
大和大学	保健医 療学部 看護学 科	薬理学	2年次	本人	・陣痛促進剤による子宮破裂・胎児仮死 ・MMRワクチンによる無菌性髄膜炎 ・ソリブジンとフルオロウシル系抗がん剤併用による骨髄抑制 ・イリノテカン塩酸塩による骨髄抑制・下痢 ・ヒト乾燥硬膜によるプリオン感染 ・ウシ心嚢膜による抗酸菌様感染 ・トログリタゾンによる肝障害 ・ゲフィチニブによる間質性肺炎			
関西看護医療大学	看護学部看護学科	感染と免疫	2年次	未定	B型肝炎	学生の倫理観の醸成つながるとともに、学習意欲の向上に役立っている。	厳しい現実を知り、医療従事者を目指すものの心構えを改めて痛感した。	薬害の歴史や実態を知ること、これまで関心の少なかった薬理に関する知識をより得ようとする動きにつながっている。
神戸女子大学	看護学部看護学科	看護倫理	4年次	家族	陣痛促進剤 無痛分娩 (麻酔薬)	ご自身が薬害被害者家族であり、長年にわたって薬害と医療事故に関する市民活動を実践してきた講師による、被害者としての体験を生の声から理解できる。また、多くの薬害の事実と医療事故に関する市民活動の実践について幅広く知り、看護職としての倫理について考えを深めるために、大変インパクトのある講義となっている。	卒業を間近に控えた4年生後期の看護倫理の授業において、薬害被害者家族の切実な思いと、薬害に関する多くの事実を知り、さらに被害者の立場から看護職に望む倫理的な感性や態度、倫理に基づく実践について学ぶことができた。数ヵ月後には看護師として実践の場に出る前にこの授業を受けることで、学生達は身の引き締まる思いを強くしていた。	

大学名	学部学科等名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師	取り上げ た薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害について の授業実施における効果
武庫川女子大学	看護学部看護学科	成人看護学概論	1年次	本人	薬害筋短縮症	・1年次の段階で薬害被害者の声を直接聞くことにより、薬害や薬害被害者が置かれる社会的状況に関する知識を深め、看護師になる者としての責任や課題意識を持って今後の学修に臨める。 ・学生の倫理観の醸成につながるとともに学習意欲の向上に役立つ。	授業での学生の反応や授業後のレポートでは、「これまで医師の指示や処方 は絶対的に正しいものと認識していたが、指示を受け薬剤投与を行う看護師として、本当にその方にその薬剤が必要なのか、その投与方法が適切なのか、見極める必要があると思った」「おかしいと思ったこと、疑問に感じたことをそのままにせず、声に出していくことが大切だと思った」等が挙げられた。	
兵庫医科大学	看護学部看護学科	母性看護学概論	2年次	家族	陣痛促進剤被害	当事者の視点で医療制度における問題、医療のあり方における問題について考える機会となる。また、妊娠・出産における意思決定支援の重要性について学習することができる。	今後実施予定のためなし	
畿央大学	健康科学部看護医療学科	保健医療福祉システム論Ⅰ	4年次	家族	陣痛促進剤	薬害の被害に関する現状と問題点及び課題について当事者の立場から直接具体的な話を聞くことにより、薬害被害に対する問題意識が高まった。	・医療従事者として、薬害についてどのように立ち向かうべきであるのか考えるよい機会になった。 ・看護師を目指す学生として自分が加害者にならないように、一人の女性として被害者にならないために、これから薬剤を正しく使用しないことによる危険性について学びを深める、当事者やその家族が被害をうけないようにするために医療従事者としてできることを考えることを怠らずに行っていたいと強く思いました。このような機会を頂き、本当にありがとうございました。 ・講演では陣痛促進剤を妊婦さんに知らせることなく使用していると知り驚いたと同時に、現在多くの妊婦さんが無事分娩を行っていることから非常に心配に思いました。講演での薬害が生じないように、今後医療従事者として患者さんの同意の元医療を行う必要があると考えることができました。貴重なお話と考えを聞かせて頂き良かったです。ありがとうございました。 ・講演を聴いて、薬害は人によって起こり得ることもあるということも知りました。看護師は一度得た知識ですっと看護を行うのではなく、常に最新の知識を基に看護を提供できるように、継続学習が大切であることを学びました。貴重なご講義ありがとうございました。 ・今回の講義を受けて、周りの友達や知り合いにも出産の方法について話したいと思った。無痛分娩と聞くと、痛みが少なく何となく良いイメージがあったが、今回の話を聞いて薬害などの背景があったことを知ることができて良かったです。 ・これまでの薬害について「重篤な副作用による健康被害」程度の認識で、実習や座学ではあまり意識できていませんでした。今回の講義を通して、薬害とは人の倫理観や人権意識の低さによって引き起こされる人災であると学ぶことができました。学生である、今現在、人の命よりも利益が優先される状況は間違っていると感じます。実際に看護師として働き始めた際、職場に利益を優先するような風潮があっても、その風潮に対して違和感を抱き続けられる、患者の利益を守ることができる看護師であり続けたいと感じました。 (以上、2024年度の主たる感想)	講師が講演の冒頭に、様々な薬害があることを紹介してくれている。具体的な薬害は陣痛促進剤のことを講義して下さるが、その他にも様々な薬害があることを学生たちは認識してくれている。
安田女子大学	看護学部看護学科	まほろば教養ゼミⅣ	4年次	本人	陣痛促進剤事故	薬害被害者の声を直接聞くことにより、学生は薬害被害を身近な問題として捉えることが出来る。薬害被害について知識を持った看護師を育成することが出来る。	今後実施予定のためなし	看護の専門科目では薬害に関する基礎知識を、特別科目(まほろば教養ゼミⅣ)では薬害被害者の体験を学ぶことが出来る。

大学名	学部学科等名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師	取り上げ た薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害について の授業実施における効果
宇部フロンティア大学	看護学部看護学科	特別授業（薬害被害者講演会）	4年次	本人	HIV	薬害被害者に直接話を聞くことができ、薬害被害者となった経緯、思い、差別や偏見の実情など、被害者でなければ伝えることができない内容である	薬害をなくすために、差別や偏見をなくし、患者に寄り添って関わっていくことが大切だと学んだ。薬害を起こさないために私たち医療従事者の正しい知識を身につけることが大切である。また、患者さんや家族がどのような気持ちであるのかを常に考え、共感することが大切であると考えた。薬害による後遺症などの被害について、十分な知識を持つことが重要だと思った。実際に聞くことによって、薬害が人にどのような影響を及ぼすのかさらなる理解に繋がられると感じた。	講義が4年生ということで、全ての関連科目が終わっているため、理解がすすんだと考えられる
人間環境大学	松山看護学部看護学科	陣痛促進剤事故について知ろう～誘発分娩で子宮破裂した本人が語る～	3年次	本人	陣痛促進剤事故	薬害の被害にあった方の実体験を聞くことで学生の薬害についての理解が深まる。	現時点で、今年度は未実施。 昨年同様の講演を行ったところ、以下のような感想があった。 ・医療職者は、薬剤について十分に理解し、患者にリスク等も含め説明する必要があると学んだ。 ・被害を受けたご本人にからお話を聞いたことで、薬害について身近に感じられ、看護師として対応すべきことを改めて考えなおした。 ・知識なく薬剤を使用する怖さを知ったので、さらに詳しく薬について学習しようと思った。	
久留米大学	医学部看護学科	生命・看護倫理	1年次	本人	サリドマイド	1. 薬害被害者に対するリアルな関心、心を寄せられるようになる。 2. 自己の健康管理への関心の向上	多くの学生が障害のある人の苦悩や不利益、その後の将来などに思いを寄せる必要性を感じ、共感以上に今後の看護職者として活かしていきたい。（前年度回答より）	
国際医療福祉大学	福岡保健医療学部看護学科	地域・在宅看護論Ⅱ（科目の中で特別講義として）	2年次	本人	C型肝炎	「薬害」について、被害者の経験や人生のかたまりを直接聴くことにより、不必要な先入観を避け、学生にストレートに伝わり、理解しやすい。	今後実施予定のためなし	薬害といっても、その発生の経緯や社会背景、国や企業の課題や役割も異なる。これにより、被害者への身体/心理/社会的影響が異なり、差別や偏見までもが変わってくる事実を知る事ができる。
産業医科大学	産業保健学部看護学科	看護倫理学	2年次	はばたき事業団	血液製剤	薬害被害の方の体験を拝聴することにより、看護専門職として、正確で丁寧なインフォームドコンセントの重要性、薬剤投与の目的・適応、使用方法・適切な投与量、副作用に対する学修の必要性、薬剤使用前・中・後の観察の重要性、患者の訴えや気持ちに寄り添うことで薬害の予防ができること、また専門職としての責務について理解が深まると考えます。また、薬害エイズ問題が過去のものとなり、20歳前後の学生は、知らない、過去の問題となり風化しつつあり、さらに、ケアギバーの高齢化問題、未婚率の高さなど、これからの医療を人材には新たな課題が提示される。	昨年度より、対面の講義となり、自分たちがいつ経験するかわからない場面であることが理解できた。しかしながら、学生にとっては、薬害エイズの被害は過去の出来事であることから、継続して教育する必要があることがわかった。本年度に関しては、開講時期が後期科目であることから、現時点では学生の反応についてのお答えはできません。	
福岡大学	医学部看護学科	薬のはたらきと薬物療法	2年次	本人	薬害C型肝炎	学生が医療者としての責任を自覚できる。また直接、薬害被害者の話を聴くことで、看護師として薬害が繰り返されないために、他人の痛みを自分の痛みとして感じる感性や想像力をもつことの重要性を認識でき、薬物投与における倫理的感受性を高めることができる。	回答提出時点では実施前のため令和7年度の学生反応・感想はなし。ただし、例年の学生反応・感想として、薬害に対する理解が深まっただけでなく、医療従事者としての倫理観や責任感が強く育まれており、特に被害者の声を通じて「薬の力の両面性（治療と害）」を実感し、今後の医療現場での行動に活かそうとする意識が高まっている。	

大学名	学部学科等名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師	取り上げ た薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害につい ての授業実施における効 果
令和健康科学大学	看護学部看護学科	看護倫理	2年次	本人	薬物エイズ	医療者としての倫理的判断力、公衆衛生上の責任の重さや医療ミスや組織的員隠蔽の影響を学び、「患者中心」の視点の重要性について学ぶことで、倫理観・責任感の育成となる。さらに、薬害被害者やその家族の語りから、「当事者の声を聴く姿勢」の大切さを知ることができ、スティグマや差別への理解を深め、共感的態度の育成にもなる。	薬害エイズを取り上げた授業では、多くの学生から知識だけでなく、倫理観や社会的責任の重要性に気づかされたという声が聞かれた。特に、「薬害のようなことが二度と起きないように、自分にできることを考えたい」「看護師として、患者に寄り添い、声を代弁できる存在でありたい」といった意見に代表されるように、医療従事者としての在り方や責任の重さに真剣に向き合おうとする死刑が育まれていた。また、「自分自身が正しい知識を持っていないと、無意識に偏見を持ってしまうかもしれない」といった意見からは、HIVや薬害に関するスティグマや社会的偏見に対する感受性が高まったことがうかがえる。これらの反応は、学生たちが単なる医療技術や制度の学びを超えて、患者の立場を想像し、支援者としての姿勢を再考する契機となったことを示している。	

薬害問題に対する各大学の取り組み状況（令和7年度 薬学部）

1. 薬害被害について学ぶ授業の実施
2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）の展開

○ 国立（14 大学 14 学部）

No.	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
1	北海道大学	○	○	薬学概論、医薬品情報学、医薬品開発論、臨床薬学事前演習、薬事関連法規、医薬品安全性学	薬学概論
2	東北大学	○	○	薬学概論2	薬学概論2
3	千葉大学	○	○	専門職連携Ⅰ、医療行政学、医療薬学Ⅱ、医薬品臨床開発、基礎医療薬学、医薬品安全性学	専門職連携Ⅰ
4	東京大学	○	○	薬学特別講義	薬学特別講義（C型肝炎について）、薬学特別講義（サリドマイドについて）
5	富山大学	○	○	医療学入門、現代と教育	医療学入門、現代と社会
6	金沢大学	○	○	医薬保健学基礎Ⅱ、薬学関係法規Ⅰ、毒性学、医薬品安全性学	①医薬保健学基礎Ⅱ、②医薬品安全性学
7	京都大学	○	○	医療社会学	薬害再発防止のために薬害エイズの経験から
8	大阪大学	○	○	薬学入門1、薬学入門3、薬事関係法規・薬局方概論、現代の生命倫理・法・経済を考える、衛生薬学3、ヘルスコミュニケーション	薬学入門3、ヘルスコミュニケーション
9	岡山大学	○	○	医薬品開発学、臨床準備教育A、臨床準備教育C	臨床準備教育C
10	広島大学	○	○	医薬品情報学、患者志向型合宿勉強会事前講義「薬害を考える」、薬学概論	患者志向型合宿勉強会
11	徳島大学	○	○	医療における人間学、基礎医療薬学、医薬品情報学、社会薬学、実務実習事前学習	SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～
12	九州大学	○	○	薬害	薬害
13	長崎大学	○	○	薬学概論Ⅱ、医療倫理Ⅱ、薬剤学Ⅰ	薬学概論Ⅱ
14	熊本大学	○	○	医療倫理学Ⅱ	医療倫理学Ⅱ

合計	1	2
行っている	14 学部	14 学部
検討中	0 学部	0 学部
行っていない	0 学部	0 学部

1. 薬害被害について学ぶ授業の実施
2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）の展開

○ 公立 (5 大学 5 学部)

No.	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
1	岐阜薬科大学	○	○	医薬品安全性学	医薬品安全性学
2	静岡県立大学	○	○	薬物動態学Ⅰ、薬剤学、医薬品安全性学、毒性学	早期体験学習、総合薬学演習
3	名古屋市立大学	○	○	医薬品情報学、薬理学Ⅳ、薬理学Ⅳ、薬理学Ⅱ（上記薬理学Ⅳと合同）	薬理学Ⅳ、薬理学Ⅱ（上記薬理学Ⅳと合同）
4	和歌山県立医科大学	○	○	社会薬学演習、医療倫理、医療安全学Ⅰ、薬学入門Ⅱ、臨床薬理学、医薬品開発学	薬学入門Ⅱ
5	山口東京理科大学	○	検討中	薬学倫理A、医療安全学Ⅱ	

合計	1	2
行っている	5 学部	4 学部
検討中	0 学部	1 学部
行っていない	0 学部	0 学部

1. 薬害被害について学ぶ授業の実施
2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）の展開

○ 私立 (59 大学 62 学部)

No.	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
1	北海道医療大学	○	○	医療薬学概論、社会薬学Ⅰ、毒性影響と評価、医薬品安全、実務社会薬学複合演習	医薬品安全、実務社会薬学複合演習
2	北海道科学大学	○	○	薬と社会、薬事関連法制論Ⅰ、医薬品開発論	薬と社会
3	青森大学	○	○	薬学への招待、薬学倫理	薬学倫理
4	岩手医科大学	○	○	医薬安全性学、医療倫理とヒューマニズム、薬事関係法規・制度Ⅱ	早期体験学習（全人的医療基礎講義含む）、医療倫理とヒューマニズム、薬害に関する特別講義
5	東北医科薬科大学	○	○	薬学入門演習、医薬品安全性学、薬物管理概論、薬品毒性学	薬学入門演習
6	医療創生大学	○	×	健康と薬、薬品安全性学、薬事関係法規、医薬品開発概論	
7	奥羽大学	○	○	チーム医療学Ⅰa、チーム医療学Ⅰb、医薬品毒性学	チーム医療学Ⅰa、チーム医療学Ⅰb
8	国際医療福祉大学	○	○	早期体験実習、衛生化学Ⅱ（毒性・代謝）、OTC医薬品概論、薬学演習Ⅲ、医薬品安全性学、医薬品情報学Ⅰ	早期体験実習
9	高崎健康福祉大学	○	×	法薬学（裁判化学）、薬事関連法規、評価医療科学、社会と薬学、調剤学	
10	城西大学	○	○	病原微生物学、毒性学B、薬剤師関係法制度概論、薬学概論、製剤管理学、有機化学A、病態学A、栄養生理学、医薬品開発論、基礎有機化学、薬理学B、公衆衛生学	薬学概論
11	日本薬科大学	○	○	患者の安全と薬害防止、医薬品の安全性、ファーマシューティカルケアⅠ	患者の安全と薬害防止、ファーマシューティカルケアⅠ
12	国際医療福祉大学（成田薬学部）	○	○	早期体験実習	早期体験実習
13	順天堂大学	○	○	医療における薬学	医療における薬学

No.	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
14	城西国際大学	○	○	生物学、毒性学、薬学概論A、化学A、薬事関係法規、公衆衛生学、医薬品化学A	薬学概論A
15	千葉科学大学	○	×	薬剤師の責務、薬事関係法規	
16	東京理科大学	○	○	薬学入門（6年制、4年制）、病態・薬物治療学1（4年制）、疾病と病態総論（6年制、4年制）、医療安全学（6年制）、臨床製剤学	薬学入門（6年制、4年制）
17	東邦大学	○	○	法学、薬学入門、衛生薬学実習、医薬品開発Ⅰ、薬事関係法規・制度Ⅱ、ヒューマンズⅣ、臨床衛生学社会薬学総合演習	薬学入門、ヒューマンズⅣ
18	日本大学	○	○	法学入門、早期臨床体験、医療倫理、医療と法、健康リスク評価概論（特色Ⅱ）	早期臨床体験
19	北里大学	○	○	医薬品安全性学Ⅱ、薬事行政、薬事関係法規、社会薬学実習、薬と仕事Ⅱ	薬と仕事Ⅱ
20	慶應義塾大学	○	○	医療・薬剤師倫理、薬事関係法規1、薬物治療学2、化学物質の生体影響、人と薬	医療・薬剤師倫理、人と薬
21	昭和医科大学	○	○	地域医療入門、薬剤師と医薬品に係る法規Ⅱ、ファーマシューティカルケアプログラム（医薬品の副作用・有害事象）、薬剤師の社会的使命と法的責任、プロフェッショナリズム①、集中講義	地域医療入門、プロフェッショナリズム①
22	昭和薬科大学	○	○	医療倫理学、医療倫理学、医療倫理学、医療倫理学、医療倫理学、医療倫理学、医薬品の安全性	医療倫理学
23	帝京大学	○	○	医療社会学、薬事関係法規・制度、医薬品安全性学	医薬品安全性学
24	帝京平成大学	○	○	フレッシュセミナーⅠA（薬剤師の果たすべき使命）、医薬品の安全性、薬事関係法規	フレッシュセミナーⅠA （薬剤師の果たすべき使命）
25	東京薬科大学	○	○	人間と薬学Ⅰ、社会と薬学、医療倫理学、医薬品安全性評価学、薬局・病院薬学、医療薬学演習Ⅱ（医薬品開発と臨床試験）、医療薬物薬学特論Ⅱ（データ解析集中講座）	人間と薬学Ⅰ
26	星薬科大学	○	○	薬学の心構えⅠ（薬学科）、薬学の心構え（創薬科学科）、薬学と社会Ⅰ	薬学の心構えⅠ
27	武蔵野大学	○	○	薬効安全性学	薬効安全性学
28	明治薬科大学	○	○	医療倫理、医薬品開発（薬学科、生命創薬科学科4年）、医薬品開発（生命創薬科学科3年）、総合人文社会科学（薬学科）	総合人文社会科学（薬学科）
29	湘南医療大学	○	○	薬学入門Ⅰ、薬と毒性学入門	薬と毒性学入門
30	横浜薬科大学	○	○	薬学概論Ⅰ、医療と法律、薬事法規・制度Ⅰ、医療倫理学、医薬品情報学、医薬品副作用学	薬学概論Ⅰ
31	岐阜医療科学大学	○	○	薬事関連法規、公衆衛生学、薬学概論、医薬品副作用学	薬学概論、薬害被害者のお話を聴く講義
32	新潟薬科大学	○	検討中	薬害・医療事故被害者から学ぶ	

No.	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
33	北陸大学	○	○	医療人、早期体験学習、社会と薬学、臨床統計学、薬毒物代謝学	早期体験学習、臨床統計学
34	愛知学院大学	○	○	薬学概論、医薬品毒性学、生体予防薬学特論、基礎薬学演習Ⅰ、薬と社会、製剤工学	薬学概論、医薬品毒性学
35	金城学院大学	○	○	基礎薬学演習B、基礎薬理学、医薬品情報学（Ⅰ）、社会薬学	基礎薬学演習B
36	名城大学	○	×	感染予防学、薬理・病態Ⅵ	
37	鈴鹿医療科学大学	○	○	薬学への招待、薬害・副作用学、基礎薬学演習	薬学への招待、薬害・副作用学
38	京都薬科大学	○	○	医療の担い手としてのこころ構え、天然医薬品学B、医療薬学A、臨床情報学、医薬開発論、薬事関連法規、漢方医療薬学	早期体験学習
39	同志社女子大学	○	○	早期体験学習Ⅰ、臨床薬学概論、薬事関連法規・制度、医療安全性学	早期体験学習Ⅰ、医療安全性学
40	立命館大学	○	○	薬学概論、薬学応用演習、薬事法規・薬事制度	薬学応用演習
41	大阪医科薬科大学	○	○	多職種連携論2-医療と専門職、多職種連携論3-医療倫理、医薬品安全性学、個別化医療	多職種連携論2-医療と専門職、多職種連携論3-医療倫理
42	大阪大谷大学	○	○	医薬品開発学A、薬学概論、毒性学、微生物学、医療倫理学演習、医療情報薬学	医療倫理学演習
43	近畿大学	○	○	早期体験学習、医薬品開発論	早期体験学習、医薬品開発論
44	摂南大学	○	○	生命倫理学、社会薬学、患者安全、臨床薬学Ⅰ	薬学基礎演習Ⅰ
45	神戸学院大学	○	○	医療の中の薬学、ヒューマニズム、医薬品化学Ⅱ	医療の中の薬学
46	神戸薬科大学	○	○	社会薬学、医療安全学	初期体験臨床実習
47	姫路獨協大学	○	検討中	医療倫理、実務実習事前特別講義、薬物副作用論	
48	兵庫医科大学	○	○	医薬品安全性学、医薬品開発学、基礎有機化学Ⅰ（基礎と立体化学等）、有機化学Ⅰ（基礎とアルカン等）、医薬品化学	医薬品安全性学
49	武庫川女子大学	○	○	初期演習Ⅱ（薬学科）、医薬品化学（薬学科）、医薬品開発論（薬学科）、医薬品情報学（薬学科）、ヒューマニズム論Ⅱ（薬学科）、生命倫理学（健康生命薬科学科）、健康生命薬科学概論（健康生命薬科学科）、医薬品開発論（健康生命薬科学科）	初期演習Ⅱ（薬学科）
50	就実大学	○	×	新薬開発論	
51	広島国際大学	○	○	病態と薬理総論、医薬品情報、薬学と社会・薬事関係法規、社会集団と健康、医薬品の開発と生産	薬学へのいざない
52	福山大学	○	○	生命倫理	生命倫理
53	安田女子大学	○	○	薬剤師論、臨床薬剤学Ⅰ、臨床薬剤学Ⅱ、薬事関係法規、医薬品情報学Ⅰ、薬理学Ⅰ	薬害を知る（「まほろば教養ゼミ」内）
54	徳島文理大学	○	○	薬学概論、社会薬学、毒性学、がん疾患の薬物学	薬学概論

No.	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
55	徳島文理大学（香川薬学部）	○	○	薬事関係法規1、総合薬学演習、治療薬学3、医薬品安全性学、臨床薬学アドバンス実務実習、医療倫理学、医療倫理学	医療倫理学
56	松山大学	○	○	薬剤師と医療、薬剤師と医療、医療倫理Ⅰ、社会薬学、病原体としての微生物、臨床調剤	薬剤師と医療、医療倫理Ⅰ，Ⅱ
57	第一薬科大学	○	○	医療概論、生命・医療倫理学、薬事関係法規・制度	医療概論
58	福岡大学	○	○	医薬品安全性学、医療情報学、医薬品開発・経済学、薬事関係法規論、薬事行政論	医薬品安全性学
59	国際医療福祉大学（福岡薬学部）	○	○	早期体験実習、薬学概論	早期体験実習（薬害講義）
60	長崎国際大学	○	○	薬学入門、裁判化学、薬事関係法規	薬学入門
61	崇城大学	○	○	薬学概論、医薬品安全性学Ⅰ、実務実習事前学習Ⅰ、応用社会学	薬学概論
62	九州医療科学大学	○	○	薬学入門、薬学と生命倫理Ⅰ、薬学と生命倫理Ⅱ	薬学入門

合計	1	2
行っている	62 学部	55 学部
検討中	0 学部	2 学部
行っていない	0 学部	5 学部

1. 薬害被害について学ぶ授業の実施
2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）の展開

○ 国公立（78 大学 81 学部）

合計	1	2
行っている	81 学部	73 学部
検討中	0 学部	3 学部
行っていない	0 学部	5 学部

1. 薬害被害について学ぶ授業の実施状況（令和7年度 薬学部）

- ① 薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目名
 ② 被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目名

○ 国立（14 大学 14 学部）

No.	大学名	①②両方	①に該当する授業科目名	②に該当する授業科目名
1	北海道大学	○	薬学概論、医薬品情報学、医薬品開発論、臨床薬学事前演習、薬事関連法規、医薬品安全性学	薬学概論、医薬品開発論
2	東北大学	×		
3	千葉大学	○	専門職連携Ⅰ、医療行政学、基礎医療薬学、医薬品安全性学	専門職連携Ⅰ、医薬品安全性学
4	東京大学	○	薬学特別講義	薬学特別講義
5	富山大学	○	医療学入門、現代と教育	医療学入門、現代と教育
6	金沢大学	○	医薬保健学基礎Ⅱ、薬学関係法規Ⅰ、毒性学、医薬品安全性学	医薬保健学基礎Ⅱ、薬学関係法規Ⅰ、毒性学、医薬品安全性学
7	京都大学	×	医療社会学	
8	大阪大学	○	薬学入門3、薬事関係法規・薬局方概論、現代の生命倫理・法・経済を考える、衛生薬学3、ヘルスコミュニケーション	現代の生命倫理・法・経済を考える、衛生薬学3
9	岡山大学	○	医薬品開発学、臨床準備教育A、臨床準備教育C	医薬品開発学、臨床準備教育C
10	広島大学	○	医薬品情報学、患者志向型合宿勉強会事前講義「薬害を考える」、薬学概論	患者志向型合宿勉強会事前講義「薬害を考える」、薬学概論
11	徳島大学	○	医療における人間学、社会薬学	医療における人間学
12	九州大学	○	薬害	薬害
13	長崎大学	○	薬学概論Ⅱ、医療倫理Ⅱ、薬剤学Ⅰ	薬学概論Ⅱ、医療倫理Ⅱ、薬剤学Ⅰ
14	熊本大学	○	医療倫理学Ⅱ	医療倫理学Ⅱ

①に該当する授業科目がある	13 学部
②に該当する授業科目がある	12 学部
①②両方該当する授業科目がある	12 学部

- ① 薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目
 ② 被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目

○ 公立 (5 大学 5 学部)

No.	大学名	①②両方	①に該当する授業科目名	②に該当する授業科目名
1	岐阜薬科大学	×	医薬品安全性学	
2	静岡県立大学	○	薬物動態学Ⅰ、薬剤学、医薬品安全性学、毒性学	薬物動態学Ⅰ、薬剤学、医薬品安全性学
3	名古屋市立大学	○	医薬品情報学、薬理学Ⅳ、薬理学Ⅳ、薬理学Ⅱ（左記薬理学Ⅳと合同）	薬理学Ⅳ、薬理学Ⅳ、薬理学Ⅱ（左記薬理学Ⅳと合同）
4	和歌山県立医科大学	○	社会薬学演習、医療倫理、薬学入門Ⅱ、臨床薬理学	医療倫理
5	山口東京理科大学	○	薬学倫理A、医療安全学2	薬学倫理A、医療安全学2

①に該当する授業科目がある	5 学部
②に該当する授業科目がある	4 学部
①②両方該当する授業科目がある	4 学部

- ① 薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目
 ② 被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目

○ 私立 (59 大学 62 学部)

No.	大学名	①②両方	①に該当する授業科目名	②に該当する授業科目名
1	北海道医療大学	○	医療薬学概論、社会薬学Ⅰ、毒性影響と評価、実務社会薬学複合演習	医療薬学概論、毒性影響と評価、実務社会薬学複合演習
2	北海道科学大学	○	薬と社会、医薬品開発論	薬と社会
3	青森大学	○	薬学への招待、薬学倫理	薬学倫理
4	岩手医科大学	○	医薬安全性学、医療倫理とヒューマニズム、薬事関係法規・制度2	医薬安全性学、医療倫理とヒューマニズム
5	東北医科薬科大学	○	薬学入門演習、薬品毒性学	薬学入門演習、薬品毒性学
6	医療創生大学	×		健康と薬
7	奥羽大学	○	チーム医療学Ⅰa、チーム医療学Ⅰb、医薬品毒性学	チーム医療学Ⅰa、チーム医療学Ⅰb、医薬品毒性学
8	国際医療福祉大学	○	早期体験実習、衛生化学Ⅱ（毒性・代謝）、OTC医薬品概論、薬学演習Ⅲ、医薬品安全性学、医薬品情報学Ⅰ	早期体験実習、薬学演習Ⅲ
9	高崎健康福祉大学	○	法薬学（裁判化学）、薬事関連法規、評価医療科学、社会と薬学、調剤学	社会と薬学
10	城西大学	○	毒性学B、薬剤師関係法制度概論、薬学概論、製剤管理学、公衆衛生学	毒性学B、薬学概論

No.	大学名	①②両方	①に該当する授業科目名	②に該当する授業科目名
11	日本薬科大学	○	患者の安全と薬害防止、ファーマシューティカルケアI	患者の安全と薬害防止、ファーマシューティカルケアI
12	国際医療福祉大学（成田薬学部）	○	早期体験実習	早期体験実習
13	順天堂大学	○	医療における薬学	医療における薬学
14	城西国際大学	○	生物学、毒性学、薬学概論A、薬事関係法規、公衆衛生学、医薬品化学A	生物学、毒性学、薬学概論A、薬事関係法規、公衆衛生学
15	千葉科学大学	○	薬剤師の責務、薬事関係法規	薬剤師の責務、薬事関係法規
16	東京理科大学	○	薬学入門（6年制、4年制）、病態・薬物治療学1（4年制）、疾病と病態総論（6年制、4年制）、医療安全学（6年制）、臨床製剤学	薬学入門（6年制、4年制）
17	東邦大学	○	薬学入門、ヒューマニズムⅣ	薬学入門、ヒューマニズムⅣ
18	日本大学	○	早期臨床体験、医療と法	早期臨床体験
19	北里大学	○	医薬品安全性学Ⅱ、薬事行政、薬事関係法規、社会薬学実習、薬と仕事Ⅱ	社会薬学実習、薬と仕事Ⅱ
20	慶應義塾大学	○	医療・薬剤師倫理、薬事関係法規1、人と薬	医療・薬剤師倫理、薬事関係法規1、人と薬
21	昭和医科大学	○	地域医療入門、薬剤師と医薬品に係る法規規範Ⅱ、ファーマシューティカルケアプログラム（医薬品の副作用・有害事象）、薬剤師の社会的使命と法的責任、プロフェッショナリズム①、集中講義	地域医療入門、ファーマシューティカルケアプログラム（医薬品の副作用・有害事象）、プロフェッショナリズム①
22	昭和薬科大学	○	医療倫理学、医療倫理学、医療倫理学、医療倫理学、医療倫理学、医療倫理学、医薬品の安全性	医療倫理学、医療倫理学、医療倫理学
23	帝京大学	○	薬事関係法規・制度、医薬品安全性学	薬事関係法規・制度、医薬品安全性学
24	帝京平成大学	○	フレッシュセミナーⅠA（薬剤師の果たすべき使命）、医薬品の安全性、薬事関係法規	フレッシュセミナーⅠA（薬剤師の果たすべき使命）
25	東京薬科大学	○	人間と薬学Ⅰ、社会と薬学、医療倫理学、医薬品安全性評価学、薬局・病院薬学、医療薬学演習Ⅱ 医薬品開発と臨床試験、医療薬物薬学特論Ⅱ データ解析集中講座	人間と薬学Ⅰ、医療倫理学、医療薬学演習Ⅱ 医薬品開発と臨床試験
26	星薬科大学	○	薬学の心構えⅠ（薬学科）、薬学の心構え（創薬科学科）、薬学と社会Ⅰ	薬学の心構えⅠ（薬学科）、薬学の心構え（創薬科学科）、薬学と社会Ⅰ
27	武蔵野大学	○	薬効安全性学	薬効安全性学
28	明治薬科大学	○	医療倫理、医薬品開発（薬学科、生命創薬科学科4年）、医薬品開発（生命創薬科学科3年）、総合人文社会科学（薬学科）	総合人文社会科学（薬学科）
29	湘南医療大学	○	薬学入門Ⅰ、薬と毒性学入門	薬学入門Ⅰ、薬と毒性学入門

No.	大学名	①②両方	①に該当する授業科目名	②に該当する授業科目名
30	横浜薬科大学	○	薬学概論Ⅰ、医療と法律、薬事法規・制度Ⅰ、医療倫理学、医薬品情報学、医薬品副作用学	薬学概論Ⅰ、医療と法律、薬事法規・制度Ⅰ、医療倫理学、医薬品情報学、医薬品副作用学
31	岐阜医療科学大学	○	薬事関連法規、公衆衛生学、薬学概論、医薬品副作用学	薬事関連法規、公衆衛生学、薬学概論
32	新潟薬科大学	○	薬害・医療事故被害者から学ぶ	薬害・医療事故被害者から学ぶ
33	北陸大学	×		早期体験学習、社会と薬学
34	愛知学院大学	○	薬学概論、医薬品毒性学、生体予防薬学特論、基礎薬学演習Ⅰ、製剤工学	薬学概論、医薬品毒性学、生体予防薬学特論、基礎薬学演習Ⅰ
35	金城学院大学	○	基礎薬学演習B、基礎薬理学、医薬品情報学（１）、社会薬学	基礎薬学演習B、医薬品情報学（１）、社会薬学
36	名城大学	○	感染予防学、薬理・病態Ⅵ	感染予防学、薬理・病態Ⅵ
37	鈴鹿医療科学大学	○	薬学への招待、薬害・副作用学、基礎薬学演習	薬学への招待、薬害・副作用学、基礎薬学演習
38	京都薬科大学	○	医療の担い手としてのこころ構え、臨床情報学、薬事関連法規	臨床情報学
39	同志社女子大学	○	早期体験学習Ⅰ、臨床薬学概論、薬事関連法規・制度、医療安全性学	早期体験学習Ⅰ、臨床薬学概論、医療安全性学
40	立命館大学	○	薬学概論、薬学応用演習、薬事法規・薬事制度	薬学概論、薬学応用演習、薬事法規・薬事制度
41	大阪医科薬科大学	○	多職種連携論2-医療と専門職、多職種連携論3-医療倫理、医薬品安全性学、個別化医療	多職種連携論2-医療と専門職、多職種連携論3-医療倫理
42	大阪大谷大学	○	医薬品開発学A、薬学概論、毒性学、微生物学、医療倫理学演習、医療情報薬学	毒性学、医療倫理学演習、医療情報薬学
43	近畿大学	○	早期体験学習、医薬品開発論	早期体験学習、医薬品開発論
44	摂南大学	○	生命倫理学、社会薬学、患者安全、臨床薬学Ⅰ	生命倫理学、患者安全、臨床薬学Ⅰ
45	神戸学院大学	○	医療の中の薬学、ヒューマニズム、医薬品化学Ⅱ	医療の中の薬学、ヒューマニズム、医薬品化学Ⅱ
46	神戸薬科大学	○	社会薬学、医療安全学	社会薬学、医療安全学
47	姫路獨協大学	○	実務実習事前特別講義、薬物副作用論	医療倫理、実務実習事前特別講義、薬物副作用論
48	兵庫医科大学	○	医薬品安全性学、医薬品開発学、基礎有機化学Ⅰ（基礎と立体化学等）、有機化学Ⅰ（基礎とアルカン等）、医薬品化学	医薬品安全性学
49	武庫川女子大学	○	初期演習Ⅱ（薬学科）、医薬品化学（薬学科）、医薬品情報学（薬学科）、ヒューマニズム論Ⅱ（薬学科）、生命倫理学（健康生命薬科学科）、健康生命薬科学概論（健康生命薬科学科）、医薬品開発論（健康生命薬科学科）	初期演習Ⅱ（薬学科）、ヒューマニズム論Ⅱ（薬学科）、生命倫理学（健康生命薬科学科）、医薬品開発論（健康生命薬科学科）
50	就実大学	×	新薬開発論	

No.	大学名	①②両方	①に該当する授業科目名	②に該当する授業科目名
51	広島国際大学	×	医薬品情報、医薬品の開発と生産	
52	福山大学	○	生命倫理	生命倫理
53	安田女子大学	○	臨床薬理学Ⅰ	臨床薬理学Ⅰ
54	徳島文理大学	○	薬学概論、社会薬学	薬学概論
55	徳島文理大学（香川薬学部）	○	総合薬学演習、治療薬学3、医薬品安全性学、臨床薬学アドバンスト実務実習、医療倫理学、医療倫理学	総合薬学演習、治療薬学3、医薬品安全性学、医療倫理学、医療倫理学
56	松山大学	○	薬剤師と医療、薬剤師と医療、医療倫理Ⅰ、社会薬学	薬剤師と医療、薬剤師と医療、医療倫理Ⅰ、社会薬学
57	第一薬科大学	○	医療概論、生命・医療倫理学、薬事関係法規・制度	医療概論
58	福岡大学	○	医薬品安全性学、医療情報学、医薬品開発・経済学、薬事関係法規論、薬事行政論	医薬品安全性学、薬事行政論
59	国際医療福祉大学（福岡薬学部）	○	早期体験実習、薬学概論	早期体験実習、薬学概論
60	長崎国際大学	○	薬学入門、裁判化学、薬事関係法規	薬学入門、裁判化学
61	崇城大学	○	薬学概論、医薬品安全性学Ⅰ、実務実習事前学習Ⅰ	薬学概論
62	九州医療科学大学	○	薬学入門、薬学と生命倫理Ⅰ、薬学と生命倫理Ⅱ	薬学入門、薬学と生命倫理Ⅰ、薬学と生命倫理Ⅱ

①に該当する授業科目がある	63 学部
②に該当する授業科目がある	63 学部
①②両方該当する授業科目がある	58 学部

- ① 薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目
- ② 被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目

○ 国公私立（78 大学 81 学部）

設置者別	①②両方	①に該当する科目がある	②に該当する科目がある
国立	12 学部	13 学部	12 学部
公立	4 学部	5 学部	4 学部
私立	58 学部	63 学部	63 学部
合計（国公私）	74 学部	81 学部	79 学部

2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）又は特別講義等の実施状況（令和7年度 薬学部）

○ 国立（14 大学 14 学部）

No.	大学名	授業科目名 (特別講義名)又は 講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット（有意義な点・利点）	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業を実施することの効果
1	北海道大学	薬学概論	2年次	本人	サリドマイド スモン 薬学エイズ 薬害肝炎	講師は薬害被害者であると同時に、医学系大学の教員であり、科学的・医学的見地から講義をおこなっている。そのため、講義内容はより客観的で薬学を学ぶ学生向けに十分考慮されている。また、国・製薬会社との和解確認書により設立された公益財団法人の理事長でもあることから、情報が個人レベルに留まらず、豊富かつ有意義なものとなっている。	非常に良好であった。	講師は医学系の教員でもあることから、自身が被害を受けたサリドマイドに留まらず、種々の薬害について、医学的な見地により講義を実施している。そのため、薬学を学ぶ学生向けに考慮された内容となっており、医薬品リスク管理を知るうえで有意義な講義となっている。
2	東北大学	薬学概論	2年次	家族	MMRワクチン	薬害による後遺症が、その後の本人と家族の人生に与えた影響の大きさを、本人からの言葉として伝えられたことで、薬害の原因、発生を防止するための仕組み、人の運命をも変える生物活性物質である薬に携わる医療人、研究者としての心構えについて真剣に考える貴重な機会になっている。	例年薬害講義を実施することにより、医薬品がもたらす負の部分に真摯に向き合い、医療倫理について深く考えたレポートが多く提出されている。優れた医療人材育成のためには、薬害を通じた倫理教育が大変重要であると感じている。	該当ございません。
3	千葉大学	専門職連携Ⅰ	1年次	本人	サリドマイド薬害	被害者の生の声を聴くことで薬害が人々にどのように影響するのかが具体的にわかり、薬学の役割についての理解が深まり問題意識が育成される。	学生レポート抜粋： 事前学習で調べた際には、サリドマイドはつわり止めとして販売されたと書かれていたが、実際の被害者のお話を聞くと妊娠に気がつく前に使用された例が多いと聞いて、驚いた。複数の資料を見て調べるようにしていたが、やはり実際に体験した方のお話を聞かないとわからないこともあるのだなと感じた。ネットで検索しただけで事件について全て理解したと思いつまみないように注意したい。また、公害や薬物乱用については義務教育でしっかりと学ぶのに、薬害については学ぶ機会が少ないという意見には深く同意した。実際、高校の保健の授業でしか薬害について学んでいないので、将来薬害について広めていきたいと思った。話を聞いて医療に携わる者として患者の視点に立つことの大切さを実感した。また、薬学部として薬害の話は深く受け止めなければいけないと感じ、これから薬と関わるにあたり、薬剤師としては患者さんと薬の最後の砦としての役割をしっかりと果たし、製薬の面ではしっかりと安全性と効果のはっきりとした新薬の開発ができるよう知識と患者中心の考え方を養っていきたい。サリドマイドの話では悪いのは薬だけでなくそこにかかわった人であるということが特に心に残り、過去の国や製薬会社、薬局のずさんさは繰り返してはならないもので、また使用する一般の人への教育も大切であると知り、私たちは今日学ぶことができたが、〇〇さんがおっしゃっていたように義務的に教育に組み込み、広く認知してほしいと思った。	サリドマイド薬害のみについて実施している。

No.	大学名	授業科目名 (特別講義名)又は 講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット（有意義な点・利点）	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業を実施することの効果
4	東京大学	薬学特別講義	3年次	本人	サリドマイド	薬害は教科書の知識で歴史上のことと理解している学生が多かったが、薬害被害者が直接真摯に語ることを聴き、将来創薬や医療に携わることの心構えに大きな影響を及ぼしている。このような機会は少ないので、選択科目（ただし、薬学科希望者は必修）であるが、ほとんどの学生が履修している。	・薬害はどこか遠いものを感じるかもしれないがサリドマイドが市販薬であることから誰にでも起こりうるということ、また薬害は薬が悪いのではなく医薬品を取り巻くステークホルダーである人に原因があるのだと伺い、分かったつもりではあったものの衝撃を受けた。 ・薬害の原因は薬自体体ではなく、それを取り扱う人間の判断や制度にあるという考え方をよく理解できた。	複数種類の薬害について学習することにより、行政システム、マスコミ、アカデミア、製薬会社、社会背景に潜む、二次被害を含む薬害が生じる原因の共通した要因に気づき、より考察を深めることが出来る。
				家族	C型肝炎			
5	富山大学	医療学入門	1年次	本人	薬害エイズ	医療倫理の基本的原則を学ぶことができる。 1) 患者の立場を一般的に理解する態度を養う。無危害原則。 2) 一歩進んで、患者の悲しみを追体験し、他人の身になって考える態度を養う。善行原則 3) 無思想性を脱却し、現代社会に対して、批判的に思考できる態度を培う。自律原則。 4) 社会正義の視野を培う。正義原則。 5) 弱者、マイノリティに対する理解。尊厳原則。 5) 友達の質問を聞いて、自分と同世代の人がいかに考えているかを学ぶ。連帯原則。	大変よい。課題としてレポートを提出させているが、それぞれ皆、薬害が起こる構造について、おおむね理解しているようだ。	該当なし
6	金沢大学	①医薬保健学基礎Ⅱ	1年次	本人	サリドマイド薬害	被害者本人から語られることで、受講生が薬害を薬学領域における重要課題として真剣に捕らえることができる。	受講生（1年生）の年代ではサリドマイド薬害のことを知っている人はわずかであり、はじめて知って驚いた、という反応が多く、またこのようなことが二度と起きないように自分が就いた職業で努力したいと感想を述べていた（昨年度全員に提出を求めた授業内容のレポートによる）。	直接、被害者の声を聞くことにより、薬害に対してより理解が深まると考えられる。
		②医薬品安全性学	4年次	家族	イレッサ薬害	イレッサは、薬害の原因とされているにもかかわらず、特定の遺伝子型を持つ非小細胞肺がんの第一選択薬でもある。即ち、他の薬害物質のほとんどは、社会から無くなっているが、イレッサは学生が社会に出た時、遭遇する医薬品なのである。その医薬品の副作用で家族を亡くした患者ご家族の話聞き、意見交換することは実社会で多くの医薬品を扱う場面で、副作用回避の重要性を認識させるためにも大いに意義深いと考える。	例年、聴講生には、感想文を書かせている。全ての学生は、薬害患者の家族の話を聞く得難い経験をしたことに感謝すると同時に、このような薬害（副作用）を起こさない薬の開発や医療体制にしたい、との前向きな姿勢を述べている。	薬害の種類による背景や経過、社会に与えた影響の違いに気づくことによってより深い理解が得られ、学んだ知識の応用力の涵養につながる。
7	京都大学	薬害再発防止のために 薬害エイズの経験から	4年次	本人	薬害HIV	薬学教育モデル・コアカリキュラムのA 基本事項 (1) 薬剤師の使命 において、「医療と薬学の歴史を認識するとともに、国民の健康管理、医療安全、薬害防止における役割を理解し、薬剤師としての使命感を身につける」とあり、薬害、法律と制度という観点から講義だけではなく、実際に薬害被害者の方からの薬にまつわる過去と現在の問題点や薬剤師への希望と期待について生の声を聞くことで、薬剤師ならびに医薬品開発従事者の責任の重みを感じるとともに将来への励みに繋がった。	特になし。	なし

No.	大学名	授業科目名 (特別講義名)又は 講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット（有意義な点・利点）	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業を実施することの効果
8	大阪大学	薬学入門3	1年次	家族	MMRワクチン薬害事件	実際に薬害に遭われた患者の家族から、直にお話を伺うことで、より真摯に問題認識を共有できる。これにより、創薬研究を目指す学生は、より安全な薬品開発の必要性を実感し、その後研究に役立てることができる。また、臨床を目指す学生は、副作用の早期発見や重症化を防ぐことの必要性を痛感し、その後、臨床に臨む際の注意力を養う原動力となる。	・副作用被害救済制度があることを初めて知った。この制度の周知と充実の必要性を感じた。 ・医薬品の安全性確保や薬害被害者を生まないために、医療者ができることは何かを考える機会となった。	例年1年次で実施していたが、今年度別の被害者家族の方に高学年での選択講義で講演いただいた。1年次での実施では基礎的な倫理観や問題意識の醸成に役立ったが、専門知識を習得した段階での実施により、薬害のメカニズムや医療システムの問題点をより深く理解できる。また、将来の職業選択が定まった時期での実施により、キャリアアイデンティティの形成に直結した学習効果が期待できる。学生は自分が選択する職業の立場から被害者の証言を聞くことで、将来の専門職としての適切な対応や職業倫理観が醸成が期待できる。 さらに、講演後の次回授業で薬害の起きない社会の仕組みや取り組み等についてグループディスカッションを行い発表する取り組みを実施することで、学生が主体的に問題解決策を考える機会となった。
		ヘルスコミュニケーション	4年次	家族	陣痛促進剤被害			
9	岡山大学	臨床準備教育C	4年次	本人	サリドマイド薬害	薬学を学ぶ学生、特に長期実務実習を控えた4年次生に、薬害被害者の話を直接聴かせ、また薬害により生じた四肢その他の骨格異常や臓器異常を実際に見せることで、数十年前の薬害が未だに被害者の健康と生活を蝕んでいることを強く印象づけることができる。また、こうした講義に臨むことで、学生に薬剤師としての使命・職責を自覚させることができ、また、そうした自覚を持たせるため良い機会にもなっている。こうしたことに加え、現在でも新たな薬害が生じ、また生じ得ることを理解させて、薬害を未然に防ぐこと、万が一発生した場合でも被害拡大を抑止することの重要性を、学生に認識させることができる。更に、医薬品の安全性確保の重要性や適正使用の重要性、そして薬剤師としてそれを積極的に実践することの大切さも、本講義を通じて理解させることができる。	毎年のことであるが、受講学生からは「薬害被害者を初めてみました」「薬害被害は予想以上に激しく、ひどいものである」「薬害は起こしてはならない」との感想が挙がる。薬害講義では、学生の率直な思いを知る目的で、講義終了、直ちに講義レポートを書かせているが、それによると、薬害によるアザラン肢症（四肢形成異常症）を直接目にすることで、これまで現代社会とは無関係な遠い昔の話であると感じていた薬害が、急に身近で目つ重大な問題であることに気づくようである。	現時点でお招きしている薬害被害者は、サリドマイドの薬害被害者の方のみである。
10	広島大学	患者志向型 合宿勉強会	3年次	本人	サリドマイド C型肝炎 薬害エイズ 陣痛促進剤 MMRワクチン イレッサ ヤコブ スモン	学生は薬害に遭われた方の姿を直接見て、生の声、特に精神的肉体的に様々な障害や困難を持ちながらも前向きに生きている話を聞くことができ、実体験に近い経験を得ることが可能であり、より強い使命感と倫理観を持つことができる。	薬害被害に関する考え方が変わった、患者さんの立場になって物事を考えることができる薬剤師・研究者になりたい、など。	薬害は、様々な薬害に同時に触れることにより、「薬害」という一つの言葉で括られるものではなく、各々の薬害で様々な背景、経過、困難な状況を抱えている現状があり、その一方で、薬害の原因には共通した人為的問題があることが理解できること。さらに、それに伴い、被害への対応については個々の観点が必要であるが、薬害発生の防止や根絶という観点では根本的な原因を排除する努力が必要であることを実体験に近いものとして得られる効果があると考えられる。
				家族	ヤコブ MMRワクチン			
11	徳島大学	SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～	1年次	本人	B型肝炎	これから医療人を志す新入生にとって非常に重要な内容である。将来、医療の担い手の一員である薬の専門家を目指している学生に対し、薬害が起きた原因、被害者及びその家族の痛みや苦しみ、国や製薬会社の対応など薬害に関する基本的な知識を得ることができる。また、1年生を対象とすることにより、これから受ける薬学専門教育の意義を感じ、学習意欲を一層高めることができると考えている。	薬の専門となるための薬学専門教育に関する学習意欲の向上につながったと考えている。	薬害被害が起こる要因、被害者のおかれた立場や状況、行政や製薬会社の対応など、共通する事項や相違点を知り、薬害の実情を把握することができる。

No.	大学名	授業科目名 (特別講義名)又は 講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット（有意義な点・利点）	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業を実施することの効果
12	九州大学	薬害	3年次	本人	サリドマイド エイズ C型肝炎 ヤコブ病 PMDA	大学教員、被害者の家族、被害者本人、行政官庁職員 の計6名による講義、講演ならびに学生によるディスカッション を通して、被害者に寄り添い、薬害に対してより理解が進む ことが期待される。	被害者の声を聞いて良かったという声が多い。	それぞれの状況で対応の違い等も認められ、より見識を深 めることができる。
13	長崎大学	薬学概論Ⅱ	1年次	本人	C型肝炎	1年次生を対象に行うことで、早期に倫理観を養うことがで きる。薬学を学ぶモチベーションを高めることができる。	毎年、実施した際には、学生は真剣に講演を聞いている。 講演に関するレポートでは、薬学を学ぶ上での心構えや、製 薬企業、研究者の社会責任について触れることが多く、薬 害を起こさないためにはどうあるべきかを常に意識して勉強す る動機づけになっているようだ。	薬害の原因にはいろいろな要素があるため、薬害の 教訓を 生かすためには、複数の種類の薬害について取り扱う必要 があると考えている。
14	熊本大学	医療倫理学Ⅱ	3年次	本人	C型肝炎ウイルスで 汚染したフィブリノゲン 製剤による薬害	講師は、フィブリノゲン製剤で重篤な健康被害を受けました が、その後、インターフェロン療法で健康を回復されました。 薬の光と影の両面を体験された講師のお話は、創薬・育薬 を目指す学生にとって貴重です。	講師のお話の後で、学生と意見交換を行い、学生から積極 的で素直な意見が聴けます。さらに、講師のお話を参考に 実施する小グループ討論では、講師のお話を反映した具体 的な薬害防止策がでています。	該当なし。

○ 公立（5 大学 5 学部）

No.	大学名	授業科目名 (特別講義名)又は 講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット（有意義な点・利点）	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業を実施することの効果
1	岐阜薬科大学	医薬品安全性学	4年次	本人	HIV	医薬品開発の過程で、医薬品の安全性確保は有効性追 求よりも重要であることを実例をもって知ることができる。 臨床現場における医薬品の適正使用において、副作用の 確認の重要性を実例をもって知ることができる。 上記2項目から、薬学を学ぶ全ての学生に医薬品の安全 性確保が最優先であることを認識させることができる。	医療系の学部の学生として、薬学被害のことを再認識する ことができた。自身の進路について参考になった。 薬学被害について薬学知識のない一般の方が新聞やTVか ら正しい知識をえることは難しいと思うが、いずれにしても誤 解から差別を生むようなことはいけないと思った。	複数の種類の薬害について実施していない。
2	静岡県立大学	早期体験学習 総合薬学演習	1～2年次 3～6年次	未定 未定	未定 未定	創薬の負の面をより具体的に知ることができ、医療人として の倫理観を身につけるために有意義である。	アンケートを実施しているが、創薬の負の面を知ることがで きることから、多くの学生にとって有意義なものとなっている。	毎年テーマを変えることで、複数の薬害について知ることがで き、多くの学年に履修してもらう意義がある。
3	名古屋市立大学	薬理学Ⅱ/Ⅳ	2・3年次	家族	MMR	当事者家族として薬学に向きあってきた方と、当事者(家 族)ではないが、多くの被害者の方を見てきた方の話をまとめ て聞くことで、薬害の問題を総合的に学ぶことができた。	なし	なし
4	和歌山県立医科大学	薬学入門Ⅱ	1年次	家族	陣痛促進剤被害	実際に薬害を経験した方のお話を直接聞くことで、学生は 薬害の「重み」を強く実感できる。これにより、薬剤師の責任 を実感し、薬害を防ぐために必要な視点や行動を考える力 が養われる。	「防げたはずの被害が薬害という言葉が、印象に残った」、 「被害にあった人々の視点を持って患者さんに接することが、 非常に大切であることが理解できました。自分は薬剤師とし てそうした視点を持って社会に貢献したいと思いました。」、 「陣痛促進剤被害というこんなにも大きな問題が長年あつた のに、今まで全く自分が知らなかったことに危機感を覚えまし た。今回、お話を聞けて本当に良かったです」、 「今回の話 は、確かに自分の記憶にとどめ、将来の自分の働き方に反 映しようと決意した」など、多くの学生は大変貴重な機会に なつたと感じている。（薬学入門Ⅱ）	なし
5	山口東京理科大学							

○ 私立 (59 大学 62 学部)

No.	大学名	授業科目名 (特別講義名)又は 講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点)	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業を実施することの効果
1	北海道医療大学	医薬品安全	4年次	本人	サリドマイド	薬害の被害者であり、薬害研究の第一人者である講師の講義は、ある程度薬学的な知識も修得した実務実習前の4年生にはとても有意義な講義であると思われる。薬剤の審査過程の試験の意味だけではなく、限界も知りながら、実際にサリドマイド被害が起こった経緯などを学ぶことができ、また、副作用管理に携わる薬剤師の存在価値、さらに薬剤師としてどのようなことを意識して現場で働くべきかを考えるととても良い機会であるため、実務実習を意識しモチベーションを上げる効果もあると思われる。	「毒性影響と評価」の課題では、「薬害と疑われる健康被害の情報を知ったとき、薬剤師あるいは薬の専門家として何ができるかを考えてみよう」という課題について取り組むことで、現場を意識することができ、「モチベーションが上がった」、「自分なりの薬剤師像を考えるきっかけになった」という意見が多かった。また、薬剤師以外にも、研究者、医薬品の承認制度、社会的背景、社会的な問題に関する事例を知ることができ、幅広い視点で考えることができたという学生も多かった。	過去の薬害による健康被害の事例を踏まえ、医薬品の開発から承認制度、あるいは医薬品情報学や医薬品適正使用の観点から、市販後の育薬に関する薬剤師の活動を統合的に学修することができる。
		実務社会薬学 複合演習	6年次	本人 家族	薬害エイズ	1. 本学では「薬害教育」に関して、それぞれ関連する授業において取り上げられてはいるものの、やはり被害者及びそのご家族の方から被害状況を実際に見聞きすることは、医薬品の安全性を知る意味からも非常に有意義なものであると考える。 2. 第6学年の学生は長期実務実習を終え、一通り薬学の専門知識を身につけており、薬害被害者による講演の機会を6年前期に設けることで、様々な側面から薬害について考察することができ、学生の関心度も非常に大きい。		
2	北海道科学大学	薬と社会	3年次	本人	サリドマイド スモン 非加熱血液製剤 ソリブジン等	教員が薬害を学んで得た知識を基に講義するだけでなく、薬害被害者であり、支援活動を行っている講師が講義を行うことで、より確かな情報・被害者の実情を学生が学ぶことができる点。加えて、レポートの作成を通じて学生が今後の薬剤師職能を考える貴重な経験となっている。	レポートなどの提出物、グループ発表の中で、「薬害の恐ろしさ」、「薬害における薬剤師の責任」についてなど、様々な刺激を受けたことを感じている学生が多く見られた。	薬害は過去のものではなく、最近でも発生していることを知ること、我が国でいかに多くの薬害が発生し、その原因の多くが早めに処置すれば被害の拡大を防止できた点などを知り、薬剤師になった時の薬害防止への意識向上とそのための行動に寄与するものと考えている。
3	青森大学	薬倫理学	3年次	本人	サリドマイド	実際に被害に合われた方に直接話を聞くことで、薬害を身近に捉え、考える機会になる。	未実施のため、まだ分かりません。	複数実施していない。
4	岩手医科大学	早期体験学習 (全人的医療基礎講義含む)	1年次	本人	薬害エイズ	教科書を使った授業の内容より、本人からの声を聴かせることが重要。薬害が発生した背景とプロセス、薬害被害者の心身の苦痛、薬害訴訟の実態、薬害をなくすために必要な道義的・社会的・医学的観点について、体験者の生の声を通じて理解を深めることができる。また、なぜ薬害は起こったのかを深く考えることで人間の持つ様々な価値観や倫理観を養育し、医療者と患者双方の視点で医療について俯瞰的に考える姿勢を身に着けることも重要である。実例を通して、薬害が起きないためには何が必要かを討議させることで、多様な意見を共有し、様々な視点から問題解決へのアプローチを考える機会となる。	学生は熱心に聴講している。「全人的基礎講義」においては、薬害に負けず「いのちが守られる社会」の実現のために精力的に活動している講師の姿を目の当たりに、医療人を志すものとして薬害をなくすための学びと意識を持つことの重要性を強く認識したとの感想が例年寄せられている。講義後に講師のHPから活動を調べる学生や、講師の著作を手にとる学生もいる。「医療倫理とヒューマニズム」では、薬害が広まった経緯や、サリドマイドが他の疾患の治療薬になっていることを知り、複雑な思いを抱く学生もいる。本人からの問いかけに必死に答えようとする姿勢が多くの学生にみられ、真剣に話についていく姿があった。講演を通して、薬害は単なる副作用ではなくその背景には人災があったことを理解し、薬害に対する認識が変わっているようだ。	薬害が及ぼす様々な被害を理解することができる。薬害には、外見などの分かりやすい部分に現れるものも、外見には影響せずとも体内の機能に深刻な障がいを残してしまうものもある。薬に係る者の一つのミスが、様々な形で、その人の生命と暮らしを壊してしまう可能性があるということを学ぶことができる。また、薬害が決して特殊な環境によって生まれるものではないということを理解することができる。
		薬害に関する特別講義	1年次	本人	薬害エイズ			
		医療倫理とヒューマニズム	4年次	本人	サリドマイド			
5	東北医科薬科大学	薬学入門演習	薬学科1年次	本人	サリドマイド	薬剤師としての責任感を育む教育効果がある。	ハンディを抱えているにもかかわらず、前向きに生きている姿に感動したという感想が多い。	薬害事件が発生する要因を知ることにより、薬害を起こさないようにするために、行政、製薬会社、医療人はどう行動するべきか考えることができるようになる。
6	医療創生大学							

No.	大学名	授業科目名 (特別講義名)又は 講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット（有意義な点・利点）	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業を実施することの効果
7	奥羽大学	チーム医療学Ⅰa	1年次	本人	サリドマイド	薬剤師を志す学生にとって、薬剤師の重要な責務である薬害の防止の重要性を認識する機会として意義がある。	薬害の実例に触れ、被害者の声を聞くことで、薬害防止における薬剤師の役割を実感している。	実施していない。
		チーム医療学Ⅰb	2年次	本人	サリドマイド			
8	国際医療福祉大学	早期体験実習	1年次	本人	サリドマイド	学生が被害者の生の声を聴けること。	被害者からの直接の声を聴くことに対して、多いに刺激を受けたようであり、「将来、薬剤師を目指す自分にとって大変貴重な機会となった」などの意見があった。	特になし
9	高崎健康福祉大学							
10	城西大学	薬学概論	薬学科1年次	本人	サリドマイド	薬剤師の使命を認識、患者目線を理解（1年生）	医薬品の安全利用に対する意識の向上が伺える。現在報告書内容を解析中	実施していない
11	日本薬科大学	ファーマシューティカルケアⅠ	2年次	本人	薬害肝炎（C型肝炎）	薬の持つ正の面である治療効果ばかりではなく、負の面であるところの薬害問題にしっかりと向き合って学ぶ機会が得られるのは、学生にとって意義深いものと感じる。実際の薬害被害者による講演を聞いた学生は、その生々しい体験や歴史に触れて一様に衝撃を受けるが、医療人として必要な姿勢について真剣に考える良いきっかけになっている学生が多い。	学生の反応としては、実際に薬害の被害者の方の話を聞き、討論することにより薬害に関する理解が深まったようである。特に医療従事者を目指すものとして、学問の重要性や責任というものを強く感じとり、薬剤師になることへの自覚が促されたと考えている。	新コア・カリキュラムの進行に伴う経過的措置中であり、カリキュラムにより履修年限が異なる。
		患者の安全と薬害防止	3年次	本人	薬害肝炎（C型肝炎）			
12	国際医療福祉大学 (成田薬学部)	早期体験実習	1年次	本人	サリドマイド	過去の薬害事件から教訓を学び、医薬品の適正使用や安全管理の重要性を認識できるようになる。	薬剤師の副作用に対する情報不足が被害を招いており、今後の学修に活かしていきたいとの感想があった。	該当なし
13	順天堂大学	医療における薬学	1年次	本人	肺がん治療薬 イレッサによる薬害被害	薬害経験のない教員が過去の事例を用いて説明しても、薬害被害者が自身の薬害での健康被害の程度やその経過、被害者として認定されるまで経緯などの様々な方向からみた薬害被害の状況や被害者の思い理解することは不可能である。その観点からも、被害者から直接話を聞く機会を持つことは有意義なことであると考え。また、被害者からの話を聞くことで、将来、薬物治療に薬剤師として係る際に自身の判断が薬害被害の防止につながることを、あるいは逆に被害者を生み出してしまう可能性があることを1年次からかいさせ、今後の薬学教育を受けていく心構え及びその意義を明確化させるのにつながる。と考える。	多くの学生は高校時代までに受けた薬害の授業ではなぜ臨床試験までして認可された薬害が起きるのかという患者の立場だけからしか薬害を考えられなかったようであった。薬害患者のご家族の話を聞くことで薬害の悲惨さを理解するとともに、医薬品開発プロセスにおいて第2・3相試験でも妊婦や授乳中、腎臓病など一部の患者は対象外であることで実際に医薬品が発売されるまで間接的に起こる副作用に気づくことができず薬害を未然に防ぐことが難しいという現実を理解することができたようである。多くの学生は副作用（薬害を含む）を無くすというのは不可能かもしれませんが軽減することならできると思うので順天堂大学薬学部で学び、薬剤師として薬害を含めた医薬品の副作用をより少なくする医療に貢献したいとする意識が芽生えたようである。	複数の種類で授業等を実施していない。
14	城西国際大学	薬学概論A	1年次	本人	薬害エイズ	薬の使用はメリットだけではなくデメリットもあることを薬学部1年生のうちから学修できる。	「患者さんだけでなく、ご家族の方も苦労していると聞いて差別や偏見に苦しんでいる人の心を開く必要性も感じた。薬学生として、自分に出来ることは少ないかもしれないけど患者さんの心に寄り添える医療人として活躍したいと思った。」との感想が学生から出ている。	様々な薬害の背景を学び、薬剤師として何をすべきかを考えることができる。
15	千葉科学大学							
16	東京理科大学	薬学入門	1年次	本人	サリドマイド薬害	薬害被害者の生の声を聞くことによって、薬害を知識としてではなく、薬害が人の命や人生、家族の絆に如何に重大な影響を及ぼすかを知り、薬剤師の使命の重大さを実感する。	毎年受講者全員に感想文を提出させているが、重大な障害を持った被害者を実際に目の前にするのが初めての学生がほとんどで、その姿と前向きな生き方についての講演内容に、衝撃的な感銘を受けた模様が記述されている。講演を聴いて、人の命を預かる薬剤師の使命の重大さを認識し、今後の勉学に取り組む糧にしたいと述べる学生がほとんどである。	複数の種類の薬害についての授業等は実施していない。

No.	大学名	授業科目名 (特別講義名)又は 講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット（有意義な点・利点）	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業を実施することの効果
17	東邦大学	薬学入門	1年次	家族	イレッサ	薬害被害にあわれた方の意見・体験等を直接聴く機会を設けることで、倫理観と豊かな人間性を養い、社会に貢献しうる医療人育成の一助となっている。	「薬についての正しい知識を薬剤師が伝えていなくてはならないと思った」「薬害被害に遭われた方を実際にこの目で見ながらそのご経験やご意見を拝聴でき、とても貴重な機会であった」との意見が多くあった。	学年を変えて複数の種類の薬害講演を聴く機会を設けることで、薬剤師としての持つべき倫理観を継続的に学ばせる機会となっている。
		ヒューマンズⅣ	4年次	本人	サリドマイド			
18	日本大学	早期臨床体験	1年次	本人	サリドマイド	1年生を対象としており、今後、様々な薬に関する授業において、作用面とともに副作用面を強く考慮・意識することに役立っている。	実際の薬害患者に来て頂いているので、授業内容が強く印象に残るようである。 また、薬剤師になるための学習意欲、使命感及び責任感を高めている。	実施していない。
19	北里大学	薬と仕事Ⅱ	2年次	本人	サリドマイド	①薬害ということに目を向けられるようになる。②薬は適切に使用し、対応しなければ害となり得ることを実際の被害を通して理解できる。③被害者ご本人が講演されることで、教員が講義するよりも説得力があり、薬害への認識が高まる。④いろいろな立場からの講義を聞く中で、被害者にも加害者にもなり得ることを実感できる。⑤薬害の起こった背景を理解し、これを繰り返さないように自分達ができることを考える機会となる。⑥医療に関わる上で必要な倫理観、命の重みを感じることができる。	・自分から積極的に行動しない限り聞くことできない、被害者の貴重な話を聞くことができ、興味深く感じた。 ・今後他の講演を探したり、自分でネットなどで調べて知識を深め、学生のうちにしかできないような経験を積んでいきたい。 ・2回の講義で、薬害だけでなく人として、医療人としてどう考えるべきかを学ぶことができ、非常にためになった。	なし
20	慶應義塾大学	人と薬	2年次	本人	サリドマイド	これまで自分の中で想像していたことは全く違う現実に直面し、薬害の被害の重大さに気づく。防げるはずのことをなぜできないのか、薬の研究開発に携わるものとして、あるいは患者に薬を渡す最後の医療者としての倫理観を考えることができる。さらに、薬学を学ぶ意味について改めて考え、主体的に学習するようになる。	学生は真剣に被害者の話を聴いており、被害者の生の声を真摯に受け止めている様子がワークシートへの記載やグループワークの様子からうかがえる。また、多くの学生が、授業アンケートの中でこのように患者から学ぶ授業の重要性について述べている。	学生は複数の種類の薬害について学ぶことで、個々の薬害の特徴をつかむとともに、薬害発生要因の本質を考えるようになる。
		医療・薬剤師倫理	3年次	本人	サリドマイド 薬害エイズ スティーブン・ジョンソン 症候群			
21	昭和医科大学	地域医療入門	1年次	家族	イレッサ	将来、医療を担う薬学生として、医薬品を含む化学物質の有用性の影に潜む危険性を薬害被害者の体験談から学び、ヒトの生命に関わる職責の重大さを改めて認識するとともに、高い倫理観を醸成することにつながることを期待される点。	例年医薬品の適正使用や薬害を起こさないために、学生としての学修の重要性や薬剤師としての心構えへの言及が多い。また、障がい者に対する差別・偏見を持たないことの大切さや普段からのコミュニケーションにおいて気をつけるべきことを再認識した学生が多い。	特になし
		プロフェッショナリズム①	2年次	本人	サリドマイド			
22	昭和薬科大学	医療倫理学	2年次	本人	サリドマイド	薬害が発生した背景、構造は同じではなく、様々な要因が介在しているが、共通している点は生命倫理に対する軽視が同われる点である。また、薬害は健康被害の面だけではなく、被害を受けた方に対する日常生活上の偏見も存在し、人権の尊重に対する教育の機会にもなる。 机上で勉強を行うことと、被害者の話を直接聞くことは、説得力が全く異なり、被害者や家族の立場にたつて事実と向き合うことができる点。薬学出身者は将来薬に係る様々な仕事をする立場になるが、このような体験を通して、各々が薬害をけって繰り返さないという強い意志を有し、行動をすることに繋がる。	「被害者の方々の苦しみや苦労は、和解という形で事態が終結してもずっと残っていくものであることを学んだ」、「薬害を二度と起こしてはいけない」、「薬を扱う仕事でどれだけ大きな責任を負っているのか実感できた」などの感想が学生より寄せられ、被害者の方からの直接の講義の重要性が再確認されるものであった。	該当しない

No.	大学名	授業科目名 (特別講義名)又は 講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット（有意義な点・利点）	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業を実施することの効果
23	帝京大学	医薬品安全性学	4	本人	スティーブン・ジョンソン 症候群	薬害や副作用被害については授業で学んでいるものの、実際に被害を経験された方の講演を聞くことで、授業では十分に伝わらなかった患者の苦しみや仕事・家族など日常生活への影響について具体的に理解することができる。また、副作用が生じた際の医薬品副作用救済制度の適用について、認められる場合と認められない場合についても理解することができたので、医療人になった時に必ず活かせる時が来ると思う。特に、実務実習を目前に控えた時期であることから、医療事故を決して起こしてはならないという決意を促す上でも、本講演は非常に効果的であると考えられる。	講演者に対する学生の感想文からは、講演者への思いやりや、貴重なご自身の経験を共有してくださったことへの感謝の気持ちが強く感じられた。同時に、薬剤師としての社会のあり方や医療従事者としての責任感を改めて感じているようだった。グループセッションの結果として挙げられた薬剤師の役割に関する意見は非常に多様であり、いずれも実際の医療現場において重要とされる内容が多く含まれていました。特に、患者とのコミュニケーションや、薬剤師以外の医療職とのチームワークに関しては、その重要性を改めて認識した学生が多かった。また、薬剤師として自己研鑽に努め、常に知識を更新していくことも重要であるとの意見も多かった。	今年度、患者による講演を実施しているのは、スティーブンス・ジョンソン症候群（SJS）のみである。
24	帝京平成大学	フレッシュセミナーⅠA （薬剤師の果たすべき使命）	1年次	本人	サリドマイド 薬害エイズ	薬害被害者本人の講義は1コマ（90分間）であるが、その後2コマ（180分）で個人ワークとグループワークを行う。ワークのテーマは「患者の安全を守る薬剤師の使命」であり、「サリドマイド薬害が発生した原因、社会的背景、症状、問題点」「サリドマイド薬害は当事者、家族にどのような影響を与えたか」を考え、その考えをクラスで共有する。「患者の安全を守る使命」を深く考える機会となっている。	学生全員がレポートを提出している。薬害被害者とその家族の置かれている状況への理解、国や製薬企業の対応・薬剤師の役割への理解につながっていると考えられる。	該当なし
25	東京薬科大学	人間と薬学Ⅰ	1年次	本人	サリドマイド	実際に薬害にあわれた方の体験など直に聴くことにより薬害被害者やその家族の方の痛みを知ることができ、二度と同じ過ち（薬害）を起こさないための薬剤師の責任の再認識と社会制度づくりなどを考えるきっかけとしている。	実際の生の声を聴くことにより、薬の専門家ややがて指導者となる学生達に大きな印象、影響を与えている。薬の有効性と危険性の表裏一体であることを改めて実感し、薬を扱う薬剤師として責任感、知識、態度、倫理など再認識できたとの感想が多く聞かれた。	複数の薬害については行っていない
26	星薬科大学	薬学の心構えⅠ	1年次	本人	サリドマイド	薬の専門家を目指す学生たちにとって、薬害被害者の実体験を聞くことにより薬剤師または医薬品開発者としての社会的責任を意識する良い機会である。	この授業を受けて、薬害についての深刻さを学び、しかもそれが度々起こっていることを知り、がっかりした。薬害が起きる理由や被害拡大の理由に、事実の隠蔽があると思うので、隠匿をさせないことが必要であると感じた。薬害について知る機会は今まで無く、悲惨な実態にとっても驚いた。また、実際にサリドマイド薬害の被害者である講師の話聞いて、もう二度とこのような事件を起こしてはいけなく強く感じた等、レポート提出により学生の反応や感想が得られた。	なし
27	武蔵野大学	薬効安全性学	3年次	本人	サリドマイド薬害	将来、薬剤師を目指している学生に薬害の実態を知ってもらうことで、医療人として考えるべきことを自覚する機会を設ける事ができる。	薬害被害者の生の声を聴くことで、自分たちの役割や責任を実感する機会となった等の感想が多く寄せられている。	薬害被害者でもある東京理科大学の佐藤嗣道教授に被害者の立場を超えて、制度やあるべき社会の姿などのご講演を頂く機会も設けており、学生の意識向上に役立っている。
28	明治薬科大学	総合人文社会科学 （薬学科）	6年次	本人	サリドマイド	被害者の視点から、薬害が実際に被害者の人生、家族、日常生活にどのような影響をもたらしてきたのか、そしてどのような苦悩や困難を抱え続けてきたのかについて、学生たちに具体的かつ説得的に伝える機会を提供できることが、なにより有意義な点である。	履修者全員にレポート（感想文）を課しているが、そこには当事者から直接話を伺う機会に恵まれたことで、薬害が孕む課題を多面的に捉えるきっかけになったことが書かれている。具体的には、薬が販売された時代背景や社会状況をはじめ、被害者の人生とその苦悩、被害者の高齢化に伴う新たな課題など多岐に渡る。さらに医療者としての姿勢や責任についての気付きも多く書かれており、学生たちにとって、多くの学びがあったことが伝わってくる。	なし

No.	大学名	授業科目名 (特別講義名)又は 講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット（有意義な点・利点）	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業を実施することの効果
29	湘南医療大学	薬と毒性学入門	1年次	本人	サリドマイド スモン ソリブジン	これから薬学を学ぶ学生が、薬の功罪を知り、サリドマイド被害者から直接講義を受けることにより、今後の薬学の勉強姿勢に大きな影響を与えたと思う。	サリドマイド被害者にお会いするのが初めてで、薬がこうに奇形を引き起こすことへの驚きと二度とこのような薬害を起こしてはならないという思いを多くの学生が感じていた。	特に実施していない。
30	横浜薬科大学	薬学概論Ⅰ	1年次	本人	サリドマイド	薬害についてほとんど知識のない学生も、講師の姿とサリドマイドをめぐる政府、会社、薬局、家族、友人等の態度等の話を聞くことにより、薬害の恐ろしさ、本人、家族の苦しみを知ることができ、薬学を学ぶものとしての責任について強く考える機会となる。	本講義を受講前まで薬害問題の捉え方には学生間で大きなばらつきがあるものの、共通して第三者目線的な理解であったようである。しかしながら、受講者が理解し易いように配慮された講師の説明を拝聴するにつれて、自身のこれまでの理解と気遣いが必ずしも正しいものでなかったことを認識した受講生がほとんどで、驚きを隠せない様子であった。講義終盤、今後、一人の人として、あるいは将来薬剤師として、薬害被害者の方々に適切に対応するため、また薬害の発生を防ぐために今、自身が何をすべきかを考える姿は印象的であり、本講義を受講することによる学びの成果一つであるように感じられる。	なし
31	岐阜医療科学大学	薬学概論 薬害被害者のお話を聴く講義	1年次	本人	サリドマイド	薬物の開発、取り扱いについて、どうすることで薬害を防止できるか、薬害を最小限にとどめることができるかを考える機会になる。	かなりインパクトがあり、考えるきっかけになったと思われる。	現在はサリドマイド薬害の被害者のお話を聴く講義のみを実施している。
32	新潟薬科大学							
33	北陸大学	早期体験学習	1年次	本人	サリドマイド	日本ではこれまでに数多くの薬害事件が発生し、大きな社会問題となっている。薬害被害者から薬害の実態、被害状況や遺族への差別・偏見、国や製薬企業の対応について聴講できることは大変有意義である。	将来、薬剤師を志す者にとって、非常に有意義であり、社会的な重要性も理解できたという毎年好評である。	実施していない。
		臨床統計学	3年次	本人	サリドマイド			
34	愛知学院大学	薬学概論	1年次	本人	サリドマイド	薬害被害者（ご家族）の方からの生の声を聞き、問題を提起してもらうことにより、単なる薬の副作用についてだけでなく薬害の問題点、将来の医療従事者としての心構えについて真剣に考えることができた。	薬害の背景や医療従事者の役割について考えるきっかけになったという意見のほか、被害者の方の気持ちや、求められる配慮や対応の具体例を知ることができ、学びが深まったとの感想が寄せられた。	薬害被害を受けた方から直接話を聞くことにより、薬の副作用が与える苦しみやその後の偏見についても知ることが出来、薬害の再発防止を強く意識付けすることができる。また、将来の薬剤師になるための動機付けにも効果があると考える。
		医薬品毒性学	4年次	本人	サリドマイド			
35	金城学院大学	基礎薬学演習B	1年次	本人	フィブリーゲン製剤によるC型肝炎被害	薬害被害者の声を直接聞くことで、印象深く、かつ、薬害防止への意識を高めることができた。	非常に興味深く聴き、多くの質問が出た。	1つのみです。
36	名城大学							
37	鈴鹿医療科学大学	薬学への招待	1年次	本人	スモン事件	薬害や医療安全に関する講義や演習を通して、医薬品情報や医薬品適正使用の重要性、ならびに医薬品評価、副作用救済制度等に対する理解度が向上し、認識が深まるのが期待できる。また、国民の健康管理、医療安全、薬害防止における薬剤師の役割と使命について考えることができる。	講義後のアンケートの感想から、被害者の声を直接聞くことで、医薬品情報や医薬品適正使用の重要性について学ぶことができたという意見が多く寄せられている。また、薬害防止や医療安全に関する薬剤師の役割と使命についての考えを深め、意識づけの機会となっているとの認識も示されている。	薬害被害の実態を直接聞き、薬害被害・差別偏見問題への理解を深める機会を設けている。これにより、学年を跨いで知識や認識を深めている（3年次生は、1年次にスモン事件の被害者による講演を聞く機会を既に得ている）。
		薬害・副作用学	3年次	本人	サリドマイド事件			

No.	大学名	授業科目名 (特別講義名)又は 講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット（有意義な点・利点）	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業を実施することの効果
38	京都薬科大学	早期体験学習	1年次	本人	サリドマイド	講義を傾聴することにより薬害を根絶するために医療人として薬剤師は「何をしなければならないのか」、「何を期待されているのか」を学ぶ。将来の医療人としての自覚を高めるとともに、「生命の尊厳」、「やさしさ、おもいやり」など豊かな人間性を涵養する。	薬害の被害者であるご本人の話を聞くことによって、多くの学生から以下のような感想が寄せられ、将来、医療に携わるものとしての自覚と責任の重さを感じ取ってくれたようです。「薬剤師は専門知識を深めるだけでなく、常に患者の立場に立ち、倫理観を持って行動することが必要であると感じた。」「薬剤師としての社会的使命と責任の重さを学んだ。薬害の歴史を風化させることなく、社会の健康に貢献できる医療人を目指して学び続けたいと考える。」「過去の薬害を教訓とし、再発を防ぐために、常に責任ある行動を心掛けられる薬剤師を目指していきたい。」「薬害を繰り返さないために、薬剤師は薬の専門家として薬の安全性に対して真摯に向き合い、対応する姿勢が求められる。」「薬剤師としての自覚を持ち、患者に寄り添いながら真剣に向き合う姿勢を持つことが重要である。」「今回の講演を通じて薬剤師は薬害を未然に防ぐ存在として、常に誠実に患者と向き合い、命と尊厳を守る医療の一端を担っていきたいと強く思った。」「薬害のない社会を目指すには、一人ひとりの薬剤師が高い倫理観と責任感を持ち、患者にとって本当に必要な薬物療法とは何かを常に問い続ける姿勢が不可欠である。」「病に苦しむ患者に誠実である事こそが、私たち薬学を志す者にとって最も重要な倫理であると私は改めて実感した。」	実施していない
39	同志社女子大学	早期体験学習Ⅰ	1年次	本人	血液製剤によるHIV感染	医薬品による有害作用の内容については繰り返し講義で触れているが、現実被害者を目の当たりにすると、学生にとって、非常に強い当事者意識をもつこととなる。本学では、1年次の「早期体験学習」において、あまり専門知識を必要としない内容で、薬には負の面もありうるという事例として、4年次においては、実務実習を目前にした薬剤師の卵として、より専門的な面から、薬害被害者の方に実体験を語っていただいている。薬害の歴史について2コマで学修した後、薬害被害者の声を直接聞くことにより、学生の薬害を起こさない取り組みへの使命感が強まると考えられる。	例年、学生のレポートから、強い感銘を受けたことが伝わってくる。「早期体験学習」では、単純に「薬害というものがあるのだ」と初めて知ったという感想が多いが、4年次生では、実務実習の準備段階である事前学習の最中であり、より自分のこととして、また将来の薬剤師としての業務と直接結びつけた決意を表明する学生が多い。異なる薬害被害者の方からの発言で共通しているものの一つに、「薬害を防ぐのは薬剤師が最後の砦です」というものがあり、「薬害は行政や製薬会社の責任」とする安易な姿勢に流されず、これに向き合っており、当事者意識を強く持ったというレポートが数多く提出されることが印象深い。	薬害の種類によって、医学・薬学的専門知識が必要な場合と、問題の理解にはそれほど専門知識が必要ないものがあり、専門科目の進捗度に合わせ、低学年・高学年にわけて行うことは、教育効果が高いと考えられる。また、一口に薬害と言っても、医学・薬学的問題以外に、社会学的問題などが関係して多種多様であり、それぞれについての理解を深めるには、講義ではカバーできない点も多く、できるだけ多くの例を紹介すべきだと考える。
		医療安全性学	4年次	本人	陣痛促進剤被害			
40	立命館大学	薬学応用演習	2年次	本人	サリドマイド HIV クロイツフェルト・ヤコブ病 スモン 肝炎 筋短縮症	薬害被害者の方やご家族の苦痛について直接お話しいただき、グループ学習に加わっていただくことで、学生の理解がより深まり、将来の医療人として二度と薬害が起こらないようにとの自覚が高まる。発表会にも薬害被害者の方が参加してくださり、学生の発表に対してもコメントしていただけるので、有意義な会となっている。	学生から提出されたミレポートより一部抜粋 ・多くのことを学べた ・更に理解が深まった ・事前の発表準備で担当の薬害について調べ、どのような被害があり、医療関係者が薬害を防ぐため何ができているかを考えていた。しかしお話を伺う中で、被害者や家族の方々は、実際に被害に遭っていない人には全てを押し量ることができない、苦痛や憤りを感じているとわかった。そして、薬害の根絶の重要性を痛感した。 他	薬害ごとにグループ分けし、各グループに薬害被害者の方や教員が入りグループ学習を行う。最後に発表会を行うことで共有しているため、効果的である。特に、薬害被害者の方々からのコメントは有意義である。

No.	大学名	授業科目名 (特別講義名)又は 講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット（有意義な点・利点）	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業を実施することの効果
41	大阪医科薬科大学	多職種連携論2 -医療と専門職	2年次	未定	B型肝炎	※「多職種連携論2-医療と専門職」については、令和6年度実施よりこの講義をうけて、より具体的に何が問題で、その被害が発生したのか、薬害の発生する課程や、また再発防止のために何ができた/できるのか、を学生が考えることができる。	・薬害は薬の副作用だけで起きるものでは無いことを知った。疾病による差別をなくすために薬剤師は何ができるのかを考える機会になった。 ・B型肝炎ウイルスによって苦しんでいる人がいるという事は知ってたしコマーシャル等でも耳にする機会があるが、くわしい情報を全く知らなかったので、今回で色々知れて良かった。 二度と同じ事を起こさない為に、過去の薬害と向き合って、学んで、薬による被害者を出さないようにしないと感じた。私も学生のうちに沢山の知識を付けて社会に貢献できるようにしたいと思った。 等という感想があった。	薬害について、被害にあわれた方の意見・体験等を直接聞く機会等を複数回設けることで、再発防止について議論をするなど、薬害に関する理解を深めることが出来ている。
		多職種連携論3 -医療倫理	3年次	本人 家族	サリドマイド 陣痛促進剤			
42	大阪大谷大学	医療倫理学演習	2年次	本人 家族	注射による筋拘縮症 MMRワクチンほか	被害者及びその家族の声を直接お聴きすることは、将来医療従事者として医療の現場に出る薬学生たちにとってかけがえない経験になると考える。また、医療の倫理的側面に目を向け、自分自身の倫理観や正義感、人間性を深めさせる上で非常に有効であり、薬学生として、単に知識や技術を修得すればよいのではないことを認識する機会となる。さらに、安全性を確保するための医薬品の開発及び供給に係るシステムやレギュレーション、救済の制度を含めた総合的な知識の修得、理解を促し、医療専門職としての薬剤師に求められることや、患者とそこそご家族の真の救済のために果たすべき役割、社会的使命に対する自覚を促す契機となる。	例年通り、学生達の授業に取り組む姿勢は通常の授業より緊張感・真剣味が感じられ、質疑においても各講師の講演に対して深謝するところから始めるなど、課題や討論に真摯に向き合う態度が認められた。また今年度は、講演の翌週に討議を行い、自分自身で考える期間を設けたためか討議でいろいろと意見をかわす学生の活発度が上がった気がする。 ・薬害について向き合い、知ることを心がけようと思います。 ・薬剤師として、このようなことが起きないように薬の適切な使用方法をきちんと理解し、患者様に伝えていくことが大切であると思いました。 ・「自分には関係ないや」「昔の事で今からは無いだろう」という考えにはならなくて、二度と起こさないように、国に対しても製薬会社にも薬に関わる人みんなが協力することが本当に大切だと思いました。 など、他人事ではなく自分事とらえ、今後薬剤師になった際にもしっかりと向かい合うべきであるという考えが芽生え始めたと思う。	前年度に引き続き、「筋拘縮症」（被害者）と「MMRワクチン」（被害家族）の組み合わせで実施し総合討論ならびに後日のSGDを実施した。 本年度は、講師（薬害被害者）が遠方（北海道）ではあったが現地まで来ていただき、近隣から電動車いすを使用している被害者の方もご同行いただき、学生は薬害の被害を目の当たりにすることとなった。学生たちは教材で学ぶだけでなく実際に会えることでしっかりと薬害に向き合うことができたと考えられる。 また、本授業デザインの特徴は、薬害被害者とその家族という異なった視点からの話を拝聴し、総合的に討論できる点と、副作用被害者救済制度の普及・活用を含めた、多角的視点を与え討論できる点で効果的であると考えている。また、授業のテーマの課題である「薬害の防止や被害者及びその家族の（真の）救済において薬剤師はどのような責任や役割を果たしていくべきか。」という問に対する解答及びヒントを求める機会を学生に与えることができる。一方、講師を務められる被害者及び家族からは、毎年、医療専門職となる学生たちが薬害の被害者の話に耳を傾け、薬害の背景について学び、真剣に議論・質疑する姿を目の当たりにする機会が得られたことに対して感謝する声をいただいている。このように、こうした教育活動への参画自体が、薬害被害者に対しても、他の啓蒙活動や被害者救済活動への参画とは違った格別の効果を有しており、重要な役割を果たしているものと思われる。

No.	大学名	授業科目名 (特別講義名)又は 講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット（有意義な点・利点）	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業を実施することの効果
43	近畿大学	早期体験学習 (薬害講演会)	1年次	本人	サリドマイド	1. 医療・医薬品の安全性に関する認識を深めることができる。 2. 医薬品の安全かつ適正使用に関して認識を深めることができる。 3. 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段について知ることができる。 4. 医療・医薬品の安全供給の大切さを理解できる。 5. 医療人として薬剤師が果たせる役割を認識し、薬害防止に努めることが理解できる	・「薬害の本質は人為的な判断や対応ミスにある」と気づかされた。 ・「薬を使う人、処方する人、承認する人、販売する人」すべてが関与しており、その責任と影響を重く受け止めた。 ・被害者である間宮氏の実体験（就学拒否や社会的偏見など）を通じ、教科書では得られない「生きた知識」として薬害を学ぶことができた。 ・一人の人生への深刻な影響が、心に強く残った。 ・「薬を安全に使うために、十分な説明と確認が必要」という意識が高まり、将来医療職に就く立場としての自覚が芽生えた。 ・特に妊娠の可能性など個別事情への配慮と説明責任の重要性を感じた。 ・「薬害について学校で教わってこなかった」ことに違和感を覚え、教育現場でもっと被害者の声を聞くような講義を取り扱うべきだと思った。 ・被害者に対して「かわいそう」や「心配」といった一方的な善意が、かえって失礼や不快感につながることへの理解が深まった。 ・「必要としている支援をまず本人から聞くことが重要」という考え方に共感した。	サリドマイドのみの実施のため割愛
		医薬品開発論	2年次	本人	サリドマイド			
44	摂南大学	薬学基礎演習Ⅰ	1年次	家族	陣痛促進剤被害	当事者（家族）の話を聞くことで、薬害を発生させないための行動を認識し、より責任を自覚することにつながる。	医療現場における説明責任と患者自身の選択権について深く考える機会となったとの反応があった。	特になし
45	神戸学院大学	医療の中の薬学	2年次	本人	サリドマイド薬害	薬害被害者の方のご講演は、学生が、薬剤師のあり方や倫理規範等を考える上で大変貴重な機会になっていると思われる。また、学生が薬害被害者の方（または患者様）とふれあい、社会のニーズを肌で感じることで、学生の学習モチベーションや、医療専門職としての自覚・責任感が向上していることが推察されます。	学生からは、概ね良好な反応が得られています。	さまざまな薬害について深く学ぶことは、医療職としての適正なかかわりを見出す上で、常にそれでよいのかという振り返りの姿勢の元ともなっています。
46	神戸薬科大学	初期体験臨床実習	1年次	本人	サリドマイド	医薬品開発と製造後の実際を理解するために、各プロセスに関する基本的な知識を習得し、社会的重要性に目を向ける態度を身につける。	薬害の種類によりその発生要因は大きく異なるため、多面的な問題点と対策を知るメリットがある。	1種類のみ
47	姫路獨協大学							
48	兵庫医科大学	医薬品安全性学	4年次	本人	スモン	学生が肌で感じる機会を提供することにより、教員から教わるのとは違った視点で問題を考えることができる。すなわち、薬害をより身近な問題として捉えることができ、薬害防止に関する意識の向上が期待できる。	学生は、非常に真剣な態度で講師の話に耳を傾けていた。講義後のレポート（感想文）では、副作用から薬害へ拡大を阻止することも薬剤師の職務であり、そのためには、患者や医療従事者との良好なコミュニケーションが大切であるとの意見・感想が多かった。	薬害については複数の種類ではないため、該当なし。
49	武庫川女子大学	初期演習Ⅱ (薬学科)	1年次	家族	陣痛促進剤（予定）	薬学科に学ぶ学生が、過去の薬害についてその原因と社会的背景を学び、今後薬剤師として社会に貢献する時、薬害発生を未然に防止することは、薬剤師の社会に対する大きな責務の一つである。薬学を学ぶ初期の段階でこの点について学ぶ事は大変重要である。薬害被害の方から、実際の生のお声をお聞きする講演討論会を開催することは、将来、薬剤師となる学生にとって大変有意義であると考えられる。	医薬品の適正使用の重要性を感じた。薬の知識だけでなく、過去にあった薬害と向き合うことの大切さを痛感した。将来、薬剤師として、薬に関する正しい知識を身につけ、患者さんに十分な説明をしたい、自分の利益より患者さんの健康の安全を優先できる薬剤師になるべきだと感じた。医療チームの一員として、自分が異変に気がついたら声をあげられるような勇気を持つことが必要だと思った。積極的に患者さんと関わり、患者さんの立場に立って考える必要があると思った。（2024年度 学生）	なし

No.	大学名	授業科目名 (特別講義名)又は 講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット（有意義な点・利点）	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業を実施することの効果
50	就実大学							
51	広島国際大学	薬学へのいざない	1年次	本人	サリドマイド	被害者の語りを聴くことにより、その人と出会い、その人の証人の一人となって、それぞれの人を尊重することの重要性に気付くことができる。代替の効かない個人の語りを通して、聴き手である学生は自らストーリーを組み立てることによって感じ取り、相手のことを理解できるようになる。これらの過程で、ナラティブコンピテンスの醸成につながる。	被害者や家族の心境を想像できるようになってきた。薬害は薬の問題ではなく人の問題であるという点について理解が深まった。在学時、そして卒業後に醸成していかなければならない力に気付くことができるようになった。また、医療従事者が差別を助長する行動をとっていたことに驚き、その理由が正しい知識の欠如にあることに気付き、教育の重要性、そして周囲の人に伝えることの重要性を認識するようになった。	被害者の語りを聴くことにより、その人と出会い、その人の証人の一人となって、それぞれの人を尊重することの重要性に気付くことができる。代替の効かない個人の語りを通して、聴き手である学生は自らストーリーを組み立てることによって感じ取り、相手のことを理解できるようになる。これらを繰り返し実施できるため、プロフェッショナリズムに必要な人間性について醸成ができてくる。
52	福山大学	生命倫理	3年次	本人	サリドマイド	学生が自ら考える能力を涵養することに繋がる。	薬剤師として考えるべきことの視野が広がったことが、講演後のレポートから判断できる。	科学的な視点に加えて、倫理的な問題を考慮する姿勢が深まる。
53	安田女子大学	薬害を知る （「まほろば教養ゼミ」内）	3、4、5、6年次	本人	陣痛促進剤	医薬品を適正に使用することの重要性を学び、医療従事者に求められる良識的かつ公正な態度を醸成するための良い機会となっている。	将来、人の命に関わる職業に就く者として、責任があることを常に忘れず勉学に励みたい、等の感想が寄せられており、薬剤師に必要な倫理観、使命感の醸成に繋がっている。	6年間を通して様々な薬害に関して被害者の声を直接聞くことにより、座学で学んだ内容をより深く理解すると共に、医療従事者としてのプロフェッショナリズムを醸成する良い機会となっている。
54	徳島文理大学	薬学概論	1年次	本人	スモン	学生に被害の実態を感じてもらいやすい	現時点で実施前である	被害の状況の違いが理解しやすい
55	徳島文理大学 （香川薬学部）	医療倫理学	2年次	本人	サリドマイド	薬の効果について、あまり深く意識せず過ごしている学生に、薬はそれによって人の生命・健康維持に大きく貢献しているが、一方で使用を誤ると生命に直接影響を及ぼすものであるということ深く印象付けることができる。加えて、被害者自身による講義は、薬剤師あるいは薬の創製をめざす学生に、責任ある職種であることの自覚喚起をもたらすものである。	サリドマイド被害者を目の当たりにして、本来人間の健康を守るはずの薬が、健康を損ない、奇形を発生し、場合により死に至ることを学生達は実感する。このサリドマイドが多発性骨髄腫の治療薬として2008年に日本で再び承認された事実を知り、驚きを隠せない様子である。しかし、サリドマイドはハンセン氏病に伴う皮膚炎の治療薬として既にアメリカで販売が承認されており、薬の持つ2面性と、これに係わる研究者、製薬企業、薬剤師の倫理観の重要性を改めて理解することができる。また、サリドマイドには光学異性体であるR体とS体が存在し、R体に鎮静・催眠作用があることがわかったが、当時この分離法が成熟していなかったため悲劇に繋がった。しかし、後にR体も体内でS体に変化することやサリドマイド投与による動物種差が明らかになり、この事件をきっかけに新薬の構造・物性評価がより厳密に行われるようになった。これにより、人類は貴重な教訓を得ることになり、薬剤師として将来活躍する学生にとっても薬害問題、創薬及び市販後調査について真剣に考える機会を与える講義となっている。	複数の薬害について被害者から聞く授業を行っていない。
56	松山大学	薬剤師と医療	1年次	本人	サリドマイド	特別講師の実体験をもとに薬害について学べることは、医療機関等における体験学習などと同様に、直接的な関心・感動をもたらし、将来の医療人としての自覚を醸成する上で極めて有意義である。医療人としての自覚、薬の問題点に対する認識、副作用被害に対する国の制度に関する知識、薬剤師としての対応などについて低学年から学ぶことで薬学部で学ぶ意義を再認識し、勉学に対するモチベーションを高めることが出来る。	薬害を学ぶことの意義については、概ね肯定的な感想が得られている。たとえば、「実際の患者さんの話も聞きながら、薬害防止についても学べる貴重な体験をした。患者さんとのコミュニケーションや医師との連携を大切に、副作用が少しでも防げたら良い。薬剤師は患者様の体調や異変に気づき、適切な治療が受けられるように受診を勧めることが大切だ」との感想、「将来の薬剤師となる上で『決して薬害を起こしてはならない』という基本的な心構えが出来た」という感想、「薬害被害者の講演に続けて、グループ・ディスカッションを行うことによりさらに理解が深まった」といった感想があった。	1年次2年次3年次と続けて、異なる種類の薬害について学ぶメリットについて肯定的な感想が学生から寄せられている。
		医療倫理1, 2	2、3年次	本人	薬害エイズ			

No.	大学名	授業科目名 (特別講義名)又は 講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット（有意義な点・利点）	学生の反応・感想	複数種類の薬害の授業を実施することの効果
57	第一薬科大学	医療概論	1年次	本人	サリドマイドC型肝炎	実体験を踏まえた講義を受けることにより、薬害に対する問題意識や薬剤師の使命・医療人との関わり等についてイメージしやすい。	実施後に検討する。	実施後に検討する。
58	福岡大学	医薬品安全性学	3年次	本人	スモン	薬害被害者から薬害に関する生の声を聞くことによって、学生へ薬害について真剣に考える機会を与えることができる。そして、医薬品の適正使用における薬剤師の役割を理解し、医療、社会における薬学の役割、薬剤師の使命を知ることができる。	薬害被害者の生の声を聞くことで、薬害について真剣に考えるようになった。そして、今後薬剤師として生きていく自身の責任の重さを痛感し、良質な医療人になることへの強い意識を見ることができた。	回答なし
59	国際医療福祉大学 (福岡薬学部)	早期体験実習 (薬害講義)	1年次	本人	C型肝炎	薬害の事例を学ぶことで、学生は薬剤師としての倫理観や責任感を早期に育むことができ、医薬品の安全性と患者の健康に対する意識を高め、薬剤師としてのプロフェッショナリズムの基礎を培うことができる。薬学部1年生に対する薬害の講義は非常に有意義であり、将来の薬剤師としての基礎を築くための重要な教育となり得る。	C型肝炎など、日常生活ではなかなか実感できない「薬害」について学び、薬害が起こらない社会の実現に向けて理解を深めることができた。学生からは「薬害に苦しんでいる人がこんなにも多くいることを初めて知った。薬害問題を繰り返してはいけないと強く感じた」といった感想が聞かれ、人権問題をふまえた発展的な学習ができたと考える。	臨床薬学、薬学概論や医薬品関連法規など、異なる視点から薬害について学ぶことで、学生は薬害の複雑さと多面的な影響を深く理解することができると考えられる。すなわち、臨床薬学、薬学概論では患者の視点から薬害の影響を学び、薬事関連法規では法的な側面や規制の重要性を理解していくことが可能となる。
60	長崎国際大学	薬学入門	1年次	本人	B型肝炎	まず弁護士の方に薬害に対する被害者団体の活動についてご説明いただき、次いで被害者ご自身に登壇していただき、ご自身の体験について語っていただいている。毎年、被害者団体・被害者の状況を生の声として学生に伝えていただいている。この講演は、薬剤師を目指す学生にとって有意義であり、学生も真剣に聞いている。薬害問題等、薬の負の部分の理解の一助になっている。	被害者本人の生の声、被害者や家族に関する意味の無い偏見を聞くことによって、B型肝炎をはじめとする薬害の真の意味の重大さとこれらを無くするためには、薬剤師として何をすべきかを考えさせる端緒となっている。	過去に、C型肝炎、スモン、HIV被害者やワクチン被害者の親等を招いて、講演をして頂いたが、内容によって反応は違う場合はあるが、薬学を学ぼうとする学生にとっては薬害の真の意味を理解するには一様に意義のある講演であると理解している。
61	崇城大学	薬学概論	1年次	本人	C型肝炎	学生が薬害について関心を持ち、真剣に考えるようになった。	薬学概論8回の授業終了後に課されるレポートで、例年多くの学生が上記授業内容に感銘を受けたという意見を書いている。	なし
62	九州医療科学大学	薬学入門	1年次	本人	HIV サリドマイド イレッサ	学生の薬害への関心・理解を深めることができる。また、将来薬剤師となったときに、薬の薬効について患者の意見を十分聞く大切さを理解させることができる。	始めて薬害を理解できたことや薬剤師としての患者の症状を聞く大切さを理解したようである。また、薬剤師は科学者として症状を分析できる能力が必要であることを理解した学生もいる。	様々な薬害があり、多くの事例を知ることにより、薬の薬効に対する薬剤師としての判断が変わってくること、常に副反応に注意を向けなければならないこと理解したようである。 なお、次年度よりB型肝炎被害者様の講話を計画中である。

令和7年度全国薬害被害者団体連絡協議会の要望に関する調査の集計結果(附属病院関係)

① 薬害被害者や医療被害者、全国薬害被害者団体連絡協議会の関係者を講師に招いた職員研修等の実施状況 (調査対象:42国立大学病院(医系本院))

令和3年度 12/42大学

令和4年度 12/42大学

令和5年度 13/42大学

令和6年度 10/42大学

令和7年度 10/42大学(令和7年7月時点での実施予定)

② カルテ開示請求の周知状況 (調査対象:42国立大学病院、8公立大学病院、31私立大学病院(医系本院))

カルテ開示請求ができる旨を周知している大学 81/81大学

③ カルテ開示請求の開示状況

(調査対象:42国立大学病院、8公立大学病院、31私立大学病院(医系本院))

請求者	令和4年度(令和4年4月～令和5年3月)				令和5年度(令和5年4月～令和6年3月)				令和6年度(令和6年4月～令和7年3月)			
	請求件数	開示件数	不開示件数	未確定件数	請求件数	開示件数	不開示件数	未確定件数	請求件数	開示件数	不開示件数	未確定件数
	A=B+C+D	B	C	D	E=F+G+H	F	G	H	I=J+K+L	J	K	L
患者本人 (法定代理人を含む)	5,044	4,865	157	22	4,897	4,749	127	21	5,168	5,019	128	21
家族	667	651	15	1	677	655	20	2	719	687	27	5
遺族	890	848	40	2	969	907	62	0	951	897	54	0
代理人 (弁護士等)	3,212	2,936	272	4	3,622	3,230	392	0	4,673	4,113	560	0
その他	1,007	960	47	0	1,391	1,378	13	0	2,150	2,131	19	0
合 計	10,820	10,260	531	29	11,556	10,919	614	23	13,661	12,847	788	26

※未確定件数とは、開示に必要な手続きが完了していない件数である。

④ カルテの開示手数料及びコピー代

(調査対象:42国立大学病院、8公立大学病院、31私立大学病院(医系本院))

(1) カルテの開示手数料(税込)

(上段:令和6年度)

下段:令和7年度

	無料	1,000円～	2,000円～	3,000円～	4,000円～	5,000円～
国立大学病院	(42) 41	—	(0) 1	—	—	—
公立大学病院	(8) 8	—	—	—	—	—
私立大学病院	(2) 2	(1) 1	(2) 2	(11) 11	(2) 2	(13) 13

(2) 白黒コピー代(1枚あたり)(税込)

(上段:令和6年度)

下段:令和7年度

	無料(※)	10円～	20円～	30円～	40円～	50円～
国立大学病院	—	(1) 1	(32) 31	(6) 7	(2) 2	(1) 1
公立大学病院	—	(6) 6	(2) 2	—	—	—
私立大学病院	(2) 2	(8) 8	(9) 9	(4) 4	(1) 1	(7) 7

※ カルテ開示手数料に含まれるため、コピー代のみの価格設定なし

令和7年度全国薬害被害者団体連絡協議会の要望に関するカルテの保存年限に係る調査の集計結果(附属病院関係)

カルテの保存年限

(調査対象:42国立大学病院、8公立大学病院、31私立大学病院(医系本院)。令和7年7月時点)

(1)紙媒体の外来カルテの保存年限(現在の運用状況。”最終受診日から”の年限含む)

	5年	6～10年	11～15年	16～20年	21年以上	永年※	その他※※
国立大学病院	(11) 9	(17) 13	(1) 1	(9) 7	(0) 0	(3) 9	(1) 3
公立大学病院	(1) 3	(3) 2	(0) 0	(1) 1	(0) 0	(3) 2	(0) 0
私立大学病院	(10) 12	(12) 11	(1) 1	(4) 4	(0) 0	(1) 1	(3) 2

※運用上、永年保存。削除方針を決めていない。 など

※※電子カルテのみで紙カルテを保有していない。 など

(2)紙媒体の入院カルテの保存年限(現在の運用状況。”最終受診日から”の年限含む)

	5年	6～10年	11～15年	16～20年	21年以上	永年※	その他※※
国立大学病院	(10) 9	(16) 12	(0) 0	(13) 10	(1) 1	(1) 7	(1) 3
公立大学病院	(1) 3	(3) 2	(0) 0	(1) 1	(0) 0	(3) 2	(0) 0
私立大学病院	(5) 7	(13) 12	(0) 0	(8) 8	(0) 0	(2) 2	(3) 2

※運用上、永年保存。削除方針を決めていない。 など

※※電子カルテのみで紙カルテを保有していない。 など

(3)電子媒体の外来・入院カルテの保存年限(現在の運用状況。”最終受診日から”の年限含む)

	5年	6～10年	11～15年	16～20年	21年以上	永年※	その他※※
国立大学病院	(4) 1	(5) 2	(0) 0	(5) 2	(1) 1	(26) 35	(1) 1
公立大学病院	(1) 2	(1) 0	(0) 0	(1) 1	(0) 0	(5) 5	(0) 0
私立大学病院	(0) 0	(1) 1	(0) 0	(1) 2	(0) 0	(28) 28	(1) 0

※運用上、永年保存。削除方針を決めていない。 など

※※電子カルテ導入後全てのデータを保存しているが、今後保存年限について検討。